TOTO

施工指導書

ユニットバスルーム

ひろがる超低床JPシリーズ

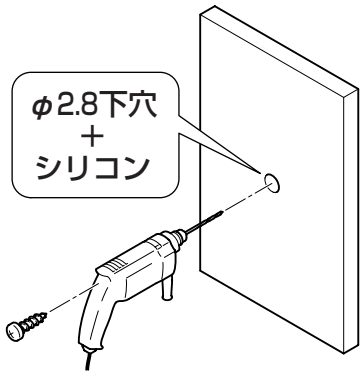
製品の機能が十分に発揮されるように、この施工指導書の内容にそって正しく組立ててください。
組立て後は、お客様に使用方法を十分にご説明ください。

従来品と施工要領が異なります。

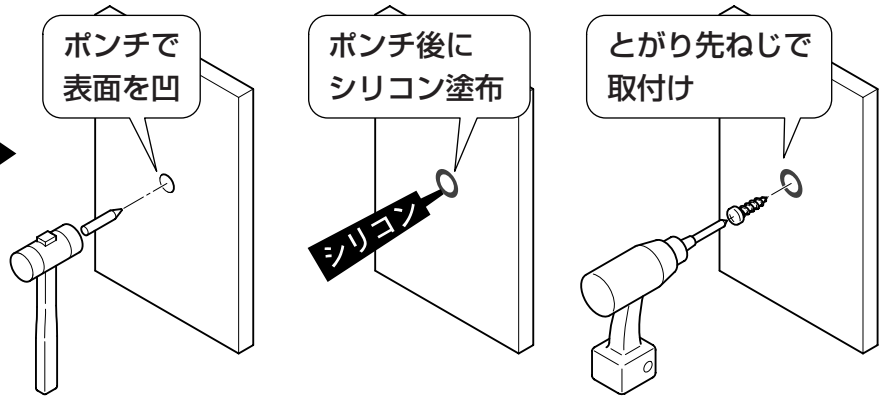
ねじの取付方法が変わります。
（切粉によるもらいサビ防止の為）

φ2.8下穴 ➡ ポンチ加工

従 来



今 回 下穴不用！



下記の器具は器具に付属のねじを使用せず、UB部材中に同梱されているとがりねじを使用すること。

- ハイクオリティ照明（丸形）
- ハイクオリティ照明（半球形）
- ハイクオリティ照明（角形）
- 半球形照明
- めっきタイプタオル掛け

施工者の皆様へ

施工要領書の改訂を実施しました。
（EKL64270N1→EKL64315）

改訂年月日	No.	内　　容	掲載代表ページ
2006年6月	1	防振脚の種類を変更	7
	2	浴槽目地の施工要領変更	25
	3	魔法びん浴槽セレクト時のふろふたフック仕様変更	64
2006年11月	4	埋込み水栓 温調ハンドル取付方法追加	53
2007年8月	5	浴槽固定の施工要領変更	30

目　次

安全上のご注意 2・3

施工要領

床外寸法墨出し 4

保温カバー取付（オプション） 5

床設置 6〜9
床パン据付高さの確認 ……6
床パン立てかけ時の注意 ……6
床パン支持脚の準備 ……6
ボルト差し替え ……7
床パン据付け・レベル調整 ……8
床パン立ておこし・ロックナット締付け ……8
床パン接着固定 ……8
水張りテスト ……9

躯体組立 10〜20
建具下トレイ取付（ジョイナー組立前） ……10
平ジョイナー補強材・ドア枠ジョイナーの取付 ……11
ジョイナー組立 ……12
壁のせ面1次コーキング ……13
2次ジョイナーのはめ込み ……13
パネル組立の準備 ……14
パネル養生紙のはくり ……14
パネルの建込み ……15
ドア枠の建込み ……18
天井パネルのはめ込み ……19
ドア枠の倒れ調整・固定 ……20

浴槽設置 21〜35
浴槽排水金具取付 ……21
排水弁カバー取付 ……22
バスハンガー取付 ……23
浴槽下2次コーキング ……23
ワンプッシュ排水栓取付 ……24
浴槽搬入・固定 ……25
浴槽目地取付要領 ……26
バスストッパー取付 ……30
水栓金具取付 ……31
エプロン支持材・ストッパー取付 ……34
浴槽エプロン取付 ……34

ドア取付 36〜46
開戸取付 ……36
開戸調整 ……37
折戸取付 ……38
折戸調整 ……39
引手の取付 ……40
2枚引戸枠の組立（全体図） ……41
2枚引戸枠の組立 ……42
2枚引戸取付材の取付 ……43
2枚引戸枠建込み ……44
ドア枠の倒れ調整 ……44
パネルの収納 ……45
把手の取付 ……45
下枠アタッチメント取付 ……46
障子の吊込み ……46
建付調整 ……46

カウンター取付 47〜58
カウンター（Sh）取付 ……47
タッチスイッチ水栓カウンター取付 ……50
スリムカウンター（フック付）取付 ……55
フロアカウンター取付 ……57

器具取付 59〜68
ワイドフルミラー、ワイドミラー、矩形ミラー ……59
スライドバー ……61
化粧棚取付 ……62
SP収納棚 ……63
フロフタフック取付 ……64
後付インテリアバー ……64
ドア外タオル掛け取付 ……65
照明 ……66
ダウンライト ……66
タオル掛け取付 ……67
ランドリーパイプ取付 ……68
トラップカバー・ヘアキャッチャーのセット ……68

オプション配管取付 69〜71
雑排水管取付 ……69
雑排水管経路 ……70
オプション配管（樹脂管）取付 ……71

仕上げ〜引渡し 72〜75
仕上げ（2次コーキング） ……72
ラベル貼付位置 ……73
ドア下枠カバー取付 ……74
清掃 ……75
自主検査 ……75
取扱説明書書類について ……75
廃棄物について ……75

安全上のご注意 (必ずお守りください)

据付け工事の前に、
この安全上の注意をよくお読みの上、
正しく据付けしてください。

◎ 表示内容を無視して誤った工事をしたときに生じる、危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠	**警告**	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠	**注意**	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

◎ お守りしていただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

⚠	この絵表示は気を付けていただきたい「注意喚起」の内容です。
❗	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。
⏚	この絵表示は、必ずアース線を接続していただく「強制」の内容です。

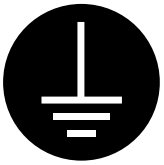
◎ 据付工事完了後、試運転及び各部の点検を行い、器具のがたつきや漏電・水漏れなどの安全上の不具合が無いことを確かめてください。

◎ 本体や水栓金具その他機器に同梱されている**取扱説明書は、**使用者に製品を正しく安全に使用していただくための**重要な書類**です。紛失や汚れのないように大切に保管し、工事完了後、必ず使用者または建築工事責任者にお渡しできるよう**シャワーヘッドまたはタオル掛けに一まとめにして吊るしてください。**

⚠警告

配線工事は関連する法令・規定にしたがって、必ず「有資格者」が行ってください。
接続や固定が不完全な場合は、火災や漏電のおそれがあります。

ユニットバスに組み込まれる電気機器・水栓などの付帯設備は、それぞれの商品に添付されている施工要領書・製品本体の注意表示を守り、正しく設置してください。
誤った設置をすると、思わぬ事故や故障の原因となります。



アース取り付けが必要な電気機器は、必ずアース線の接続工事を行ってください。
アース線の接続が不完全な場合は、火災や漏電のおそれがあります。

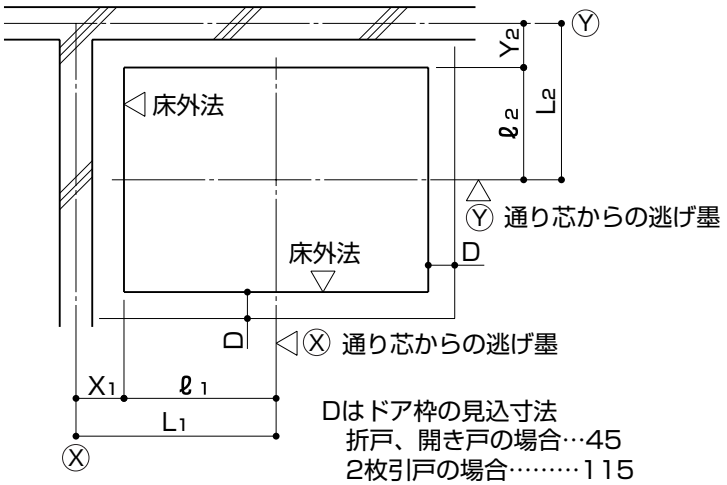
⚠注意

換気扇、鏡、握りバーなどの付属品は、指定位置に確実に取り付けてください。
使用中に落下したり外れたりして、ケガをすることがあります。

工事に使われる溶剤・洗剤・接着剤・その他薬品類は、容器などに記載の注意表示にしたがって、正しくお使いください。
誤った使い方をすると、人体に影響が出たり、使用部材の損傷や劣化の原因になります。

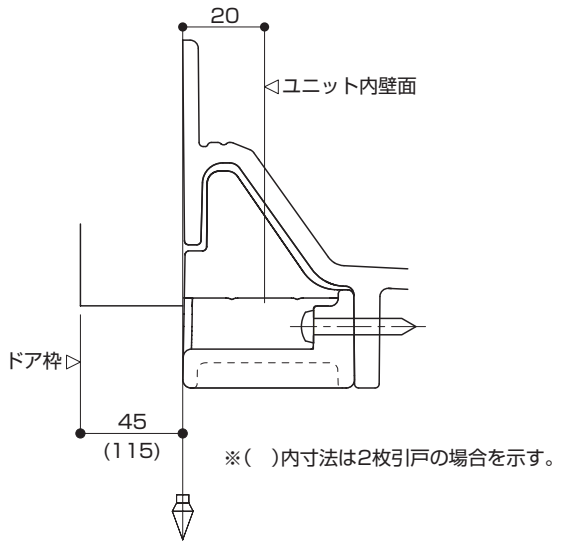
給水・給湯管、排水管は、添付されている施工要領書どおり確実に施工してください。
誤った施工をすると、水漏れを起こすことがあります。

床外寸法墨出し



Dはドア枠の見込寸法
折戸、開き戸の場合…45
2枚引戸の場合……115

記号	説　明
Ⓧ	X方向通り芯
Ⓨ	Y方向通り芯
L_1	Ⓧ通り芯からの逃げ墨
L_2	Ⓨ通り芯からの逃げ墨
X_1	Ⓧ通り芯からのユニット外法までの寸法
Y_2	Ⓨ通り芯からのユニット外法までの寸法

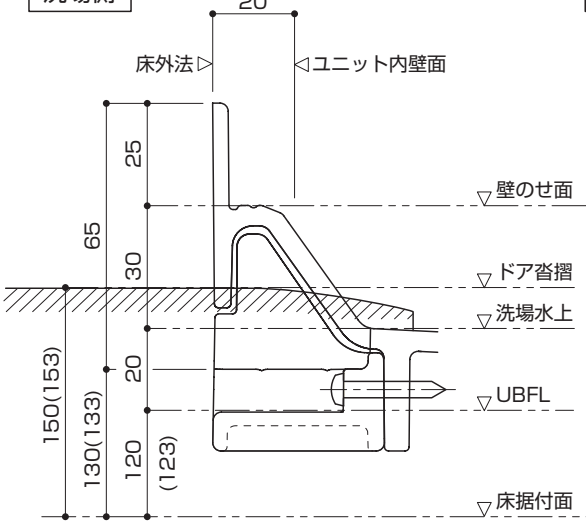


※(　)内寸法は2枚引戸の場合を示す。

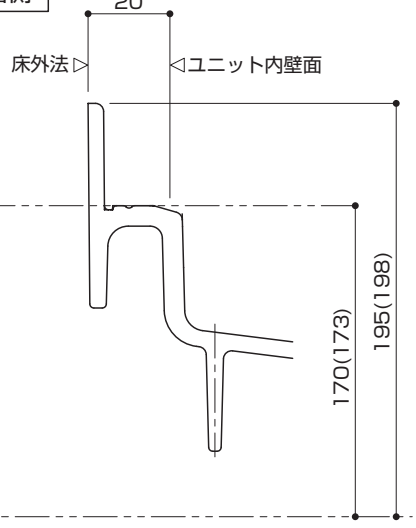
床外法は基本的にユニット内壁面＋40mm（片側20mm）です。

墨出し精度　±1mm以内

洗場側



浴槽側

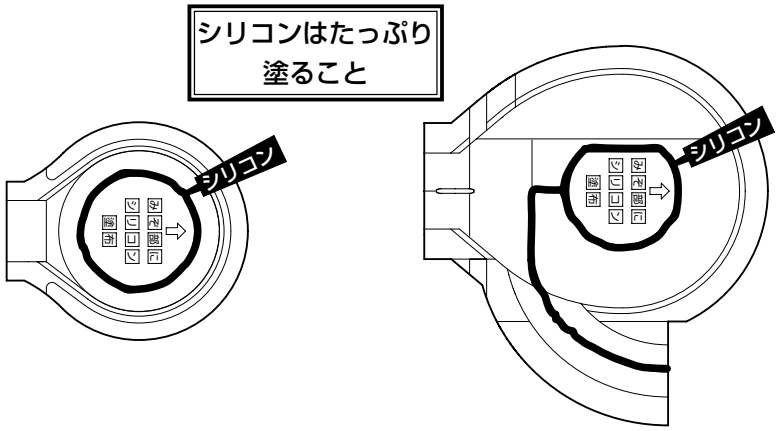


※(　)内寸法は1620の場合を示す。

保温カバー取付（オプション）

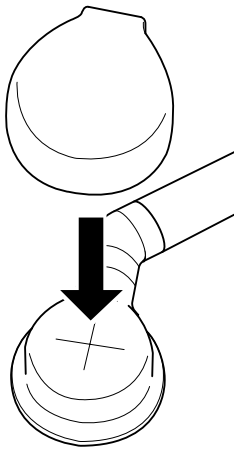
1 シリコン塗布

トラップ保温カバーはシリコンを使用し、排水トラップに
裏面より貼付ける。

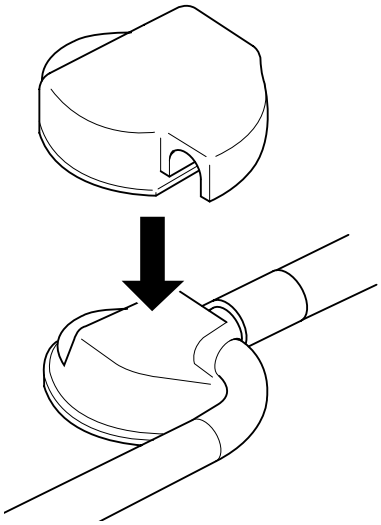


2 保温カバー貼付け

浴槽側トラップ

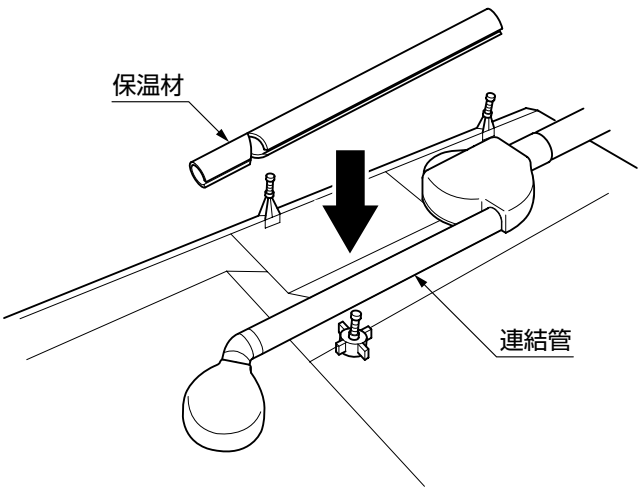


洗い場側トラップ



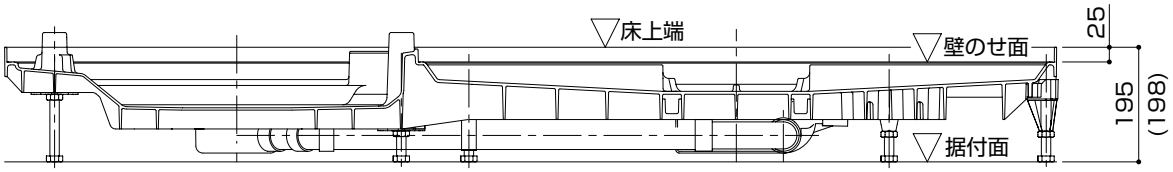
3 保温材取付

保温材をトラップ連結管に巻き付けて、
シールでとめる。



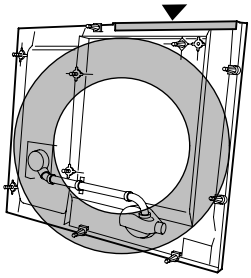
床パン据付高さの確認

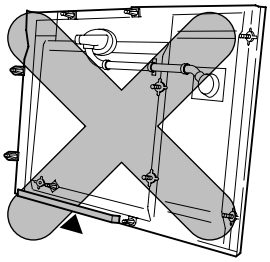
支持脚ボルト調整代= +35mm、−0mm



※( )内寸法は1620の場合を示す。

床パン立てかけ時の注意



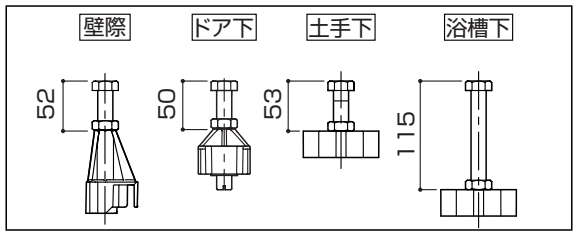


ドア辺(▲部)を下にして立てかけないこと。破損の原因となります。

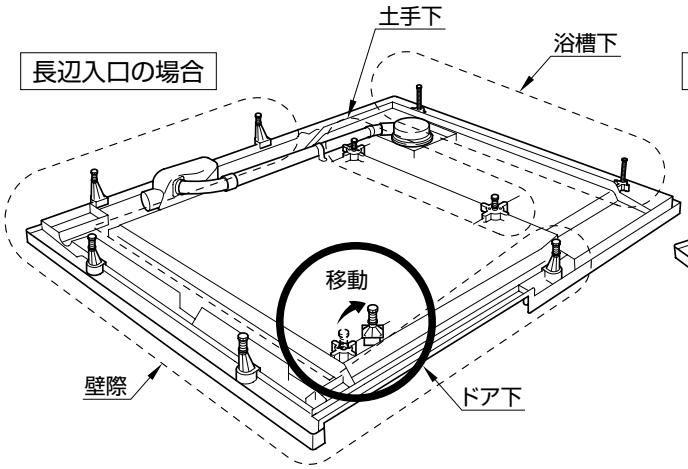
床パン支持脚の準備

①防振脚・据付高さを上げる場合はボルトを差替える。
（次ページ参照）
②ドア前の支持脚ボルトを所定の位置に付替える。

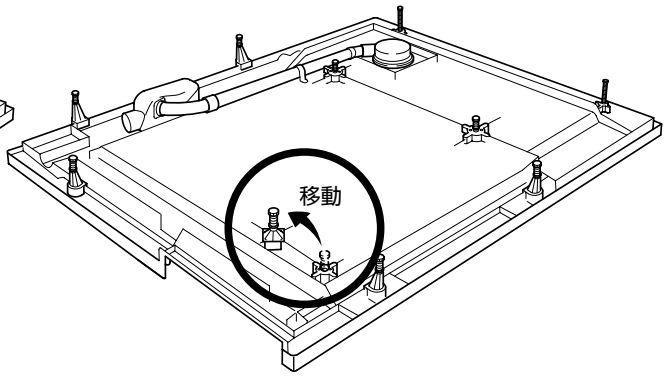
各支持脚のボルト飛出し寸法



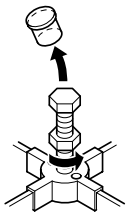
長辺入口の場合



短辺入口の場合



③ロックナットをゆるめておく。



半透明のキャップは
外しておく。

ゆるめる
10本

ボルト差し替え

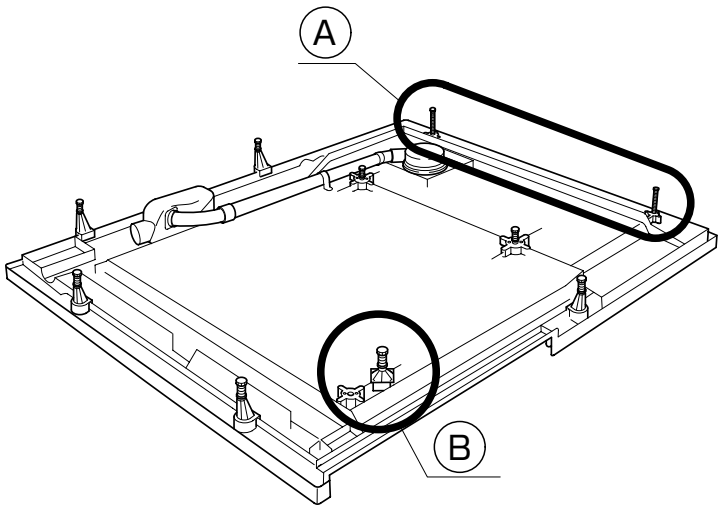
※Ⓑのドア前支持脚の位置は入口によって変わります。
（内容は前ページ参照）

床高さアップ

Ⓐ×2本　L=205

Ⓑ×1本　L=140

上記以外7本　L=150

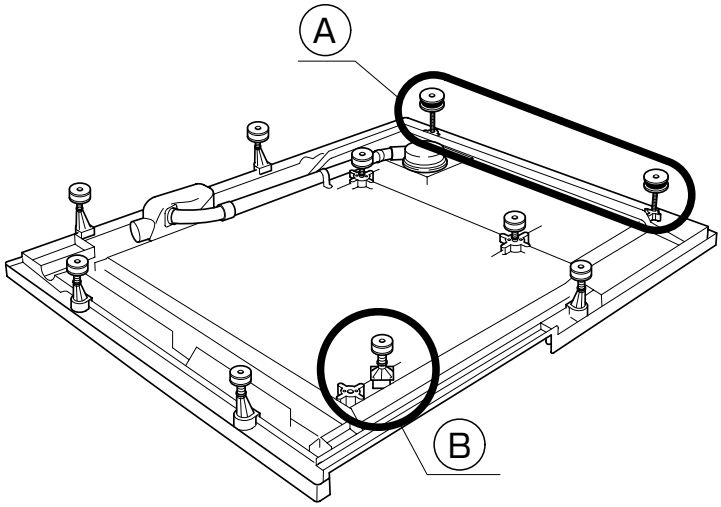


防振脚

Ⓐ×2本　L=155　φ69

Ⓑ×1本　L=90　φ57

上記以外7本　L=95　φ57

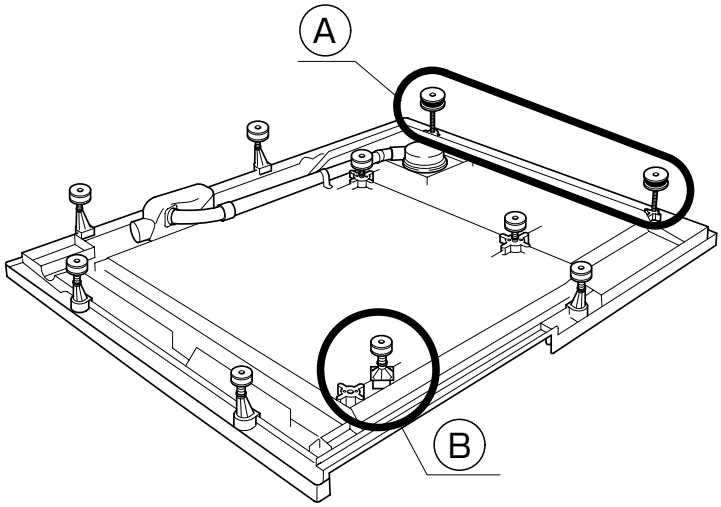


防振脚＋床高さアップ

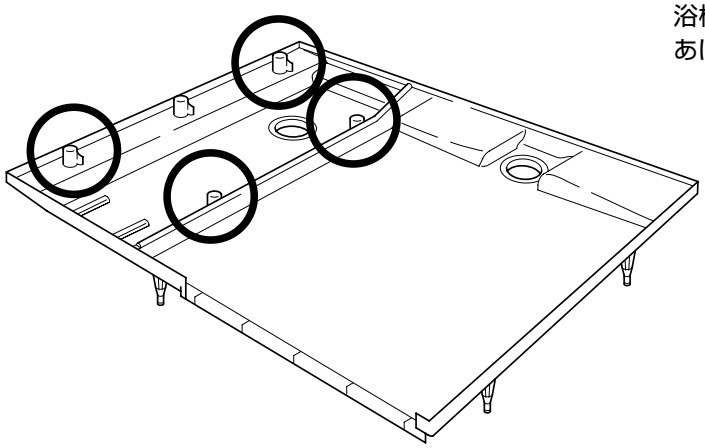
Ⓐ×2本　L=190　φ69

Ⓑ×1本　L=120　φ57

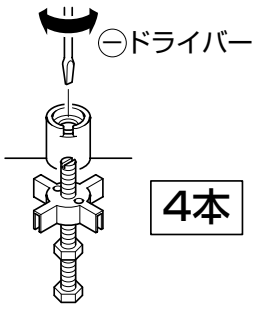
上記以外7本　L=125　φ57



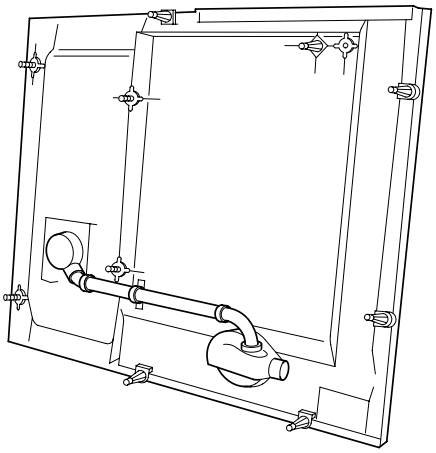
床パン据付け・レベル調整



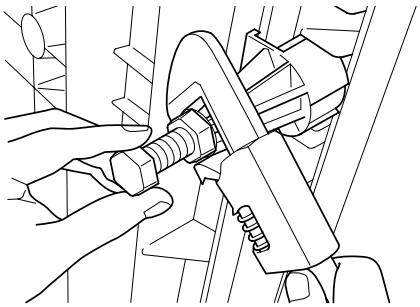
浴槽側の4ヵ所の支持脚は必要に応じてφ10穴をあけ、床上から高さ調整する。



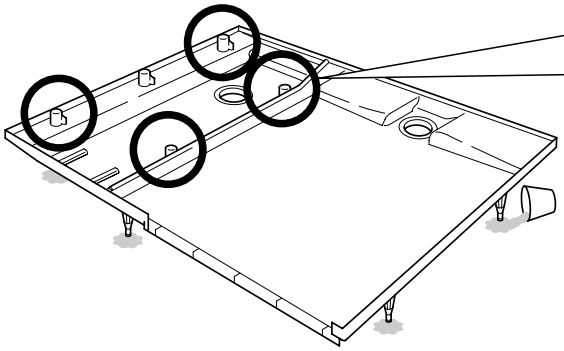
床パン立ておこし・ロックナット締付け



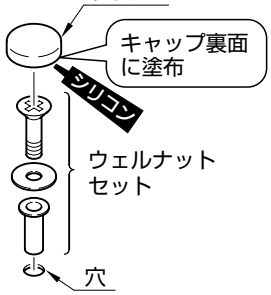
高さが変わらないように押さえて回す。



床パン接着固定



㊉ドライバーで空回りするまで締め付ける。



4ケ所

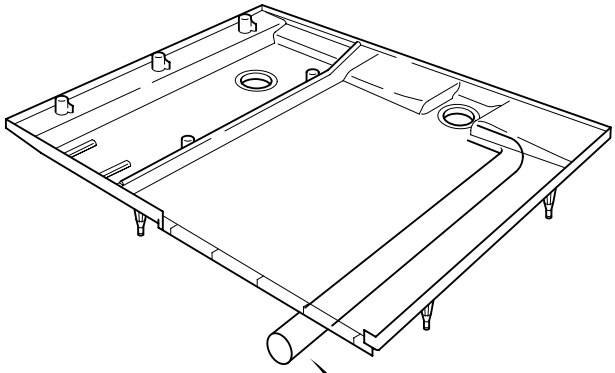
⚠ 注意 床接着剤（ルビロン）はあらかじめ所定の位置に垂らしておいてから床パンを設置してください。防振脚仕様の場合は、上から垂らして防振材を覆わないでください。

⚠ 注意 接着剤は設置必要寸法よりはみ出さないよう注意すること。

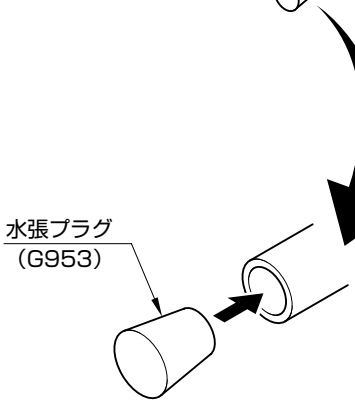
水張りテスト

1 水張りテスト

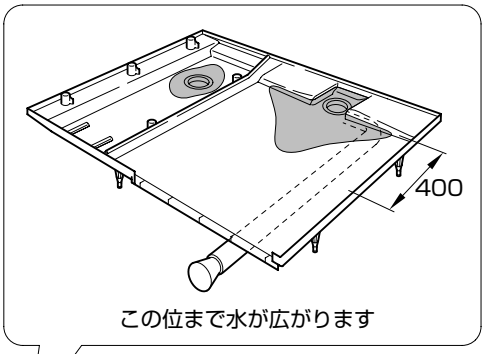
※水張プラグは標準セット部品ではありません。



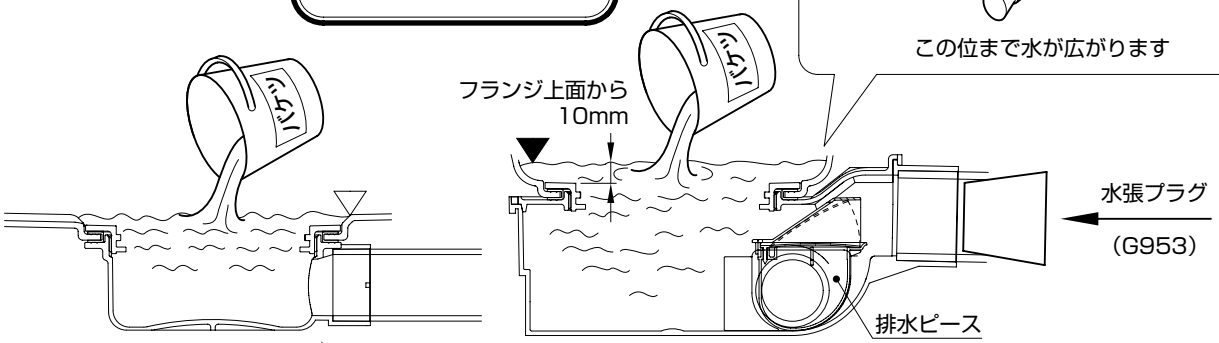
床接着剤が硬化するまで養生し、トラップの水張りテストを行う。



栓をセットする。



必ず洗場側と浴槽側の
両方から水を注ぐこと



浴槽側トラップ

洗場側トラップ

トラップ水張りは、▽と▼のレベルまで、水を溜めた状態で30分間放置する。

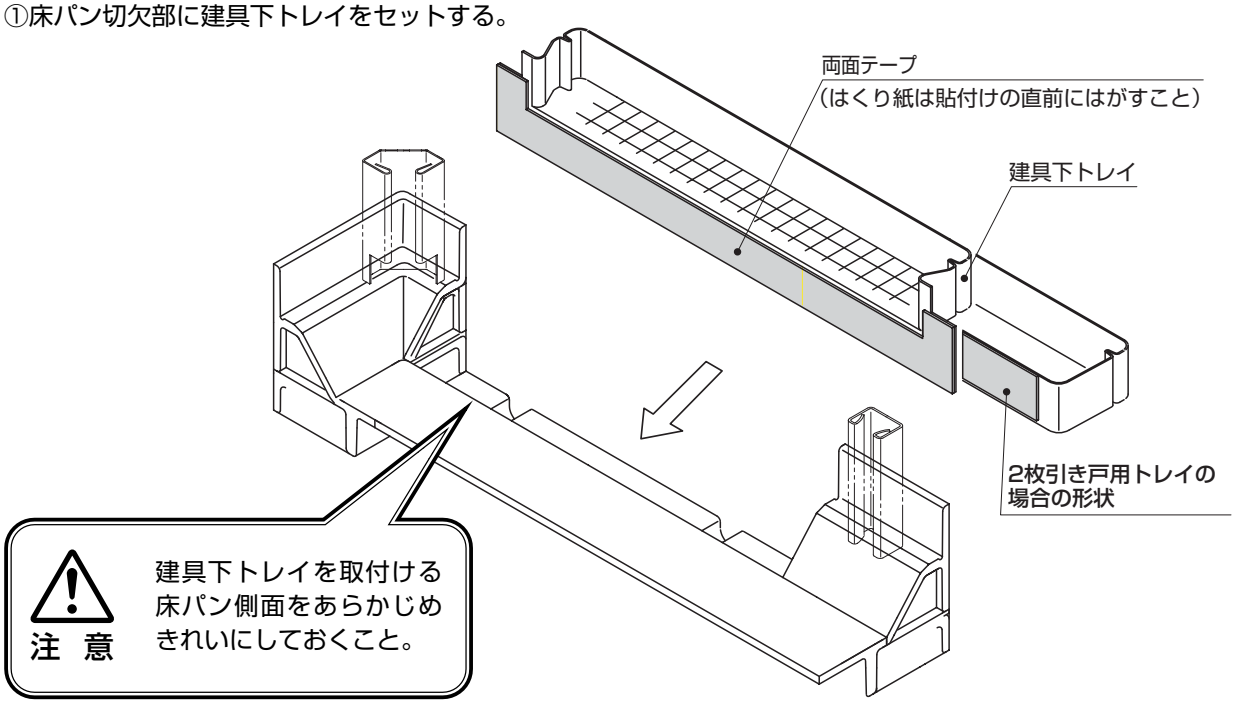
漏水の無いこと。

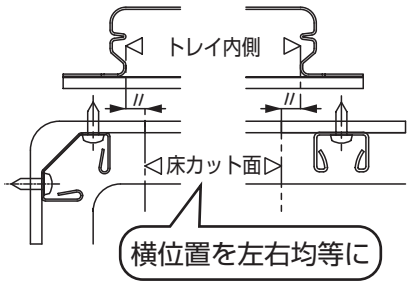
確認後、必ず栓を抜き取り水処理を行うこと。

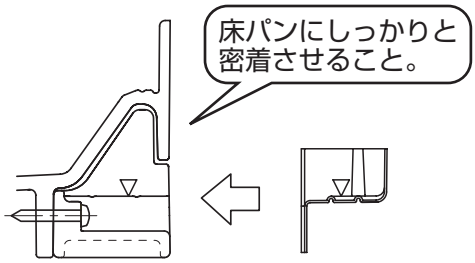
注 意 必ず排水ピースをつけたままテストを行ってください。
排水ピースをつけていないと、▼の部分まで水がたまりません。

建具下トレイ取付（ジョイナー組立前）

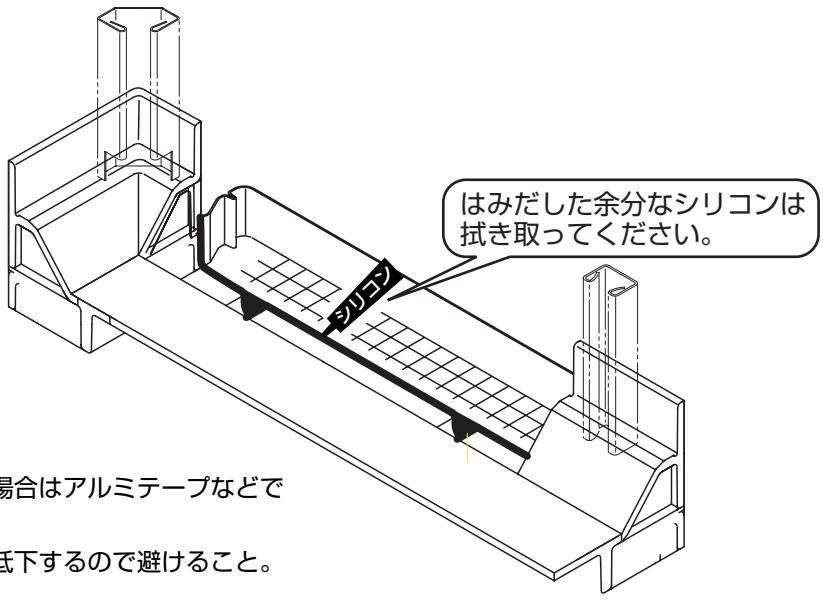
①床パン切欠部に建具下トレイをセットする。







②床パンと建具トレイの継ぎ目にシリコンを充てんする。

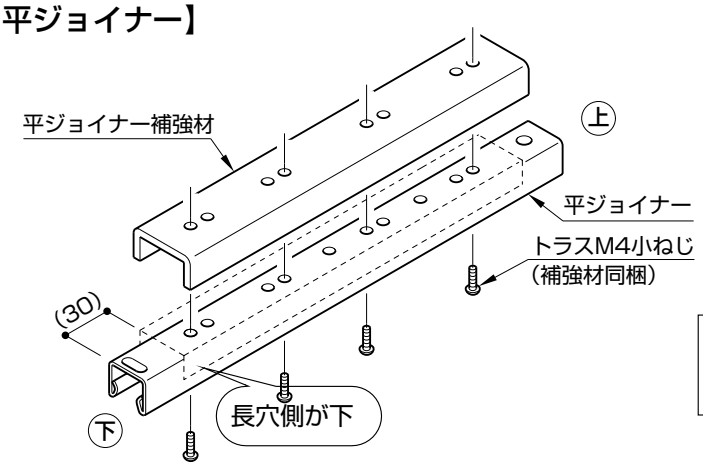


※建具下トレイを誤って破損させた場合はアルミテープなどで
補修すること。
※両面テープの貼り直しは粘着力が低下するので避けること。

平ジョイナー補強材・ドア枠ジョイナーの取付

1 事前準備

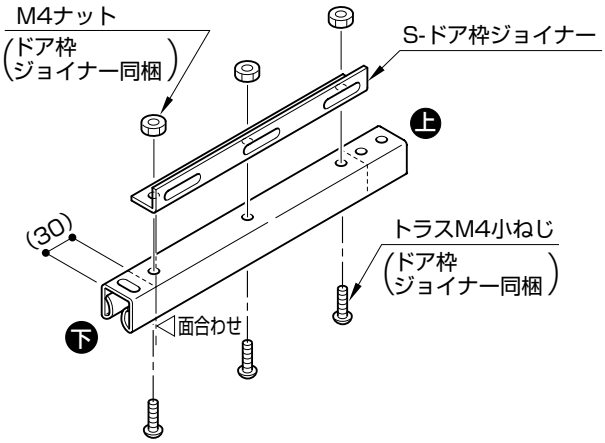
【平ジョイナー】

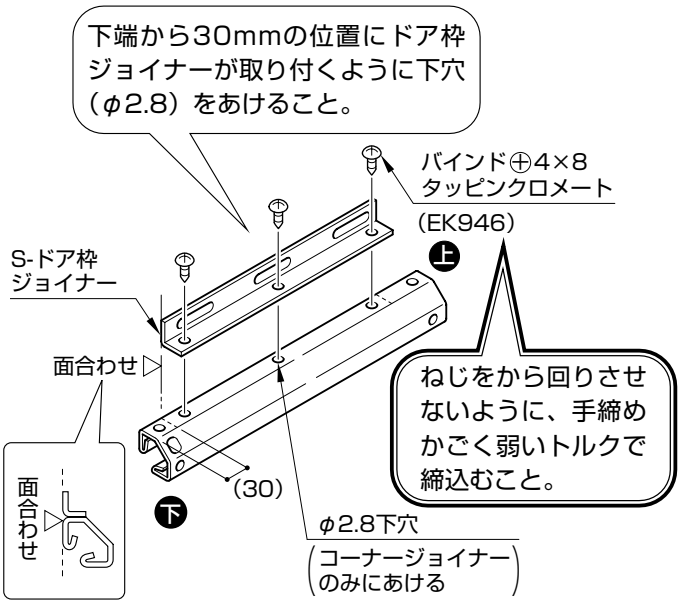


平ジョイナー補強材をドア横以外の平ジョイナーに取付ける。

【ドア枠ジョイナー】

ドアの両側2本のジョイナーに取付ける。



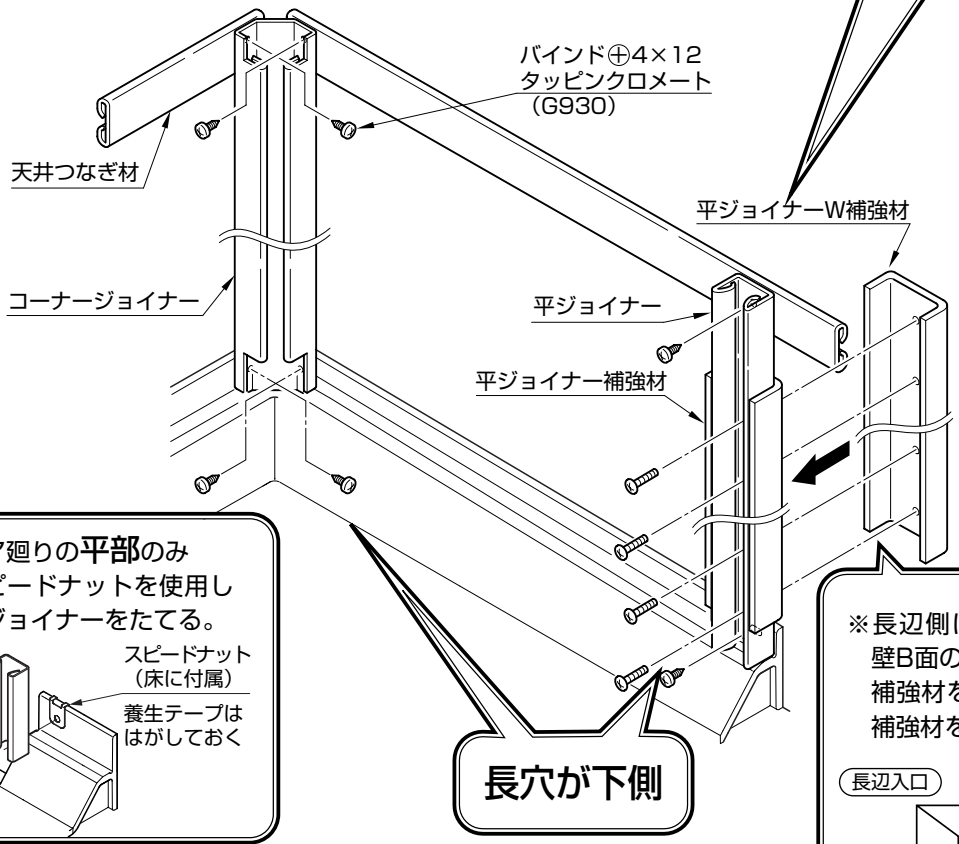


ジョイナー組立

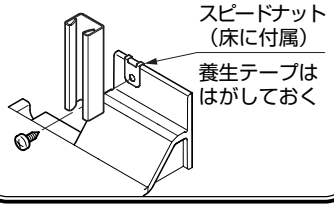
1 ジョイナー固定

①コーナージョイナーを床パンに固定。
②コーナージョイナー間に天井つなぎ材を固定。
③平ジョイナーを固定。

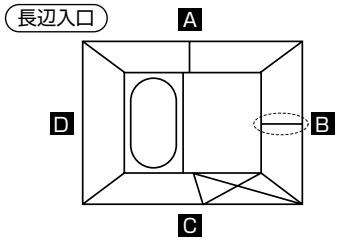
平ジョイナーは倒壊防止の為、いったん床パンの壁のせ面に載せてから、天井つなぎ材→床パンの順に固定する。



※ドア廻りの**平部**のみ
スピードナットを使用してジョイナーをたてる。

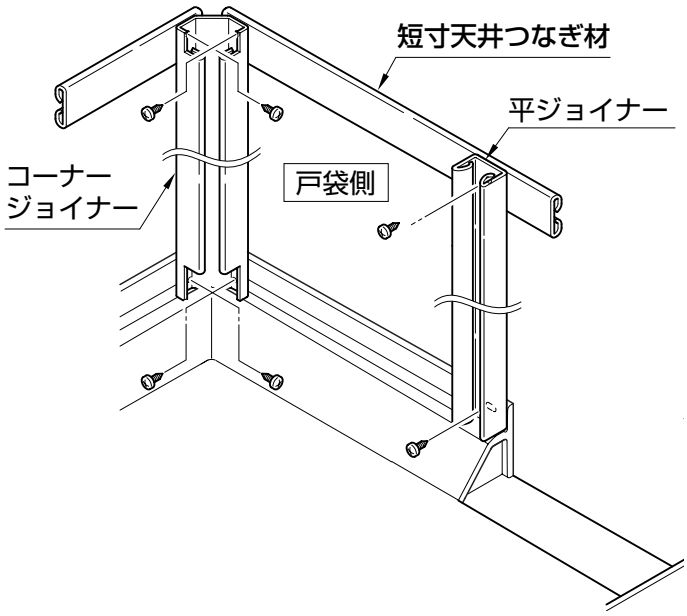


※長辺側に入口がくる時、壁B面の平ジョイナーは、補強材を取付後、更にW補強材を取付けること。



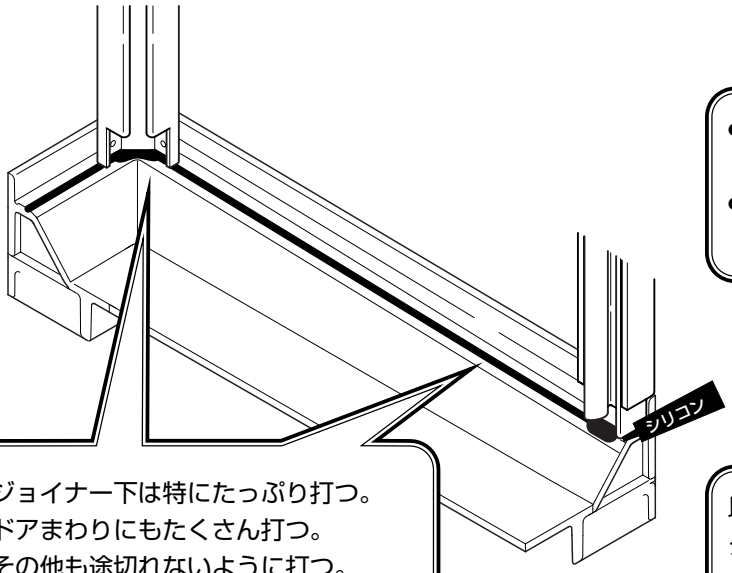
【2枚引戸の場合】

2枚引戸が取付く場合には、戸袋側のみ、天井つなぎ材を取付ける。



壁のせ面1次コーキング

壁載せ面の溝に沿って床パン全周にシリコンをうつ。

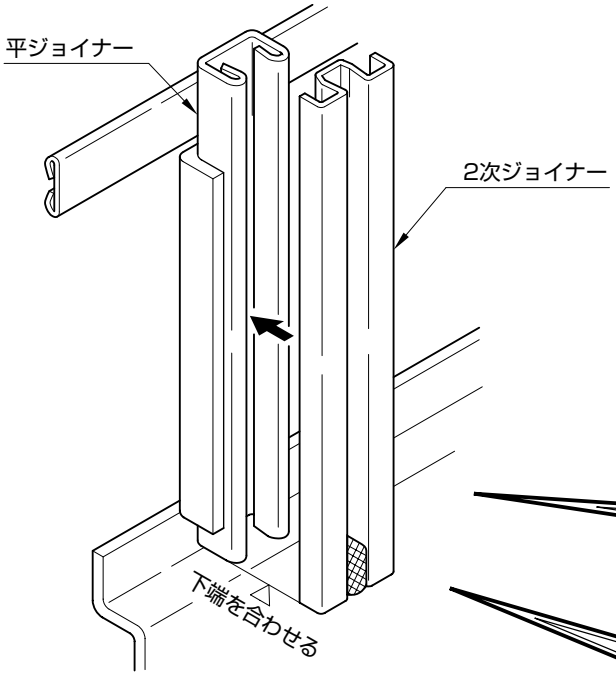


- シリコンが固まらないうちに壁パネルを建込む。
- 建込み直しの場合は、再度シリコンを打ち直す。

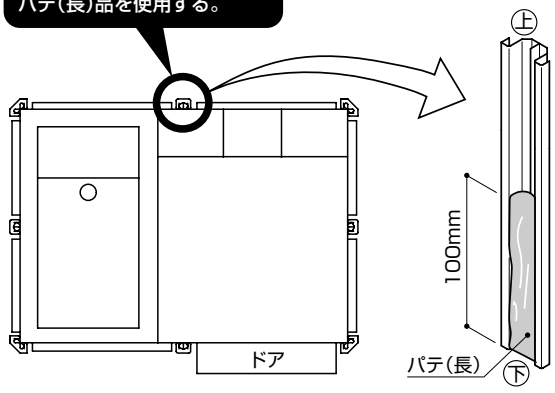
- ジョイナー下は特にたっぷり打つ。
- ドアまわりにもたくさん打つ。
- その他も途切れないように打つ。

以下のシリコンを使用する。
グレー系　：G967G（グレー）
ブラウン系：G967HB1（ハーベストブラウン）
ホワイト系：G967C（ホワイト）

2次ジョイナーのはめ込み



この部分の2次ジョイナーはパテ(長)品を使用する。



壁建込み後、はみだした余分なパテは拭き取ってください。

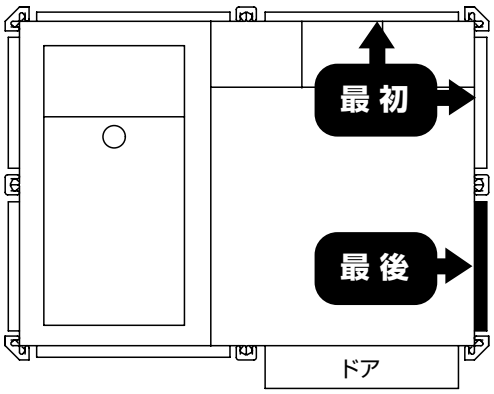
養生シールは、はがしておく。

壁パネルを建込み直す場合は、シリコンを充てんする。

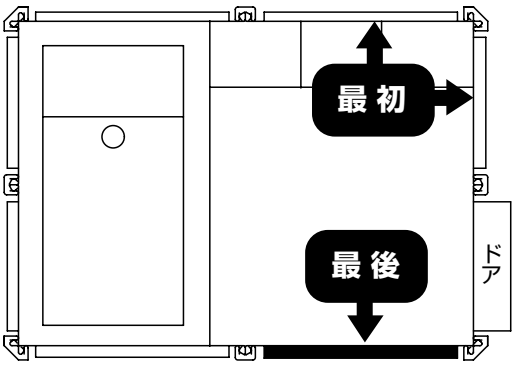
パネル組立の準備

パネル組立の手順

QCパネル破損防止とドア建込み時の壁パネル傷付き防止のため下記の手順を厳守願います



〈長辺入口の場合〉

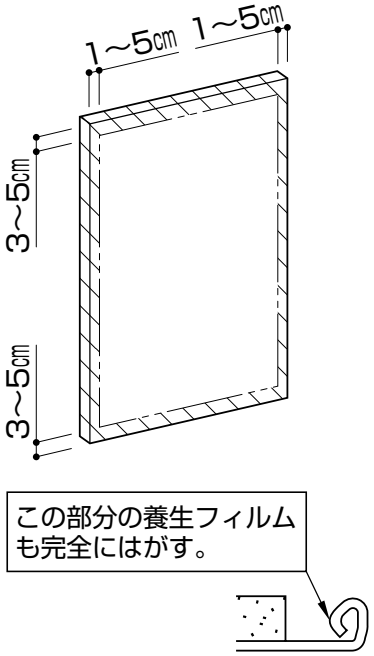


〈短辺入口の場合〉

パネル養生紙のはくり

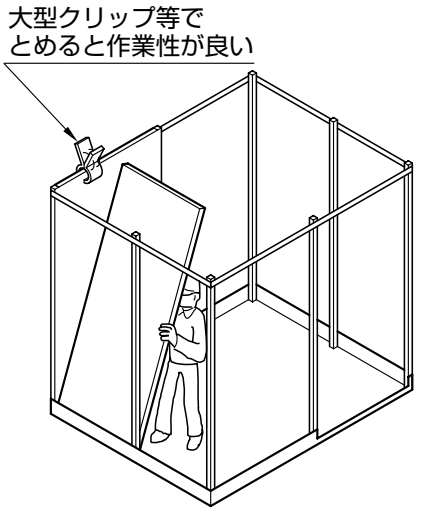
図の斜線部の養生フィルムをはがす。

残りの養生フィルムは、傷防止のため、引渡し前の清掃まではがさないこと。



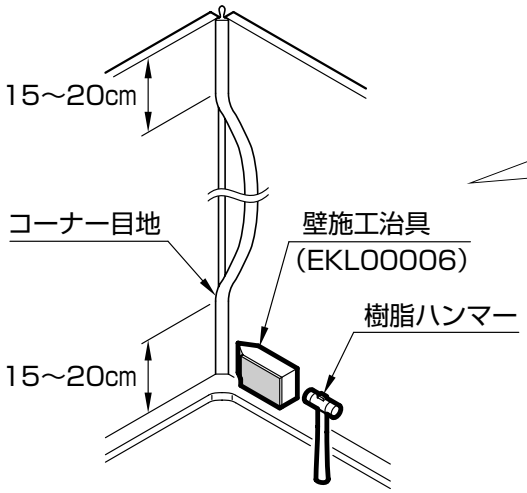
壁パネルの建込み

1 コーナー部の2枚から建込



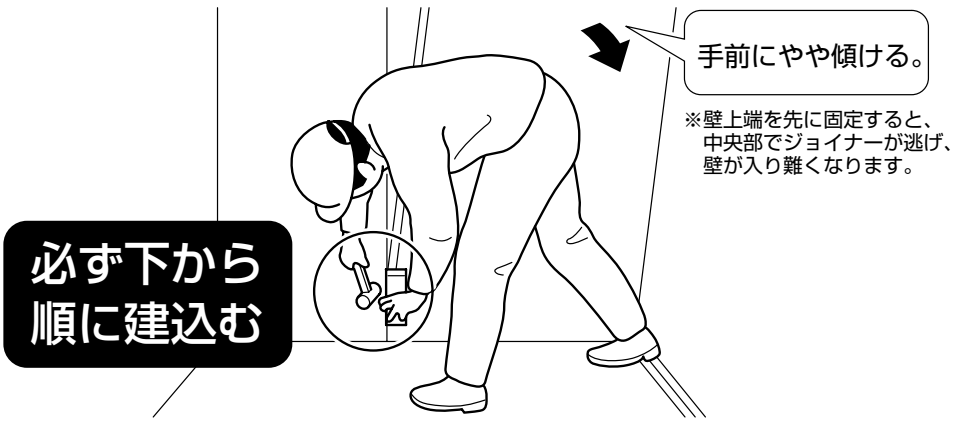
壁パネル下端にはみ出したシリコンを取除いておくと、仕上げ（2次）コーキングがきれいに仕上がる。

2 コーナー目地仮打ち



完全に打込むのは、ドア枠調整・固定後に行う。

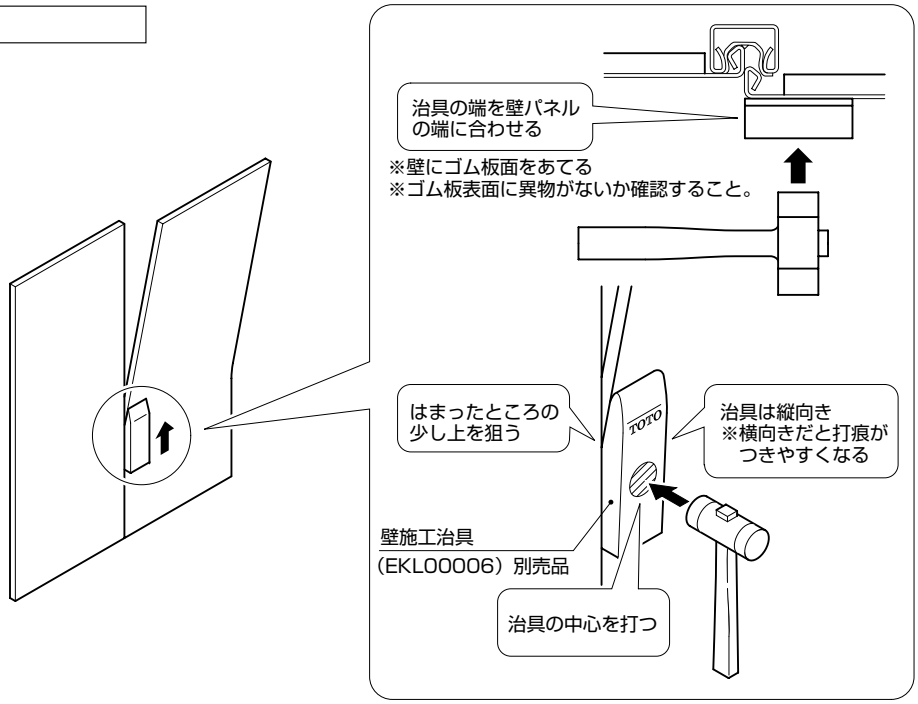
3 平部建込み要領



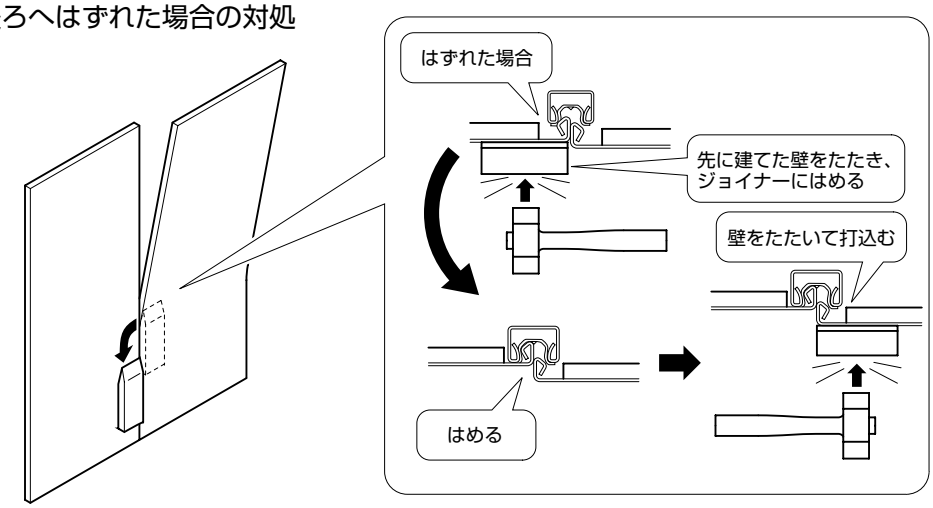
手前にやや傾ける。

※壁上端を先に固定すると、
中央部でジョイナーが逃げ、
壁が入り難くなります。

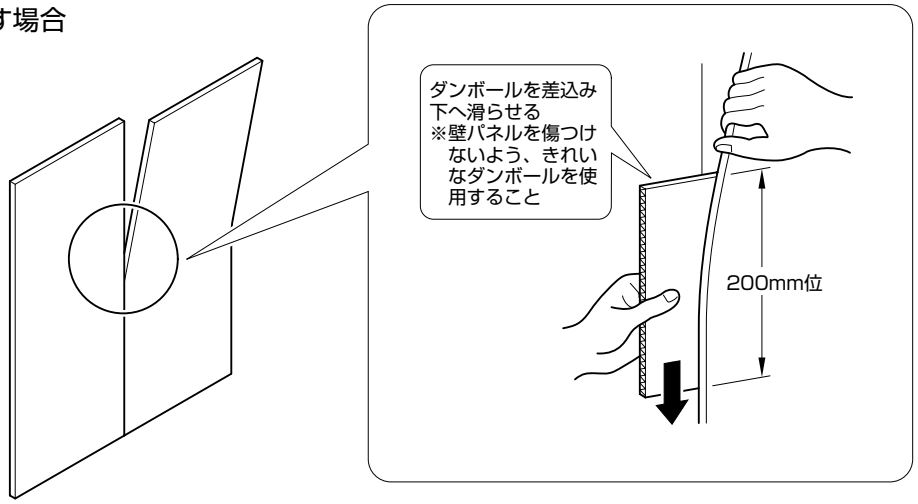
4 打込要領



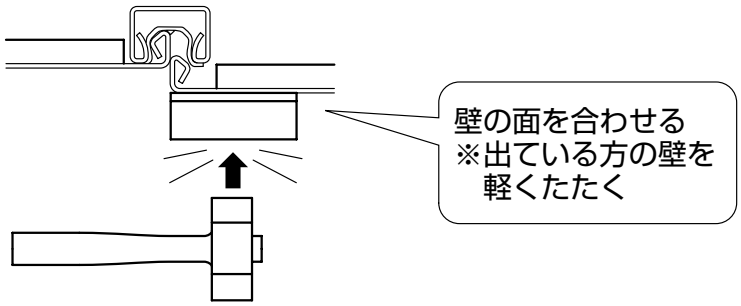
注 ジョイナーが後ろへはずれた場合の対処



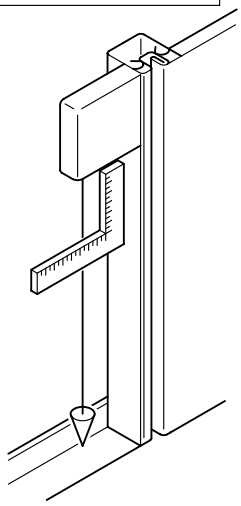
注 途中で壁をはずす場合



5 調整



6 ジョイナーの倒れ調整要領

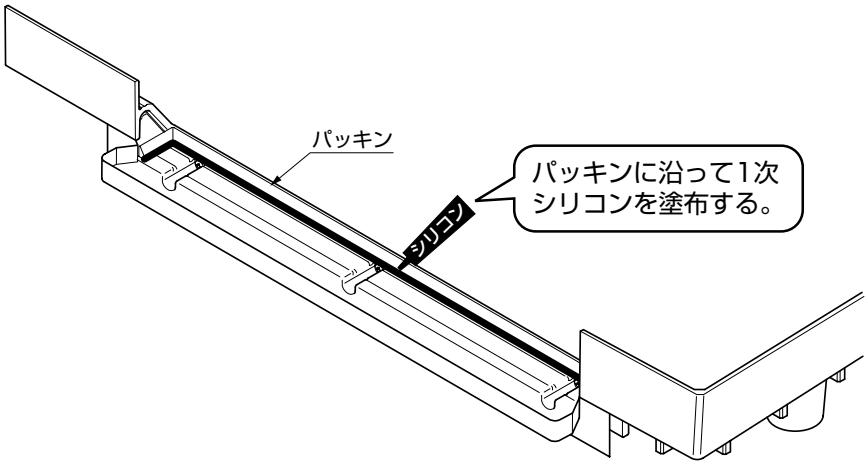


ジョイナーの倒れを下げ振り等で調整する。

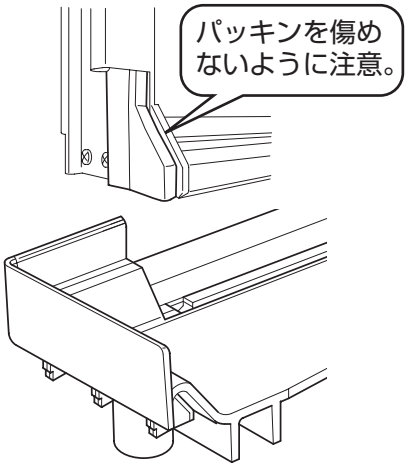
倒れは1mm以内

ドア枠の建込み

1 ドアのせ部1次シリコン

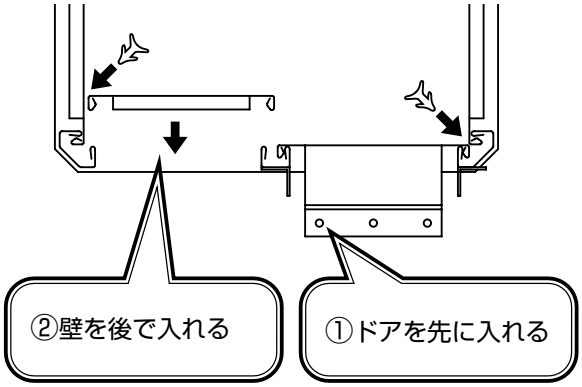


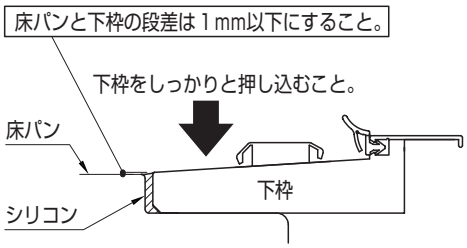
2 ドア枠建込み



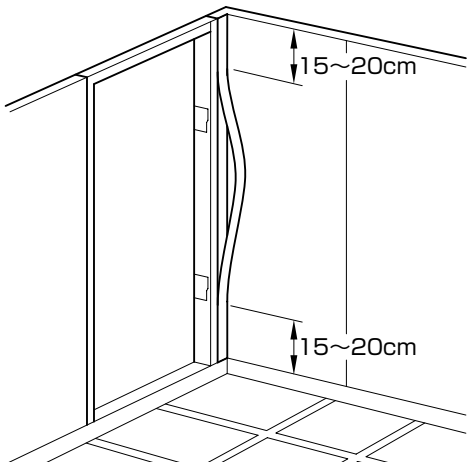
【ドア建込み順序】

ドア枠ジョイント部は、ドア枠を先に入れると作業しやすく、床パンを破損するおそれもない。





3 コーナー目地仮打ち



ある程度ドア枠をかん合させドア下枠のレベルを調整する。
レベル調整後ドア枠を完全に建込む。

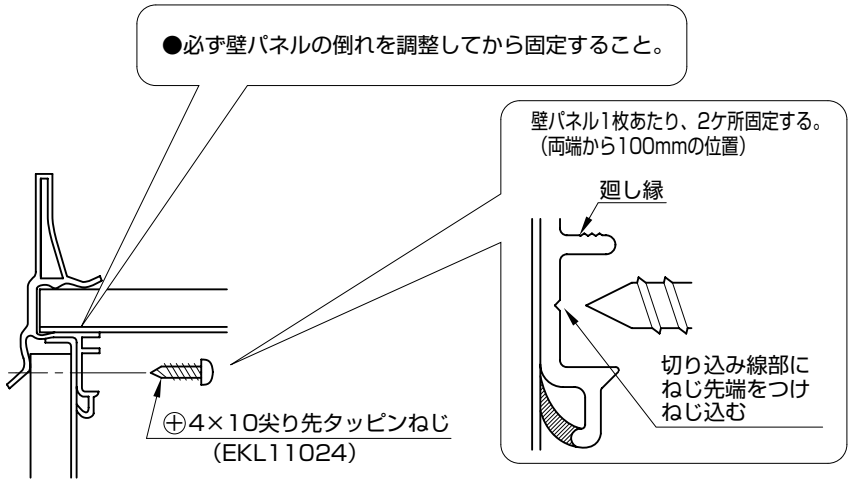
コーナー目地を下端からあて木をして仮打ちをする。仮打ちは上下端（15～20cm）

天井パネルのはめ込み

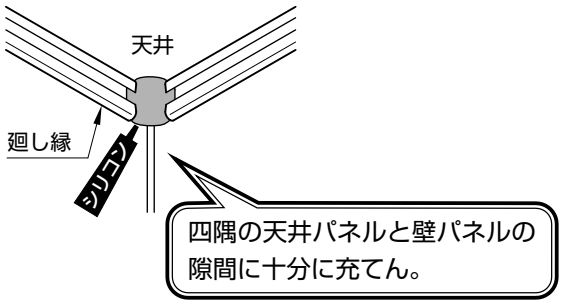
1 天井パネルはめ込み

（平側→点検口側の順に行い、接合部に段差のないように完全にかん合させる。）

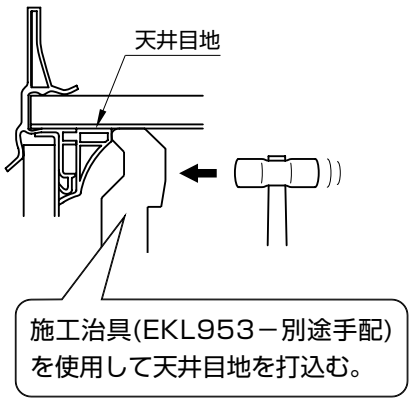
2 ねじ固定



3 シリコン充てん



4 天井目地打込み

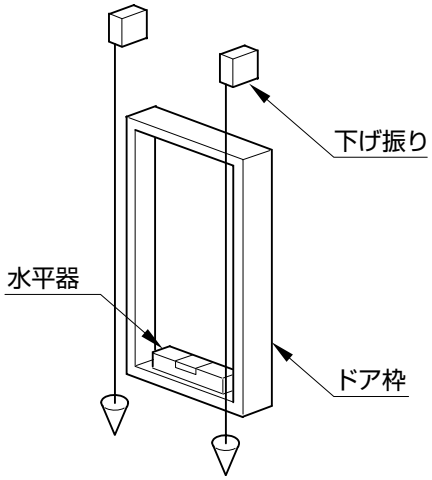


5 点検口ふた取付　（点検口ふたに添付の施工説明書を参照）

ドア枠の倒れ調整・固定

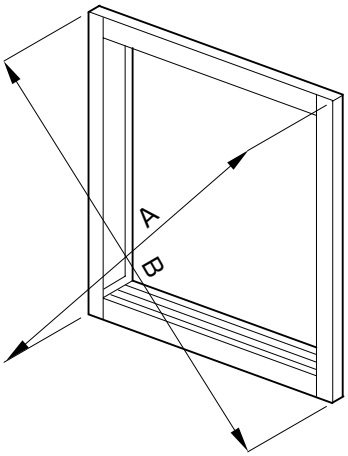
1 ドア枠倒れ調整

ドア枠の倒れを調整する。



■ドア枠建込み許容差

平面位置高さ	±2mm以内
倒れ・前後左右	±2mm以内
ひねり(A-B)	2mm以内

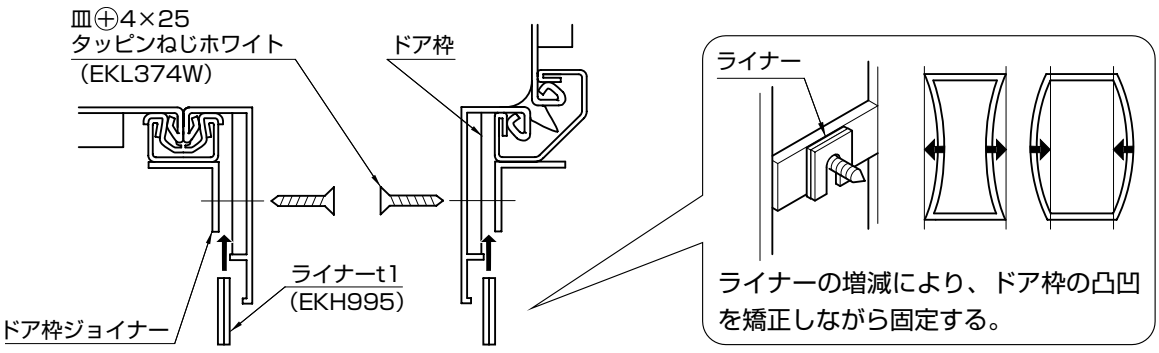


2 コーナー目地打込

ドア枠が調整できたら、仮打ちしてあるコーナー目地を下から完全に打込む。

3 ドア枠固定

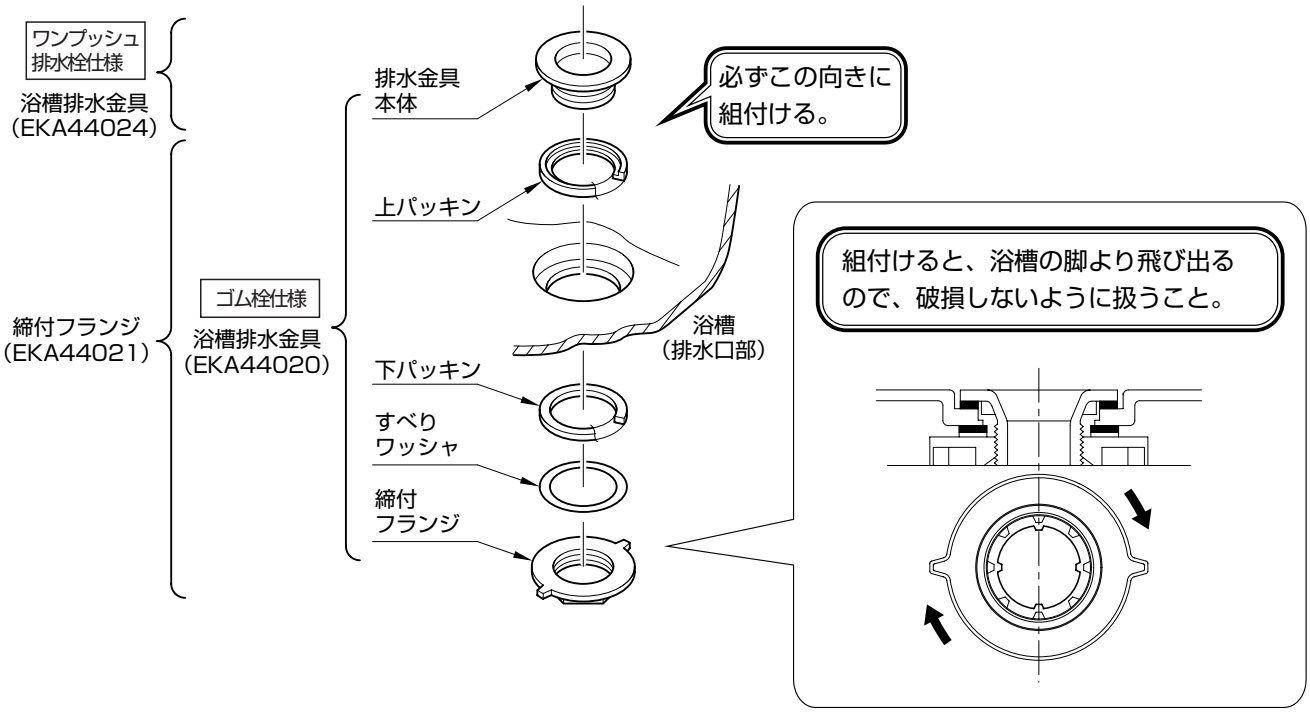
ドア枠を固定する。



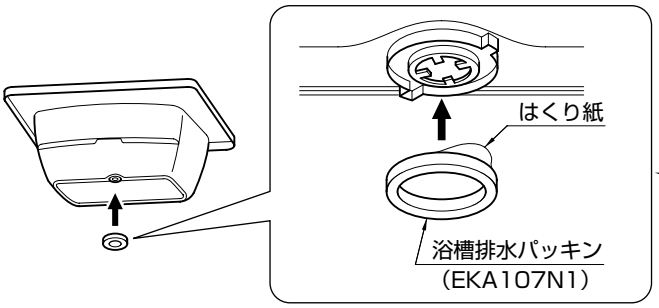
浴槽排水金具取付

1 浴槽排水金具取付

排水金具をいったんばらし、浴槽の排水口部に組付ける。(上パッキンと下パッキンの間ではさむ。)



2 排水パッキン貼付

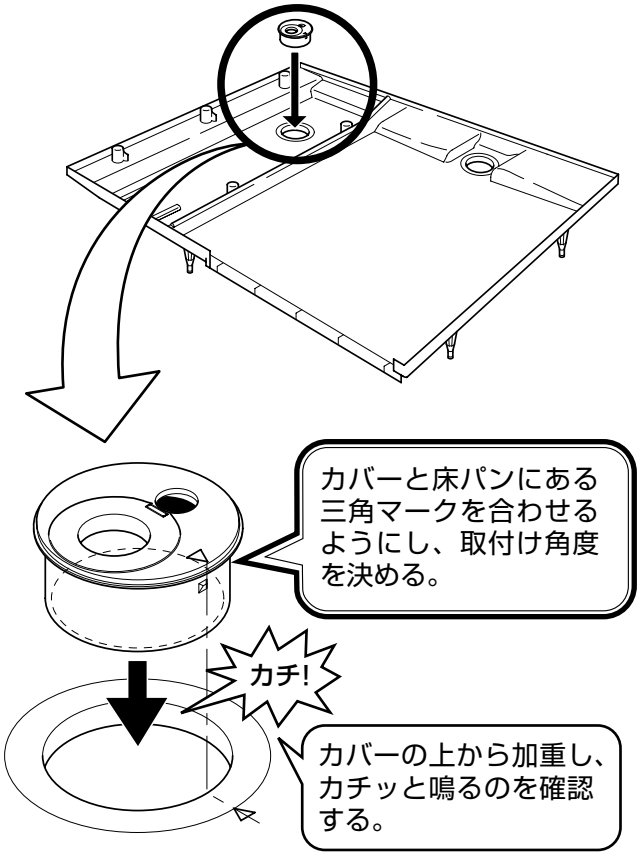


浴槽に組付けた締付けフランジの底面にパッキンを貼付ける。

隙間・しわのないよう貼付け、貼付け後は破損しないように注意すること。

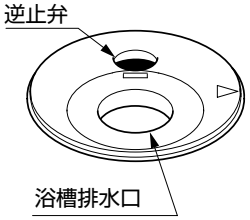
排水弁カバー取付

1 排水弁カバー取付

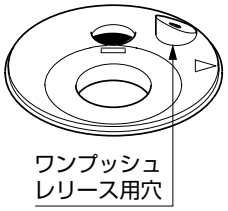


■排水弁カバーの種類

●浴槽ゴム栓仕様
（EKA24022）

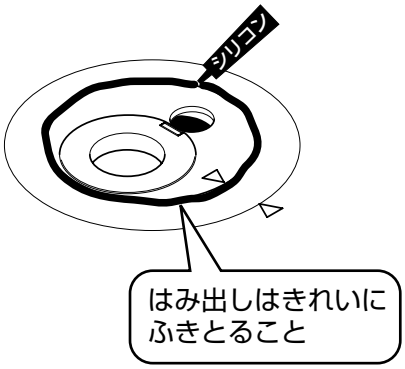


●ワンプッシュ排水栓仕様
（EKA24023L/R）



2 カバー外周シリコン充てん

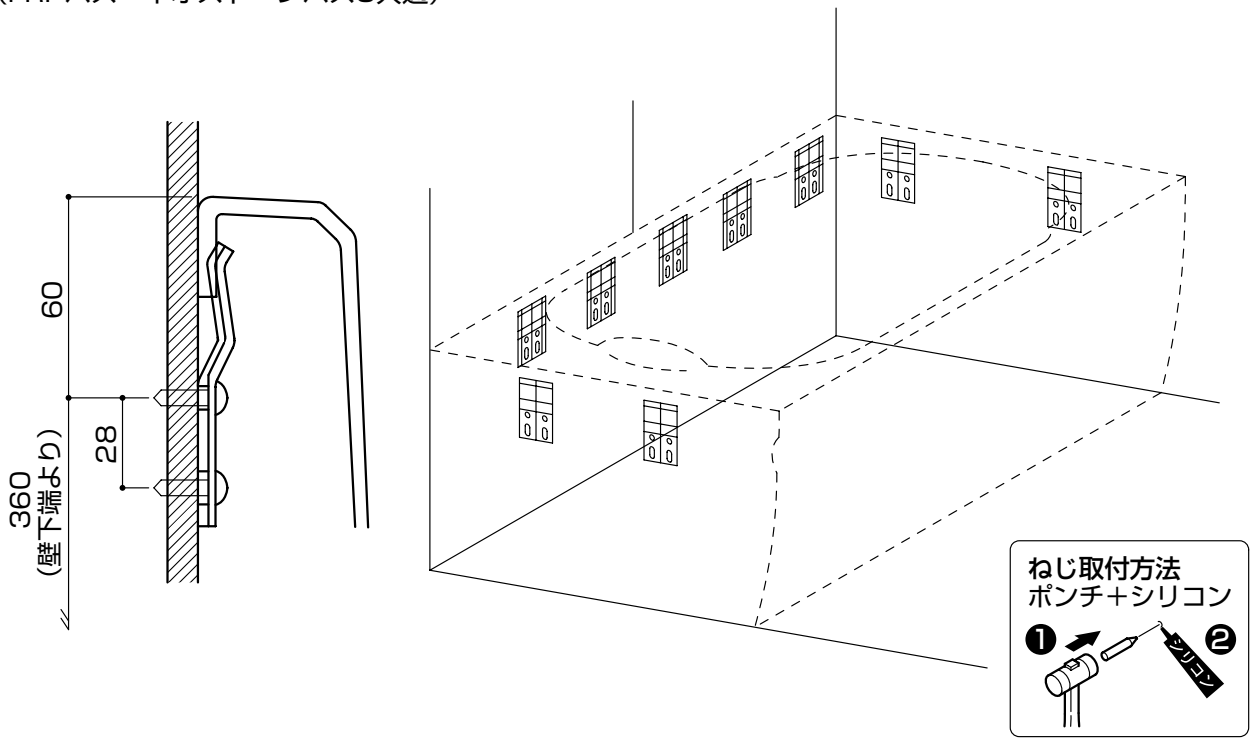
シリコンは必ずうつこと



JV排水弁カバーと同様、外周にシリコンを充てんする。

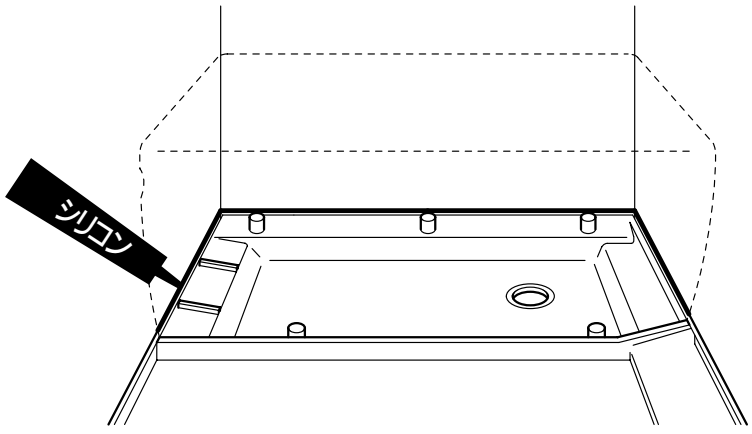
バスハンガー取付

取付位置は施工図面集参照
（FRPバス・ネオストーンバスS共通）



浴槽下2次コーキング

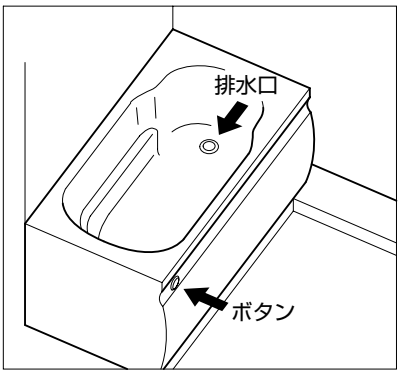
浴槽下にかくれる部分の壁パネル下端に、2次コーキングを施す。



以下のシリコンを使用する。
グレー系　：G967G（グレー）
ブラウン系：G967HB1（ハーベストブラウン）
ホワイト系：G967C（ホワイト）

ワンプッシュ排水栓取付

ワンプッシュ排水栓仕様の場合、浴槽設置前にレリースを排水弁カバーに通しておきます。
（浴槽設置後では浴槽が邪魔をしてレリースを通せなくなるためです。よってレリースのアフターメンテナンス時には一旦浴槽を持ち上げる必要がありますので、交換用浴槽目地を準備のうえ実施ください。）



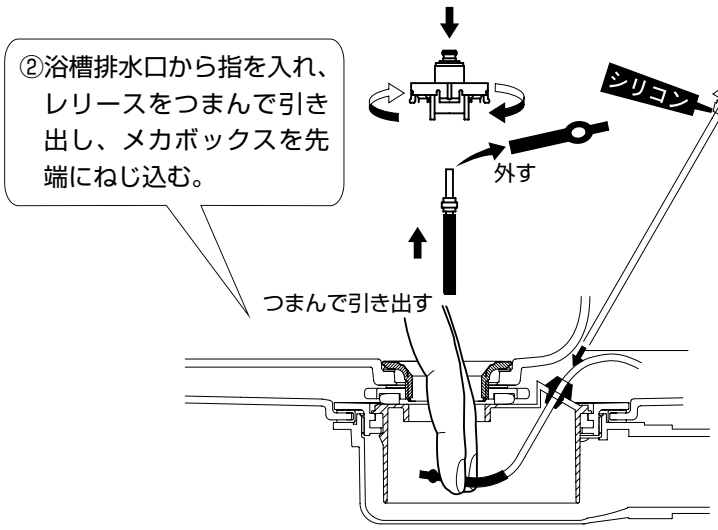
③メカボックスを排水口に挿入、「カチッ」と音がするまで押し込む。

④ストレーナ、密閉ふたの順で、メカボックスにセットする。

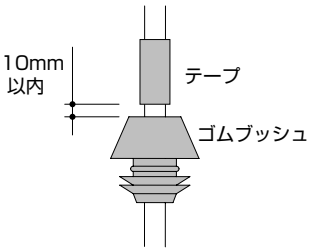
浴槽設置前

①ゴムブッシュにシリコンをつけ、排水弁カバーのレリース用穴に、レリースを挿入し、ゴムブッシュをねじ込む。

②浴槽排水口から指を入れ、レリースをつまんで引き出し、メカボックスを先端にねじ込む。



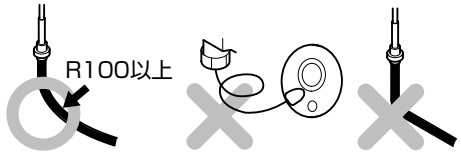
ゴムブッシュの位置決め



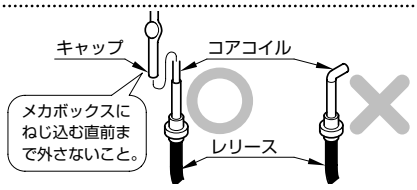
レリースのつっぱり、たるみを防止するために、レリースに巻いてあるテープをガイドに、ゴムブッシュの位置を決める。

⚠注意

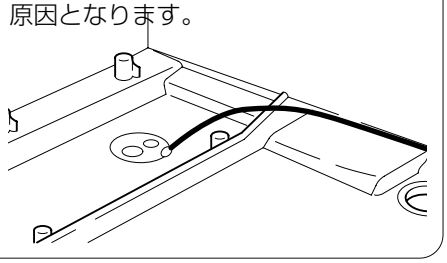
レリースの曲げはゆるやかに取り廻すこと。
動作不良の原因となります。



コアコイルは絶対に折曲げないよう注意のこと。
動作不良の原因となります。



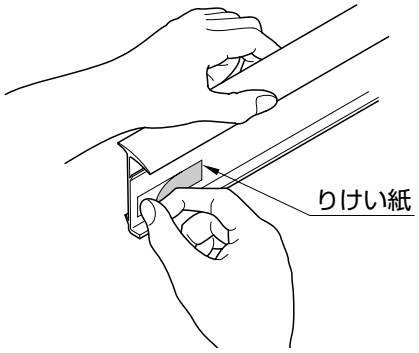
レリースは、浴槽エプロンに取り付けるまで踏まれにくい壁際にはわせておくこと。踏まれると動作不良の原因となります。



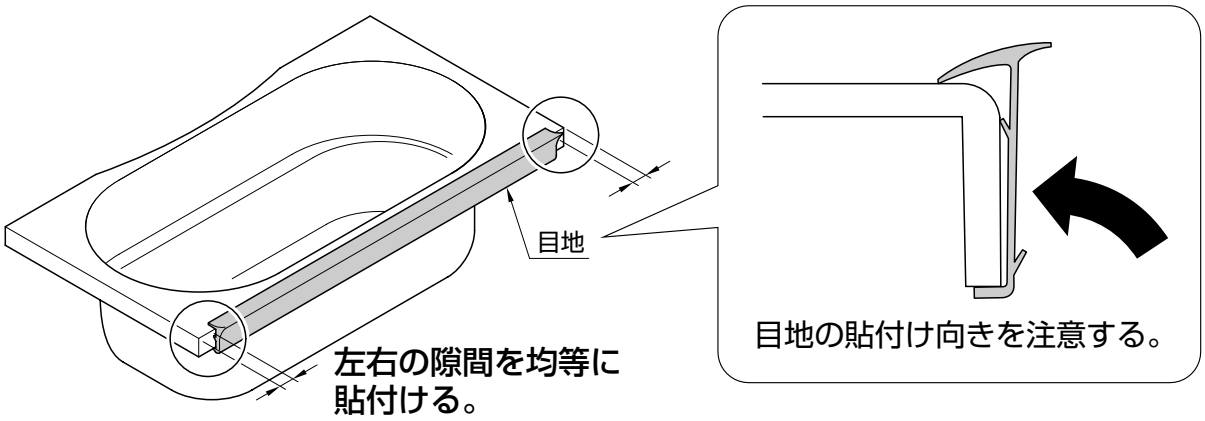
浴槽搬入・固定・浴槽目地取付

1 長辺側目地の取付

①長辺側目地の両面テープのりけい紙を剥がす。（3ケ所）



②左右の隙間が均等になるように目地を浴槽リムへ挟み込み固定する。

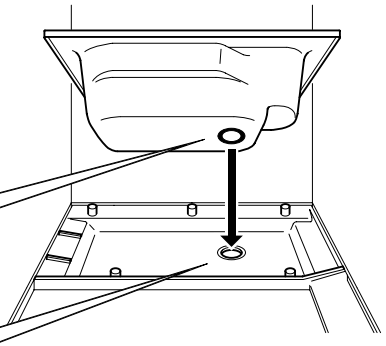


2 浴槽の搬入・据付け

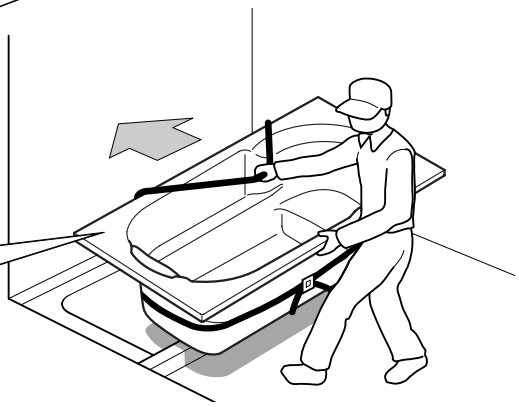
ドア枠・壁などに絶対キズをつけないこと。

パッキンをキズつけないように十分注意すること。

排水パッキンと排水弁カバーの穴を合わせること。

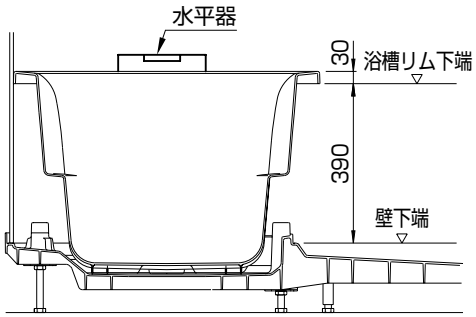


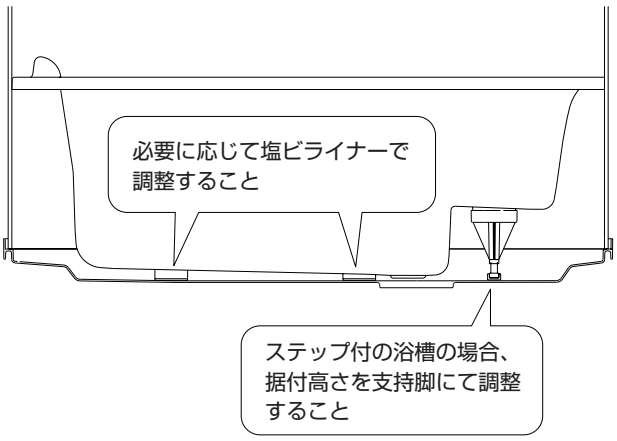
梱包材のPPバンドなどを巻き付けて使用すると搬入しやすい。



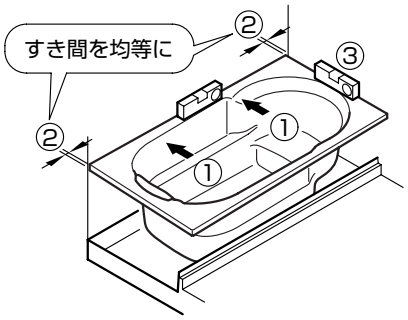
3 レベル調整

※リム面は必ず水平にすること。
※ガタつきのないことを確認すること。





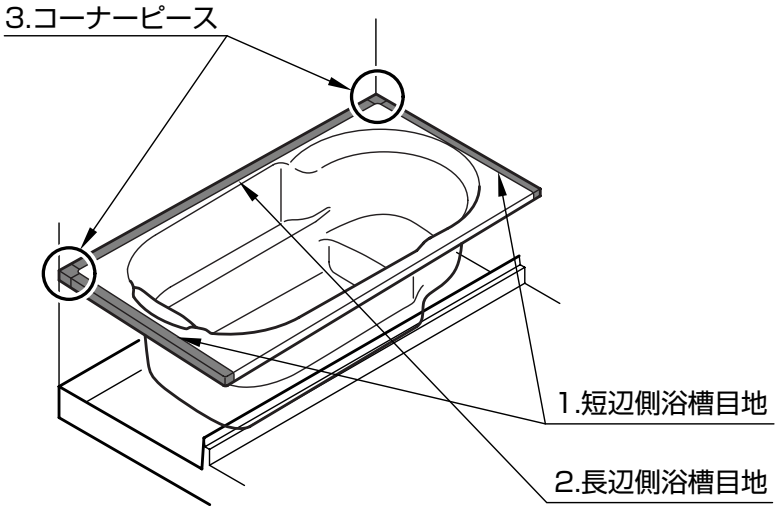
■浴槽位置調整

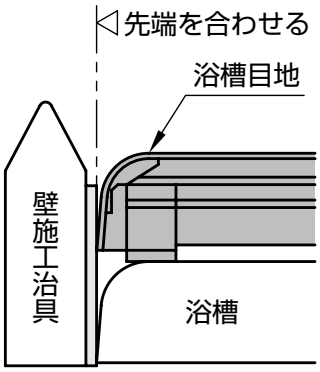


①長辺側のすき間が小さくなるように、浴槽を壁に押し当てる。
②左右のすき間が均等になるように、浴槽位置を調整する。
（すき間が広いと目地の浮き、コーナーピースねじれの原因となります）
③リム面は必ず水平にして、がたつきがないことを確認する。

4 短辺側目地取付

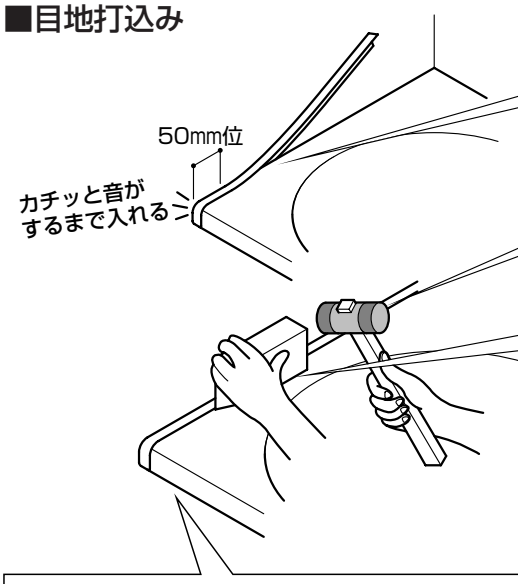
■先端の位置決め





①上図のように壁施工治具等を浴槽先端に垂直にあてがう。
②そこに浴槽目地の先端を合わせる。

■目地打込み



①まず先端から50mm位を押込む。

②残りの目地を打込む。

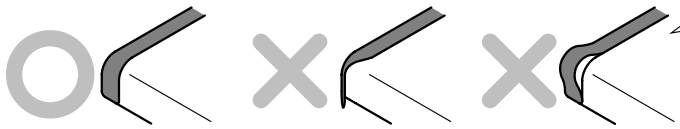
手で入らない時は、施工治具にて少しずつ打込む。

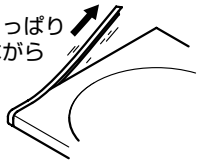
注 意

強くたたきますと目地が割れるおそれがありますので、軽くたたいてください。

※以下の項目を確認してください。

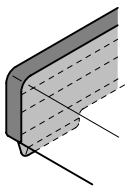
①浴槽と目地の間にすき間、入り込み過ぎがないこと。



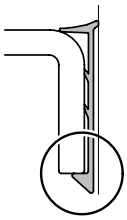


すき間がある場合は、浴槽目地を後方へ引っぱるとすき間がなくなります。

②目地が確実に入っていることを確認する。



③浴槽リム下端に目地の爪が確実に掛かっていること。掛かっていないと浮きの原因になります。

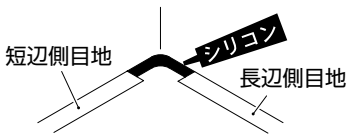


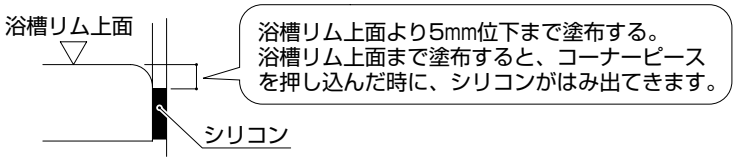
④はみ出したシリコンはきれいにふき取ってください。

5 コーナーピース取付

■シリコン塗布

※浴槽のコーナー2ケ所にて下記にてシリコンを塗布する（白）

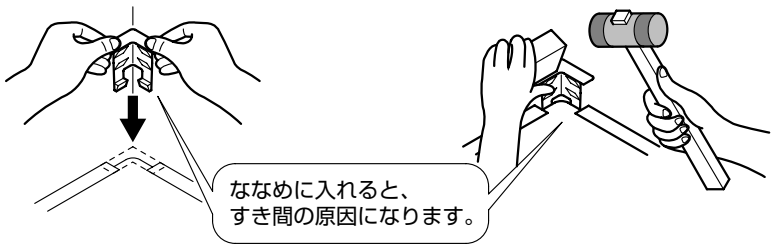




■コーナーピース取付

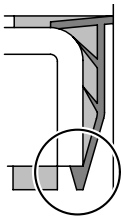
※コーナーピースを指で
まっすぐ押込む。

※指で押込めない場合は、
壁施工治具で軽くたたく。

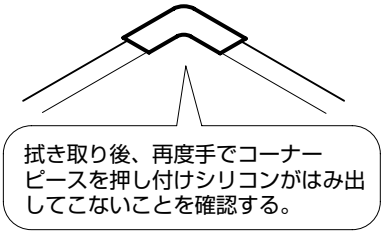


※以下の項目を確認してください。

①浴槽リム下端に、コーナーピースの
爪が確実に掛かっていること。

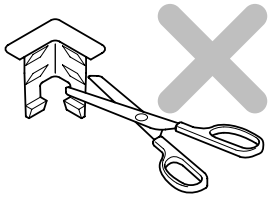


②シリコンがはみ出してしまった場合
はきれいにふき取る。



注 意

コーナーピースの脚は絶対にカットしないでください。浮き上がりの原因となります。



目地の取外し方

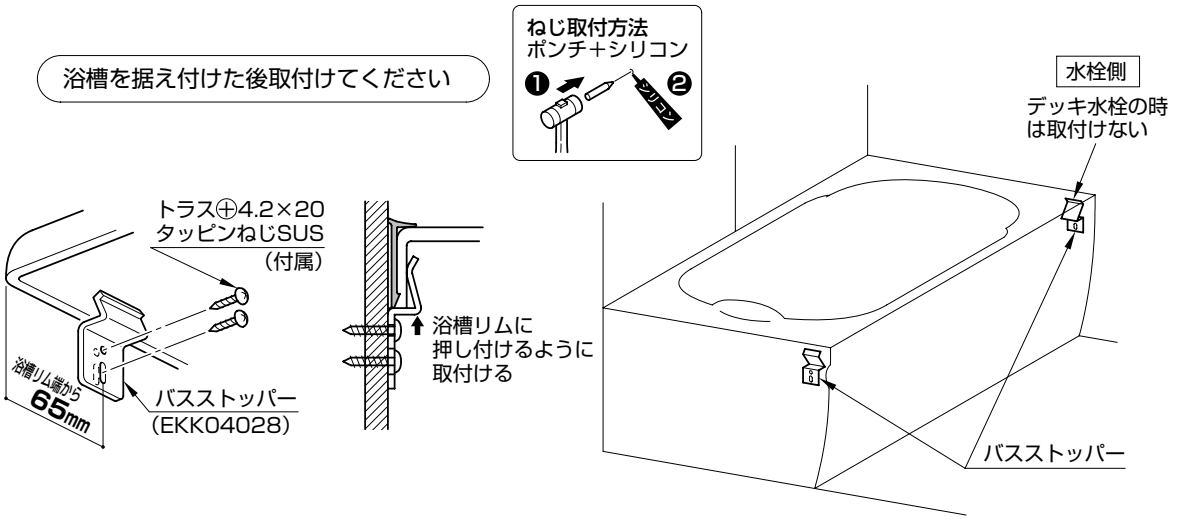
①バスエプロンを外してください。

②浴槽をバスハンガーから外れる程度まで持ち上げて浴槽目地を外してください。

※浴槽を持ち上げる際、壁を傷つけないよう注意してください。

※浴槽に付着したシリコンはカッターなどで取除いてください。

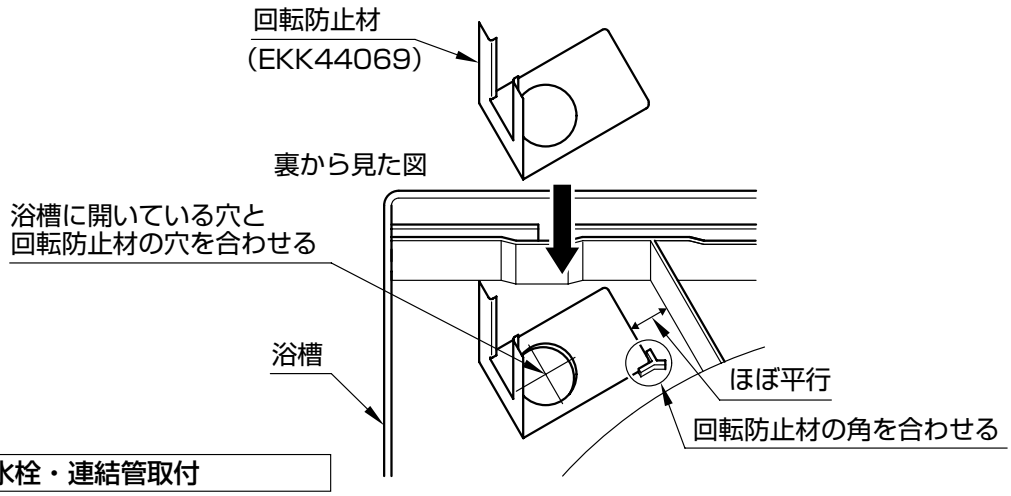
バスストッパー取付


浴槽を据え付けた後取付けてください
ねじ取付方法
ポンチ＋シリコン
❶
❷
シリコン
水栓側
デッキ水栓の時
は取付けない
トラス⊕4.2×20
タッピンねじSUS
（付属）
浴槽リム端から
65mm
バストストッパー
（EKK04028）
浴槽リムに
押し付けるように
取付ける
バストストッパー

水栓金具取付

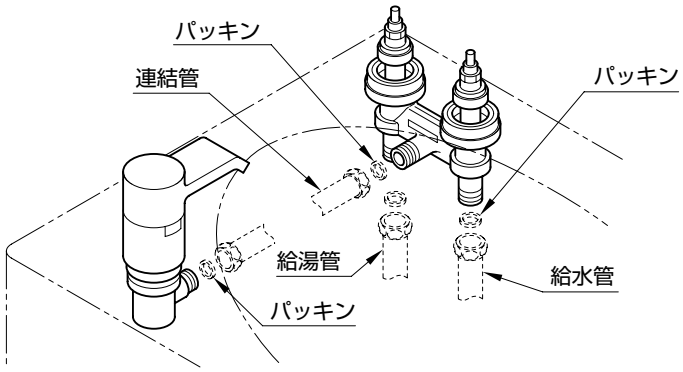
1 回転防止材の取付

回転防止材を浴槽裏に取付ける。



2 バス水栓・連結管取付

浴槽本体にバス水栓と連結管（フレキ管パッキン付）を浴槽設置前に取付ける。



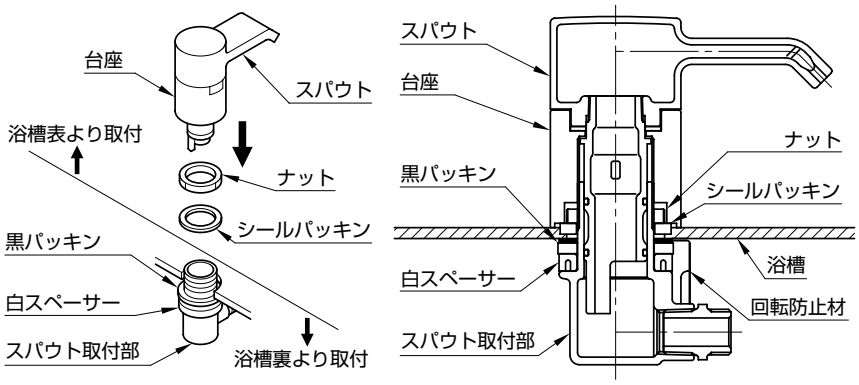
注意

〈水栓本体部のパッキン取付要領〉

浴槽の材質により黒色パッキンの個数が異なります。
また、本体部用の色パッキンには片面に両面テープが付いております。
下記に従って正しく取り付けてください。

材　質	水栓本体部
ネオストーン バスS (肉厚8mm)	黒色パッキン (1個)　両面テープをはがし、白色スペーサーに取り付けて、お使いください。
FRP浴槽 (肉厚5mm)	黒色パッキン (2個)　両面テープをはがし、2枚重ねて白色スペーサーに取り付けて、お使いください。

・スパウト部取付け



①スパウト取付部・スペーサー・パッキンを浴槽裏から挿込む。

②シールパッキンを浴槽表から取付け、ナットを締め付ける。

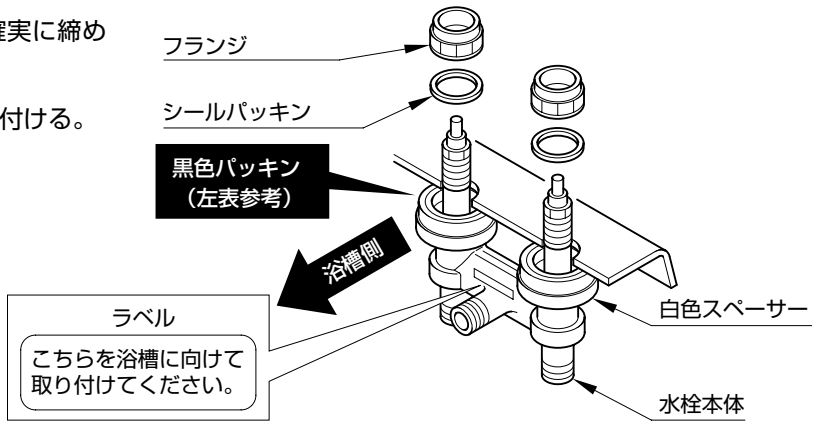
③台座・スパウトを挿し込み台座を回して固定する。

3 バス水栓本体取付け

①ラベルの面が浴槽側に向くように水栓本体を差し込み、フランジを確実に締め付ける。

②スパウト取付部を差し込み、ナットを確実に締め付ける。

③スパウトを差し込み、台座を確実に締め付ける。



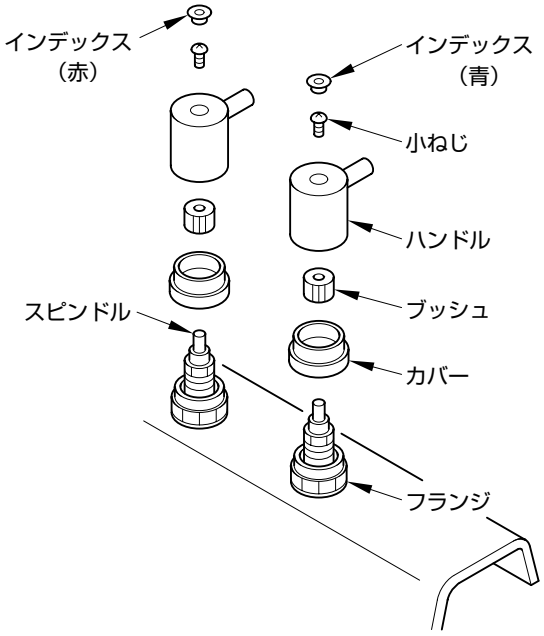
4 ハンドル取付け

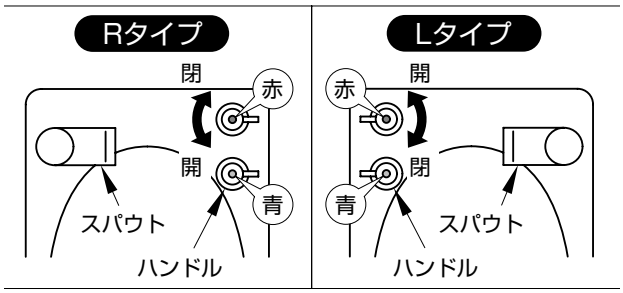
①フランジカバーを固定する。

②スピンドルにブッシュを取り付け、ハンドルを小ねじで固定する。

③インデックスの赤色・青色が右図になるように取り付ける。

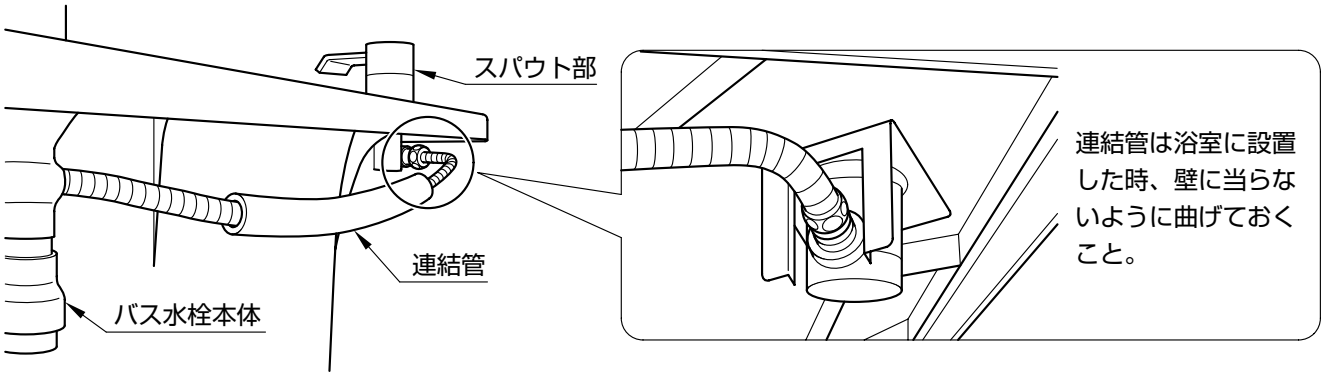
④ハンドルの向きは閉めたときに、レバーが右図の位置になるように取り付けてください。



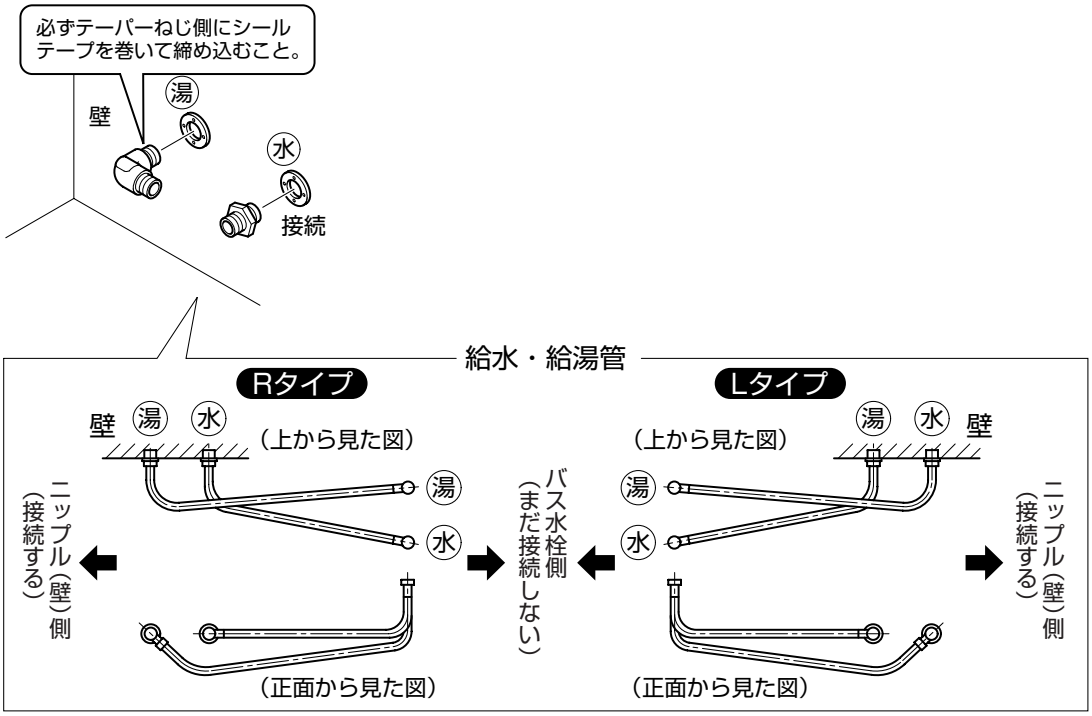


5 連結管（フレキ管パッキン付）取付け

浴室に設置した時、連結管が壁に当たらないように曲げておくこと。



6 給水・給湯管（フレキ管）取付け



7 浴槽据付け

浴槽を据え付ける。

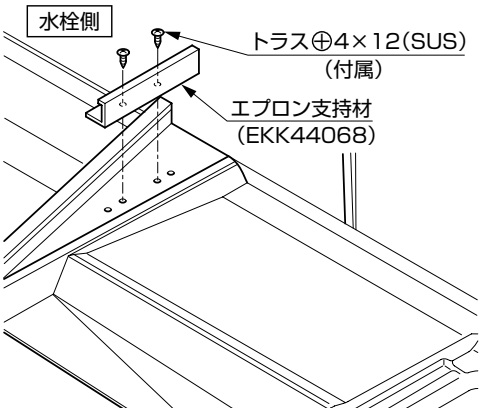
8 給水・給湯管接続

バス水栓本体に給水・給湯管（フレキ管）を接続する。

エプロン支持材・ストッパー取付

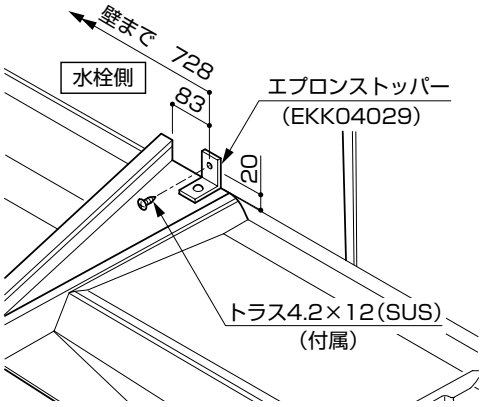
〈カウンターが付かない場合〉

・床にエプロン支持材を取付ける。



〈カウンターが付く場合〉

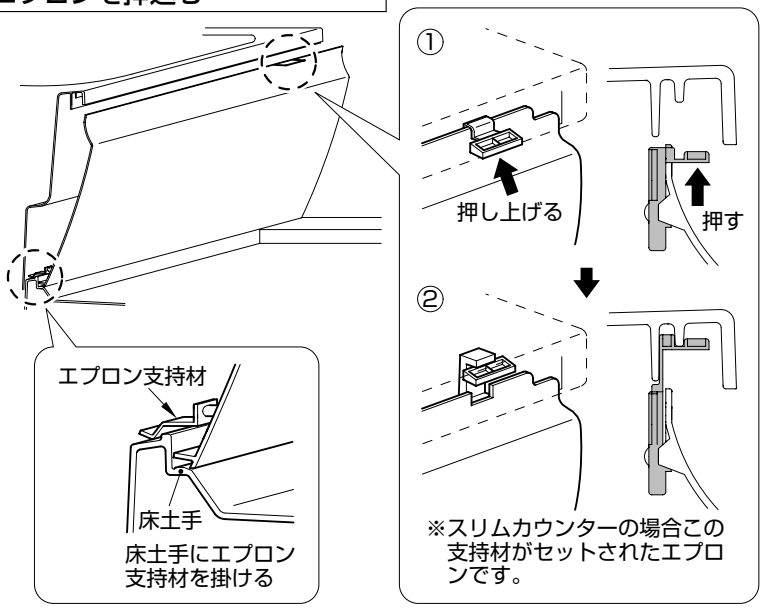
・壁にエプロンストッパーを取付ける。



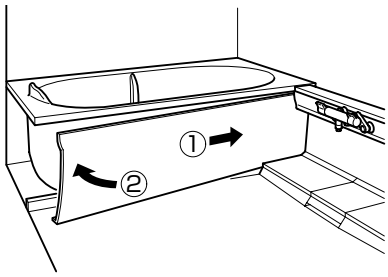
浴槽エプロン取付

〈カウンターが付かない場合〉

1 エプロンを挿込む



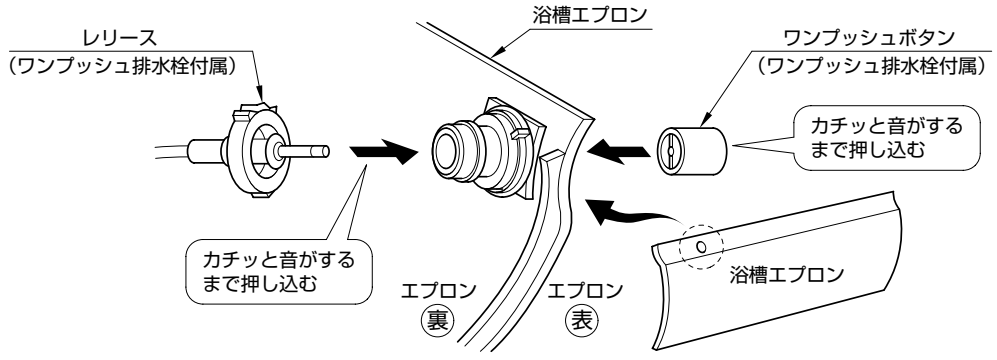
〈カウンターが付く場合〉



・土手に沿うように斜めに挿し込む。

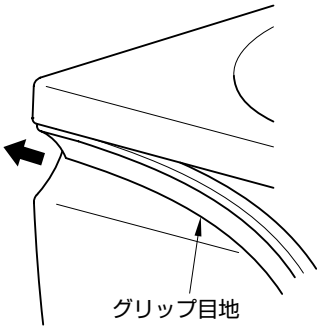
(ワンプッシュ排水栓の場合のみ)

2 ボタン部の取付（浴槽エプロン取付時に実施）

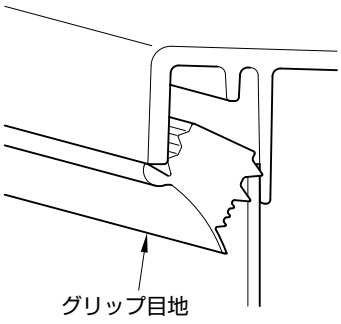


3 グリップ目地を取付ける

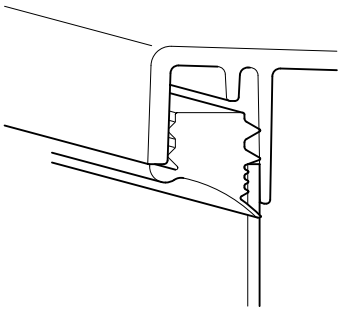
・グリップ目地の向きに注意



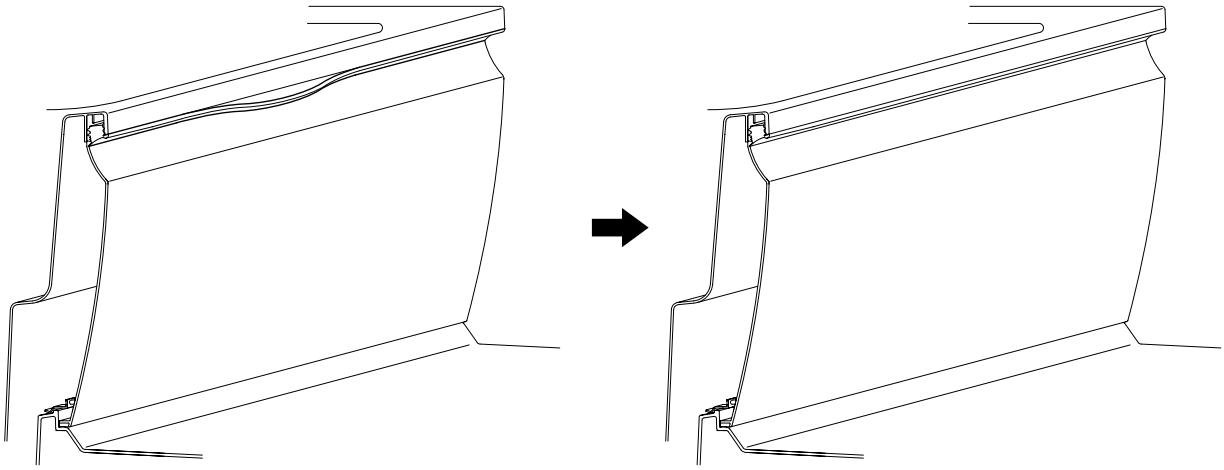
・目地を壁に押し当てる。
・エプロンか浮かないように下に押えながら目地を入れる。



・浴槽リムにグリップ目地の先端を押し当てる。



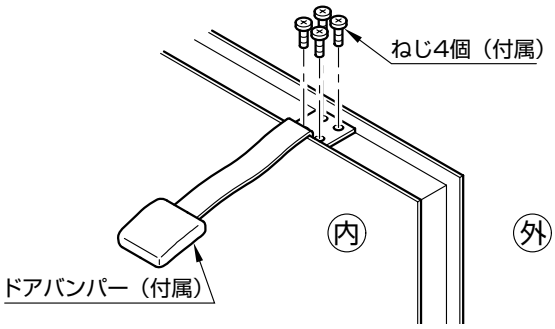
・後から奥側をはまった感触があるところまで挿し込む。



・端から順序良くはめ込み、最後200㎜程度になったところで今度は反対側の端からはめ込んでください。

開戸取付

1 ドアバンパーの取付

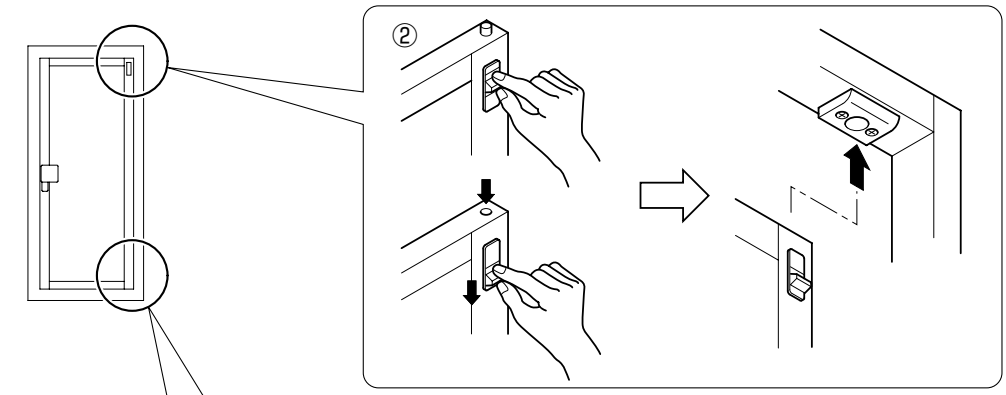


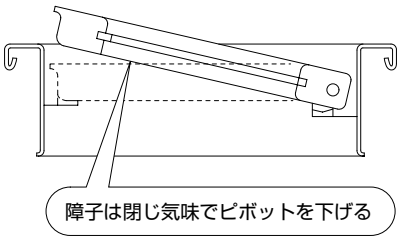
ドア上部にドアバンパーを付属のねじで取付ける。

2 ドア本体取付

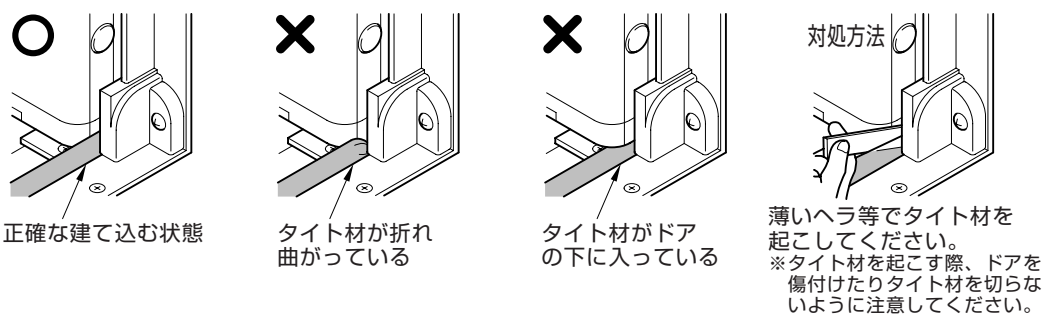
①ドア下枠の台座穴に、ドア本体下端のピボットを差込む。

②吊天井部のつまみを下げながら、上枠の台座穴にドア本体上端のピボットを差込む。



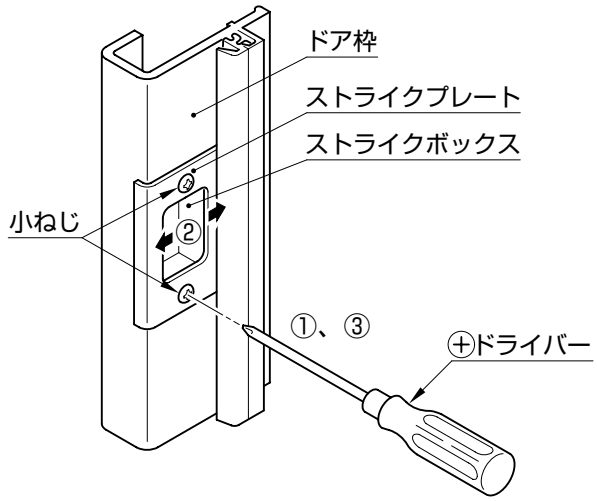


⚠注意 ドア立て込みの際、下枠タイト材をドアで踏まないでください。
水密性能が損なわれます。



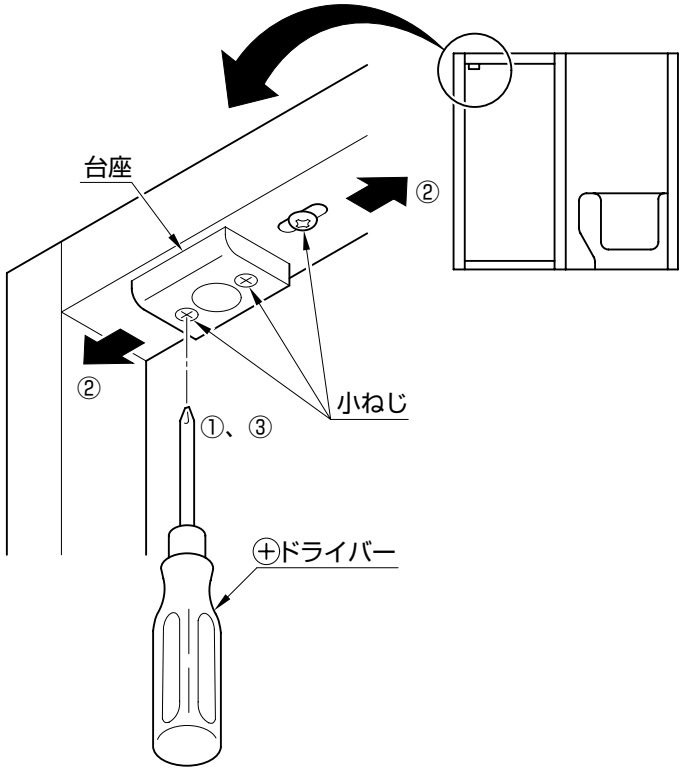
開戸調整

1 ストライクボックスの調整



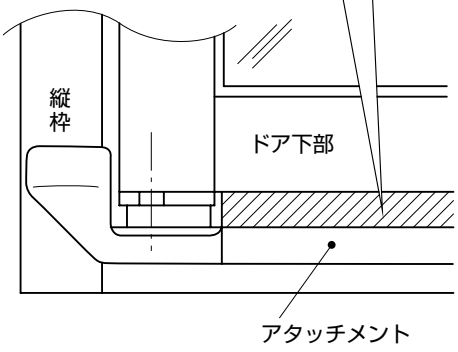
ドアが、がたつく又は閉まりにくい場合は、下記の要領で調整する。
① ストライクボックスが動く程度に小ネジをゆるめる。
② ストライクボックスを前後に少しずつ動かし、閉まりの良い位置に合わせる。
③ 小ねじを ⊕ドライバーで締める。

2 ドア本体建ち調整

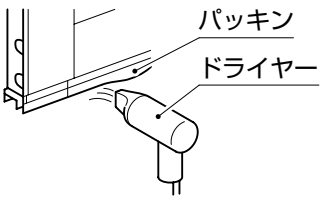


注 意
建具の建ち調整は水密上非常に重要です。必ず確認・必要であれば調整してください。

ドア下部の水密パッキンが下枠に均等に軽くラップする状態に調整すること。



ドア本体の左右倒れ調整が必要な時は、下記の要領で調整する。
① 台座が動く程度に ⊕ ドライバーで小ねじを3カ所ゆるめる。
② 台座を左右に少しずつ動かす。
③ ドア本体をセットし、倒れを調整する。
④小ねじ3カ所を ⊕ドライバーで締める。

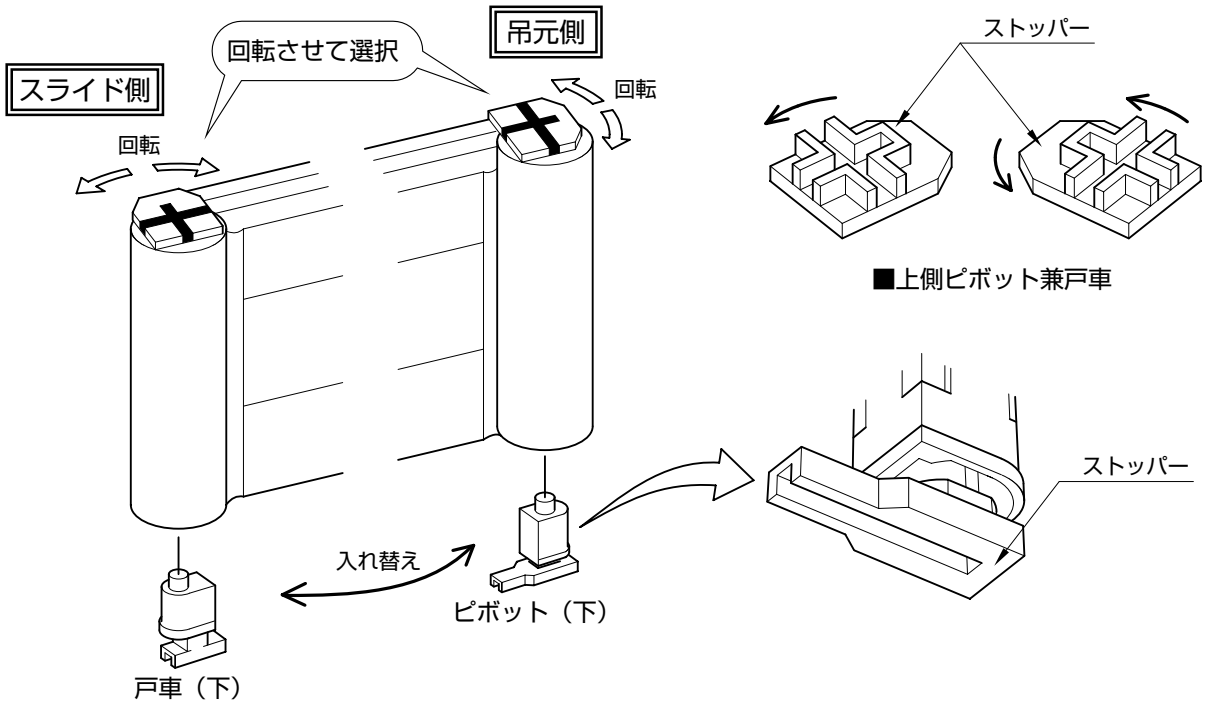


パッキンが波うちしたり、クセがついたりした場合は、ドライヤーの温風を当ててクセを取り除いてください。

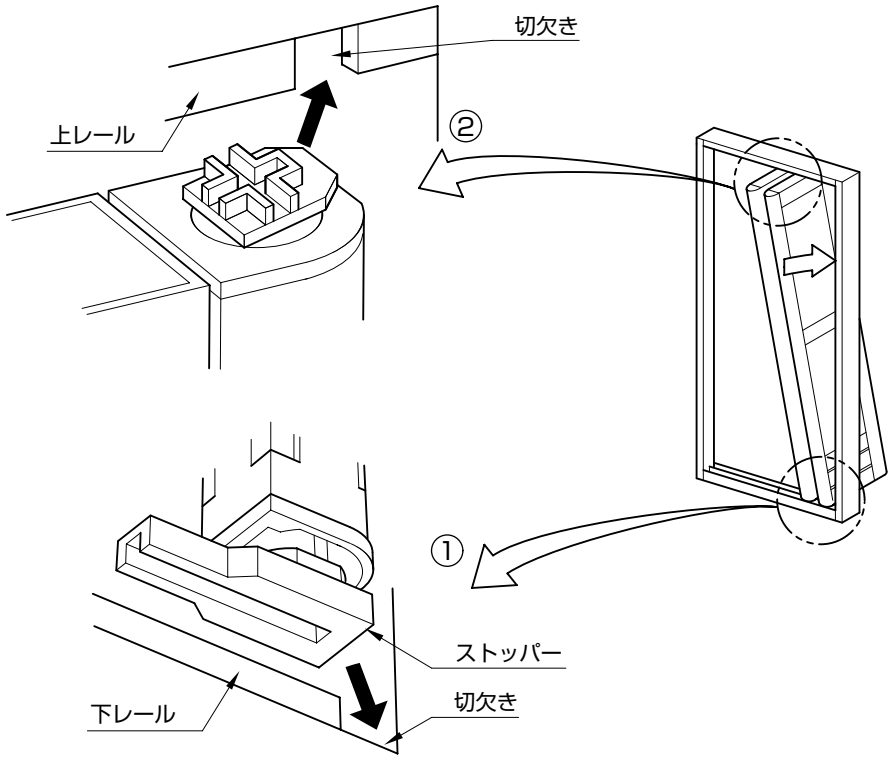
折戸取付

1 吊元選択

吊元に応じて上側ピボットは回転させて、下側ピボットは差し替えて吊元選択する。



2 吊り込み



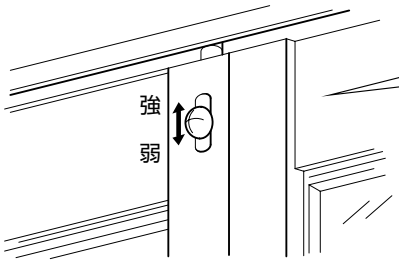
① 下側ピボット吊元側ストッパーを下枠切欠に引っかけ、下戸車をレールにはめる。
② そのまま立ておこすようにして上ピボットのストッパーを上枠切欠に引っかけ上戸車をレールにはめる。

折戸調整

1 上ラッチ調整

注 意

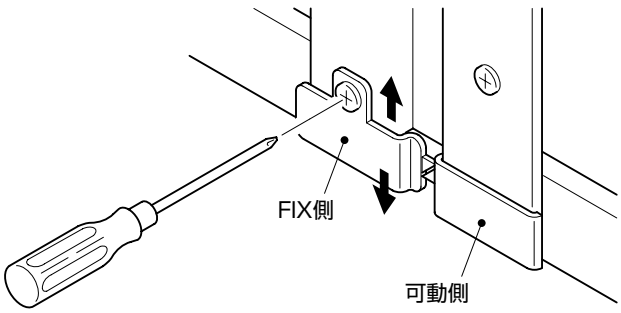
建具の建ち調整は水密上非常に重要です。必ず確認・必要であれば調整してください。



ラッチ調整が必要な場合は、ねじをゆるめて上下に調整する。

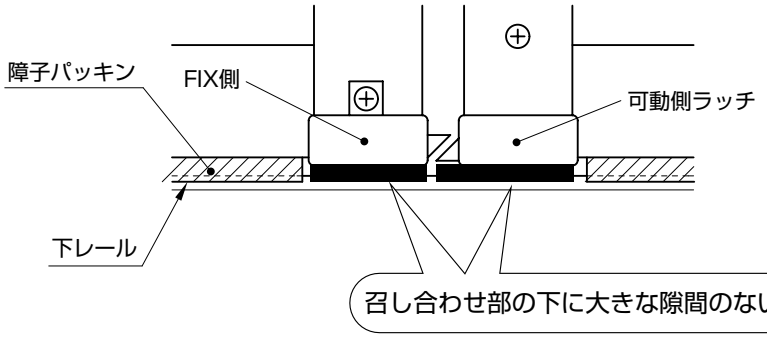
必ず開閉確認をすること。

2 下可動ラッチ調整



折戸を閉じた状態で、折戸中央召し合わせ部の下側のパッキンと下枠レールとの間に大きな隙間がないように、Fix側のねじをゆるめて上下に調整する。

必ず開閉確認をすること。



引手の取付

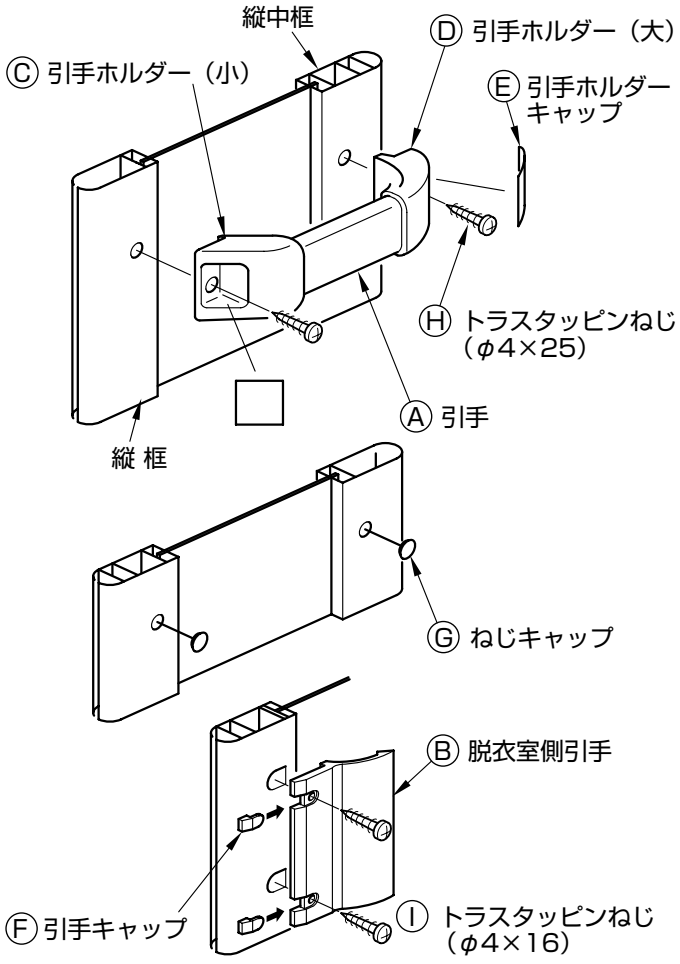
浴室側引手の取付け

●Ⓐ引手とⒸⒹホルダーを組立てます。

●引手を縦框、縦中框の取付穴に向かって差込みⒽトラスタッピンねじにて取付けます。

●引手ホルダーにⒺ引手ホルダーキャップを取付けます。

●引手の取付けをしない障子中央部にⒼねじキャップを取付けます。



脱衣側引手の取付け

●Ⓑ脱衣室側引手を縦框、縦中框の取付穴に向かって差込み①トラスタッピンねじにて取付けます。

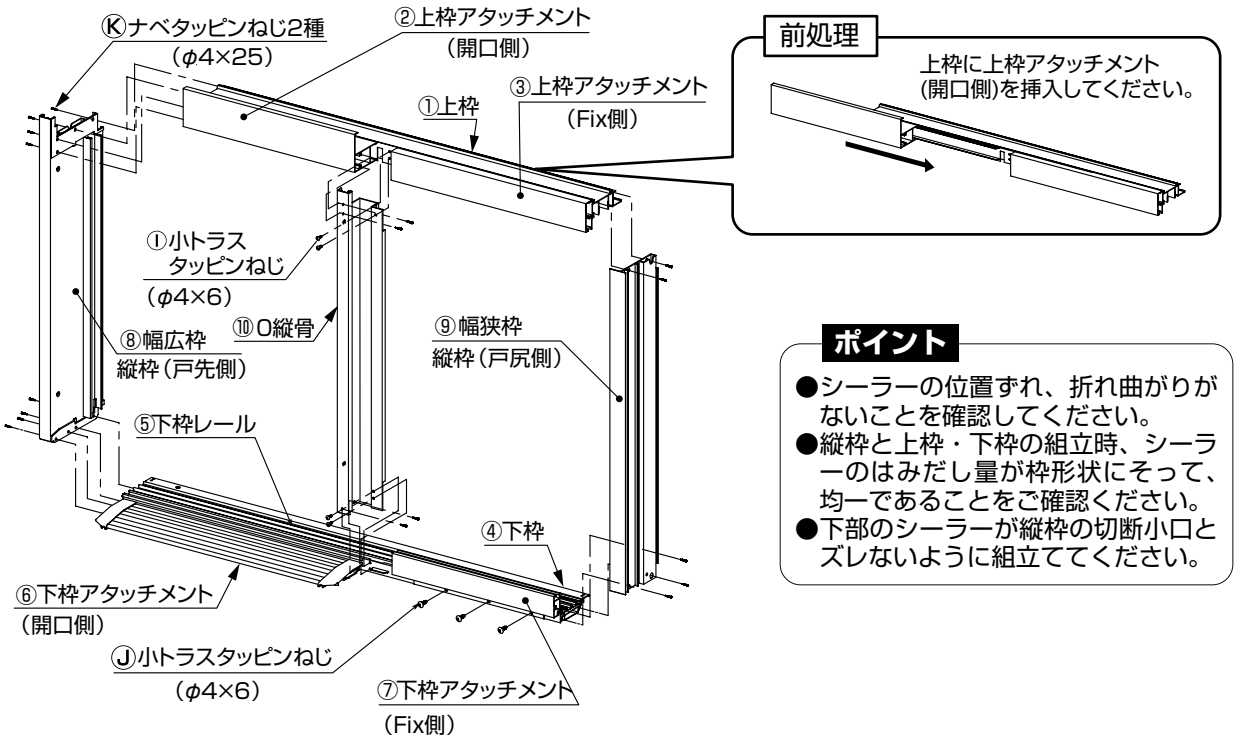
●Ⓕ引手キャップを取付けます。

2枚引戸枠の組立（全体図）

■枠の組立には2種類のねじを使用してください。
（短いねじについては縦骨・下枠アタッチメント組立用です。）
※ **縦骨** → **両縦枠** の順に組立ててください。

お願い

●シーラー等の水密部品は説明書に従って組立ててください。
サッシからの漏水は家屋を傷め、施主様から賠償を求められることがあります。
●組立は、所定のねじを使用して最後まで締め付けてください。
締め付け不良は漏水や事故の原因になります。

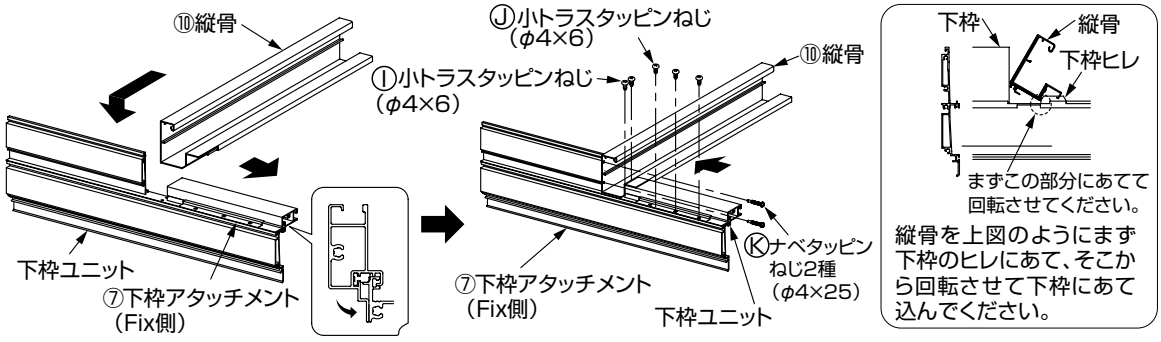


ポイント

●シーラーの位置ずれ、折れ曲がりがないことを確認してください。
●縦枠と上枠・下枠の組立時、シーラーのはみだし量が枠形状にそって、均一であることをご確認ください。
●下部のシーラーが縦枠の切断小口とズレないように組立ててください。

2枚引戸枠の組立

①下枠に縦骨をあて込み、ねじ①→Ⓙ→Ⓚ順に組立ててください。



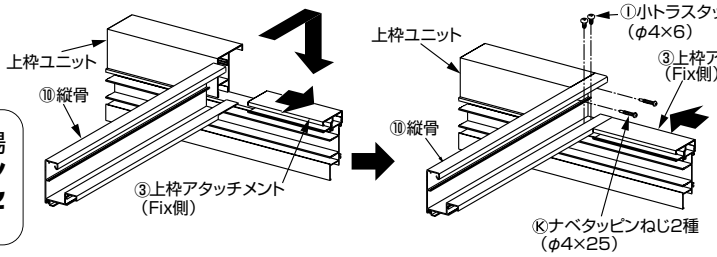
ポイント

縦骨が入れづらい場合は、**アタッチメントをずらしてからセット**してください。

ポイント

●縦骨と下枠をねじ①Ⓚにて組立後スライドさせたアタッチメントを元にもどし、ねじⒿにて下枠に取付けてください。
●下枠アタッチメントは縦骨に押し当てて組立ててください。押し当てが弱いと漏水の原因となります。

②上枠に縦骨をあて込み、ねじ①→Ⓚ順に組立ててください。



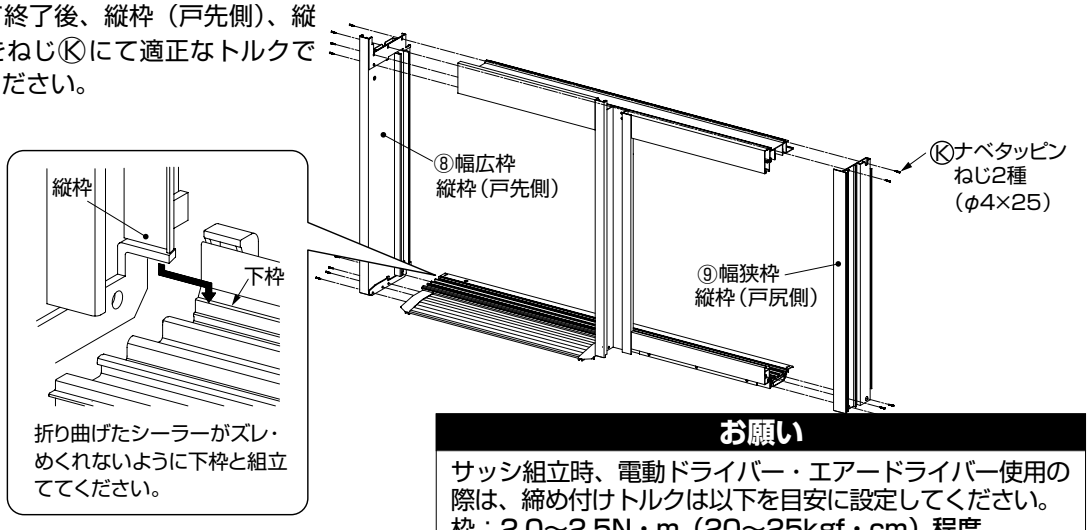
ポイント

縦骨が入れづらい場合は、**アタッチメントをずらしてからセット**してください。

ポイント

ねじ止めの後、スライドさせた**アタッチメントは元にもどして**ください。

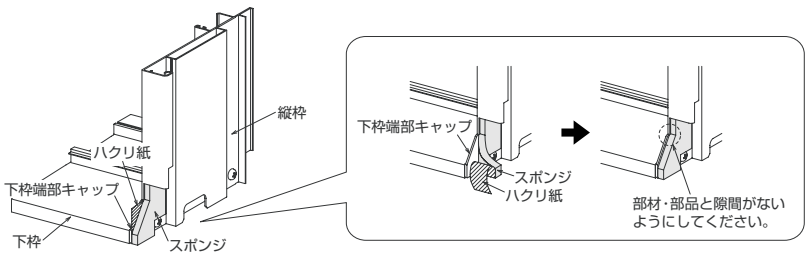
③①～②の組立て終了後、縦枠（戸先側）、縦枠（戸尻側）をねじⓀにて適正なトルクでねじ止めしてください。



お願い

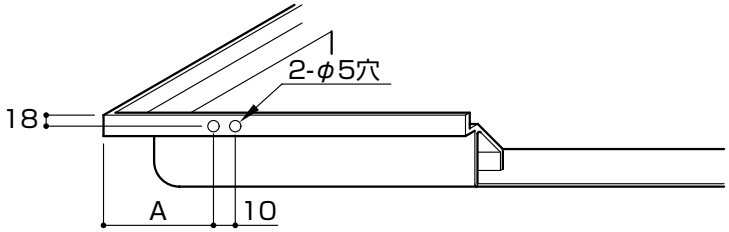
サッシ組立時、電動ドライバー・エアードライバー使用の際は、締め付けトルクは以下を目安に設定してください。
枠：2.0～2.5N・m（20～25kgf・cm）程度

④縦枠・縦骨に貼付済みのスポンジのハクリ紙を 剥がして、下枠端部キャップと貼り合わせてください。

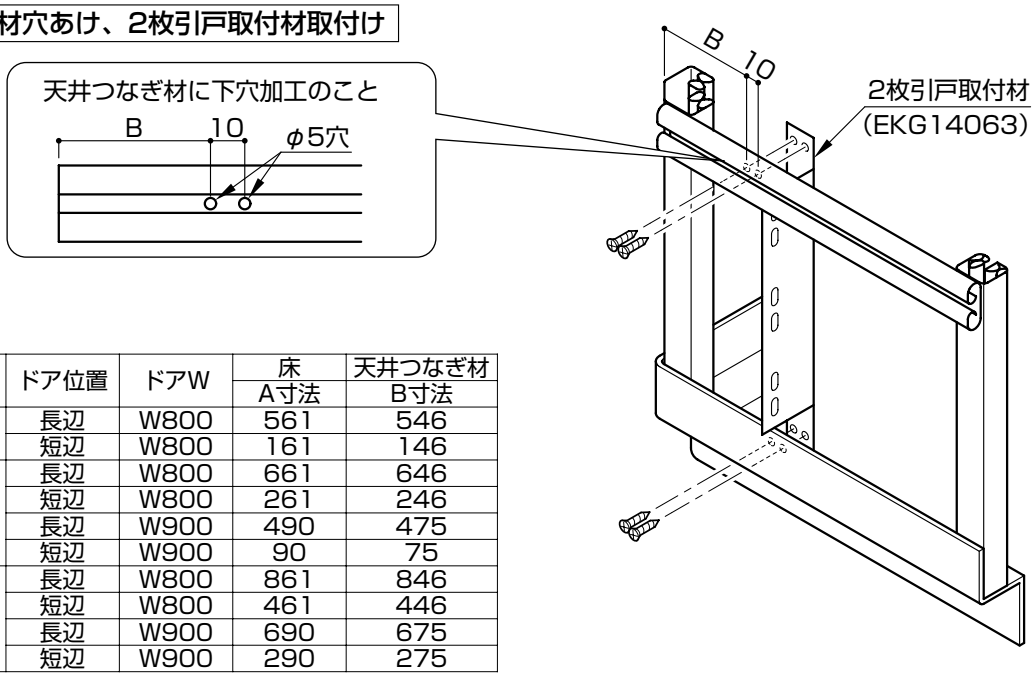


2枚引戸取付材の取付

1 床パンにφ5穴あけ



2 天井つなぎ材穴あけ、2枚引戸取付材取付け

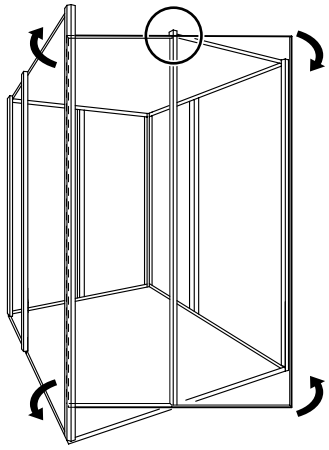


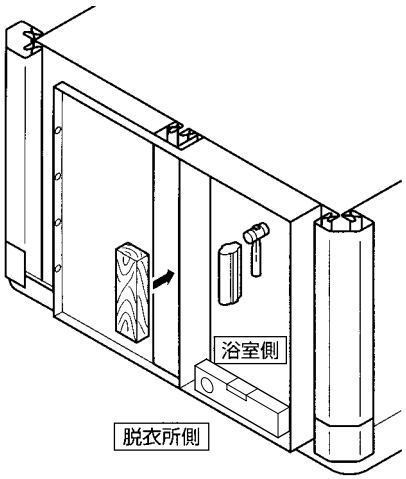
	ドア位置	ドアW	床 A寸法	天井つなぎ材 B寸法
1317プラス	長辺	W800	561	546
	短辺	W800	161	146
1418プラス	長辺	W800	661	646
	短辺	W800	261	246
	長辺	W900	490	475
	短辺	W900	90	75
1620プラス	長辺	W800	861	846
	短辺	W800	461	446
	長辺	W900	690	675
	短辺	W900	290	275

2枚引戸枠建込み

1 2枚引戸枠建込み

2枚引戸枠をななめに傾け、中骨を平ジョイナーにかん合させて回転させながらコーナージョナー側にかん合させる。
上部ジョイナーつなぎ材が切れていることを確認。（天井高2000の場合）





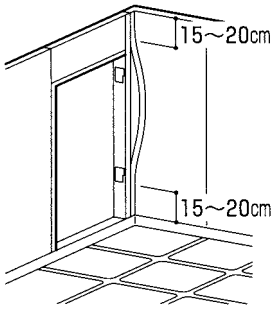
施工のポイント

ドア枠を取付ける場合には、脱衣所側より当て木をし、壁パネルを建込む。

（2枚引戸の場合、天井つなぎ材が切れているため、壁を建て込む時に壁が後ろに逃げるので確実に実施をしてください。）

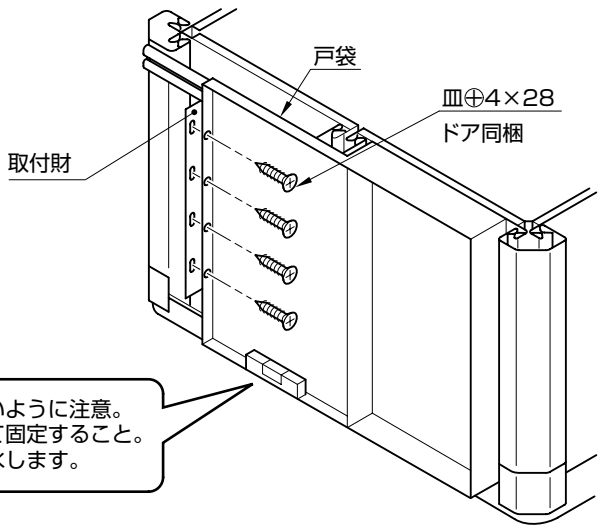
2 コーナー目地仮打ち

コーナー目地を下端からあて木をして仮打ちをする。
仮打ちは上下端（15～20cm）



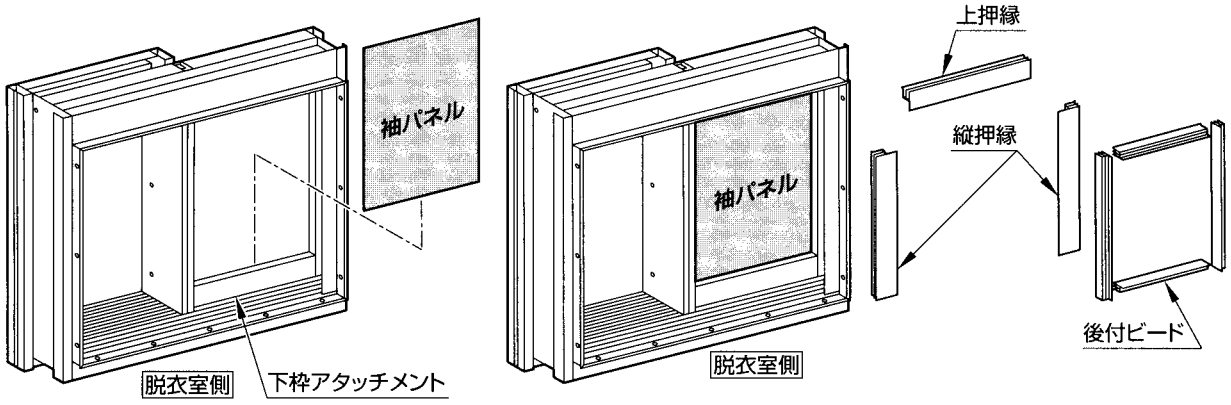
ドア枠の倒れ調整

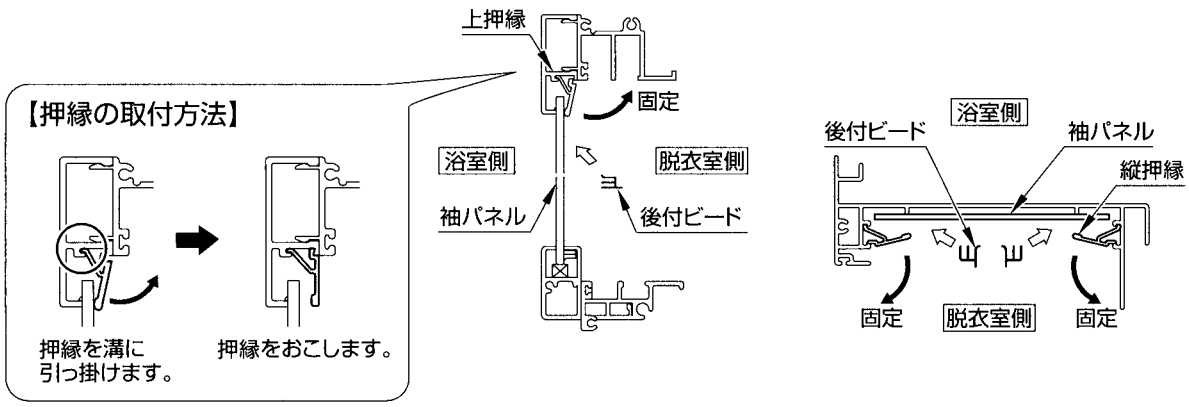
【2枚引戸の場合】
戸袋のレベルを出し取付材へ固定する。



パネル収納

① 袖パネルを脱衣室側よりいれて、下枠アタッチメントへおろしてください。
②浴室側へ起こしてください。
③ 上押縁・縦押縁の順に脱衣室側より入れてはめ込み、後付ビートを縦→横の順で手で押さえて整えます。



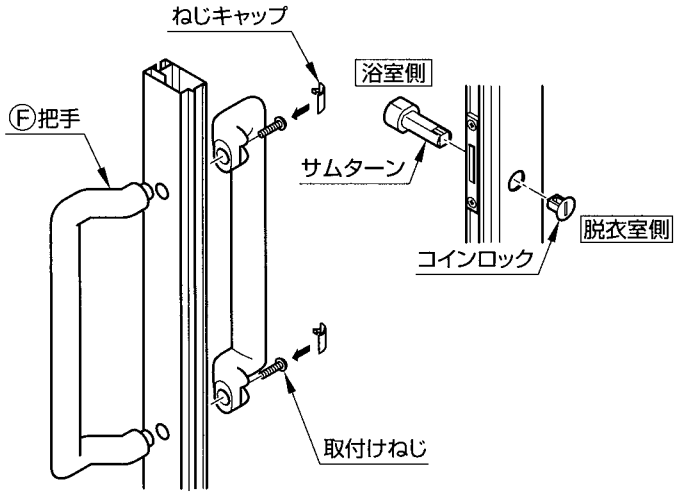


把手の取付

【把手の取付け】
図のように把手をトラス小ねじ（φ5×20）で取付けます。

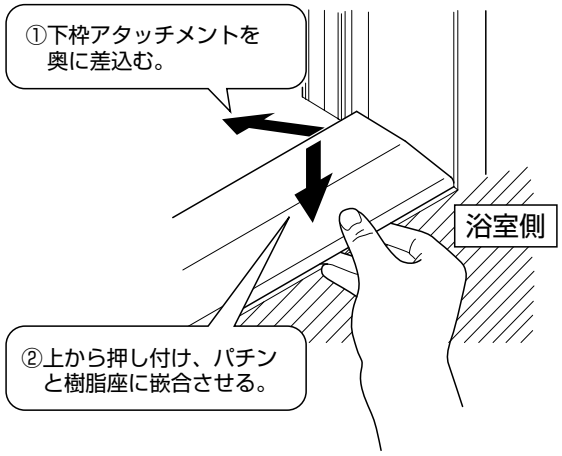
【錠部ツマミの取付け】
サムターンおよびコインロックを図の向きで、はめ込んでください。

●浴室側…サムターン
●脱衣所側…コインロック
となるように必ず取付けてください。
※誤って内外逆に取付けてしまった場合は、サムターンのツマミ部で覆ってからパンチで引抜いて再度、図の向きに取付けてください。



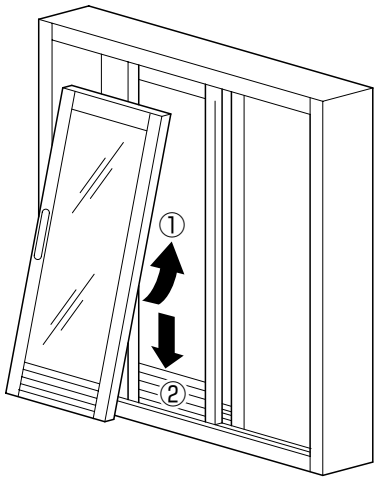
下枠アタッチメント取付

下枠アタッチメントはカチッと納まるまで確実に取付けてください。



障子の吊込み

下図のように障子を脱衣室側から吊込みます。



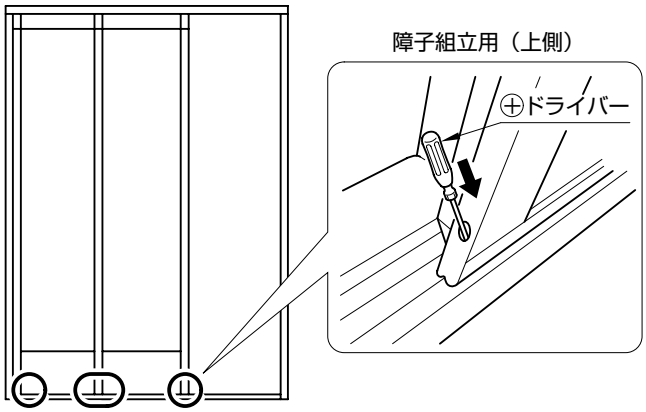
建付調整

戸車調整

建付けが悪い場合、戸車を上下することで調整してください。

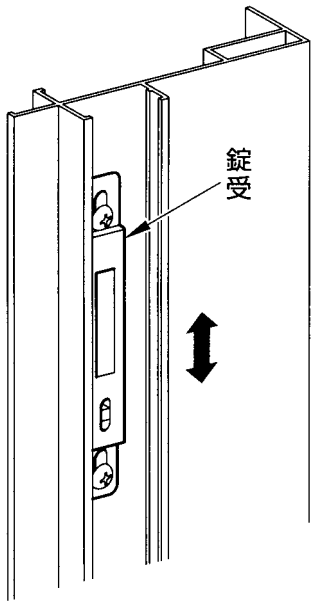
※⊕ドライバー(手回し)で戸車調整ねじを時計回りに回すと障子が上がります。

●電動ドライバーを使用するとねじ頭がつぶれ、戸車調整ができなくなりますので使用しないでください。



錠受調整

錠のかかりが悪い場合、錠受取付ねじを緩めて上下方向に調整し、再度ねじを締め直してください。



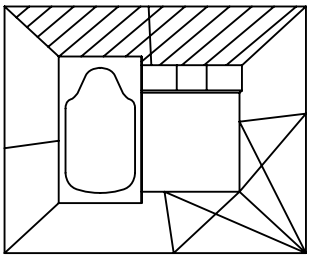
カウンター（Sh）取付

1 補強鋼板貼付・穴あけ

本図はRタイプを示しLタイプは逆勝手

穴あけ及び補強鋼板（同梱）の貼付けを行う。

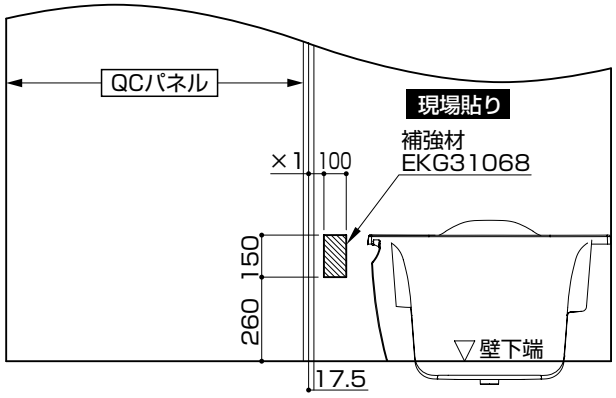
●補強鋼板ははがれないように強く押しつけること。
●下穴は不要。ポンチ加工。



【裏補強鋼板貼付位置】

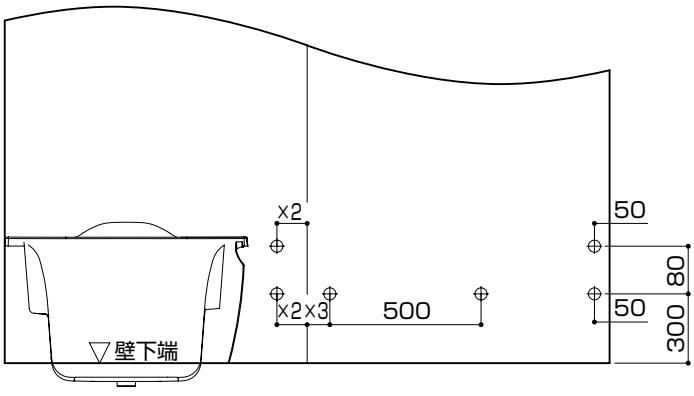
※洗い場正面壁がQCパネルの場合

UBサイズ	×1
1317	50
1418	50
1620	100



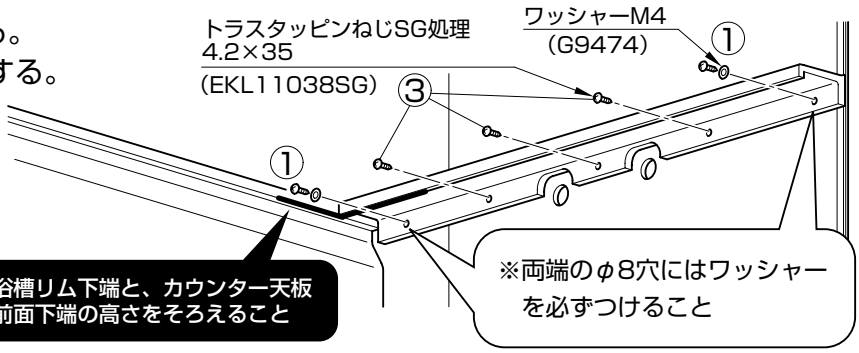
【けがき位置】

UBサイズ	×2	×3
1317	100	75
1418	100	100
1620	150	125



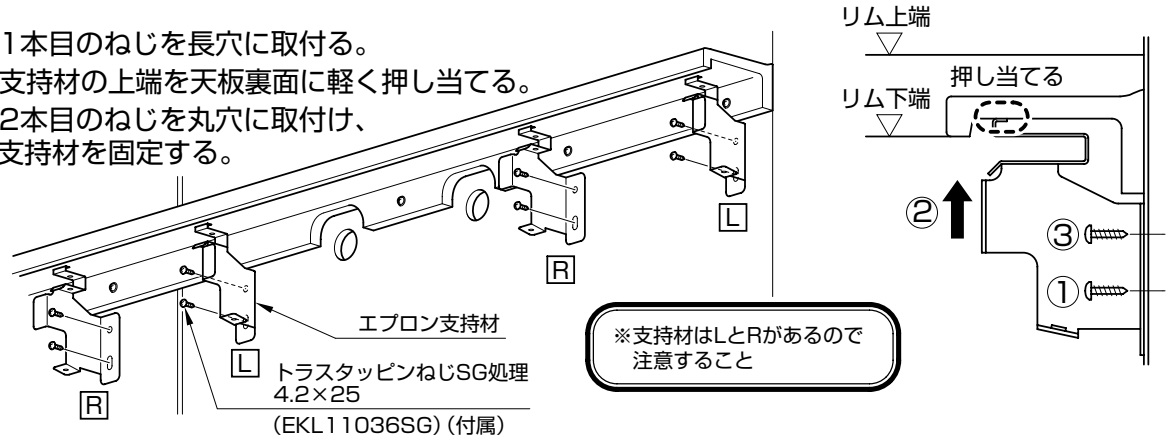
2 カウンター天板取付け

①両端のφ8穴にねじを取付る。
②天板上面のレベルを微調整する。
③残りのφ5穴にねじを取付る。



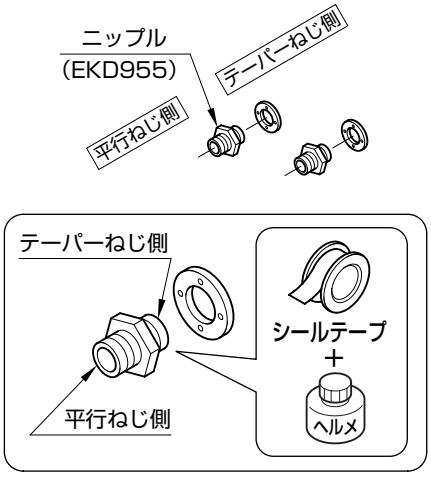
3 エプロン支持材を取付け

①1本目のねじを長穴に取付る。
②支持材の上端を天板裏面に軽く押し当てる。
③2本目のねじを丸穴に取付け、
支持材を固定する。

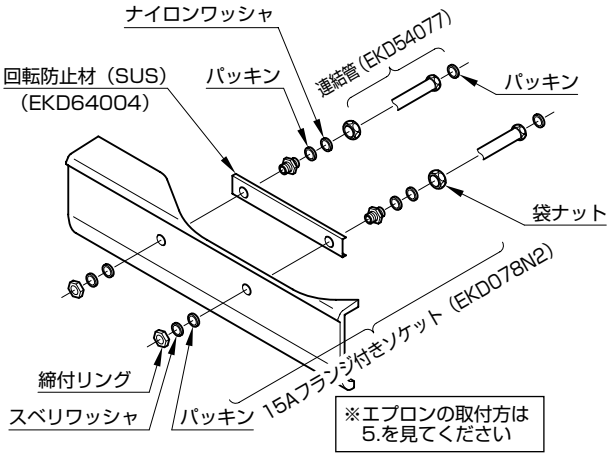


4 カウンター内部配管接続

壁側

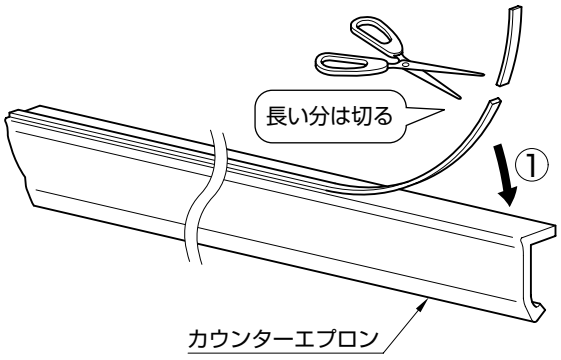


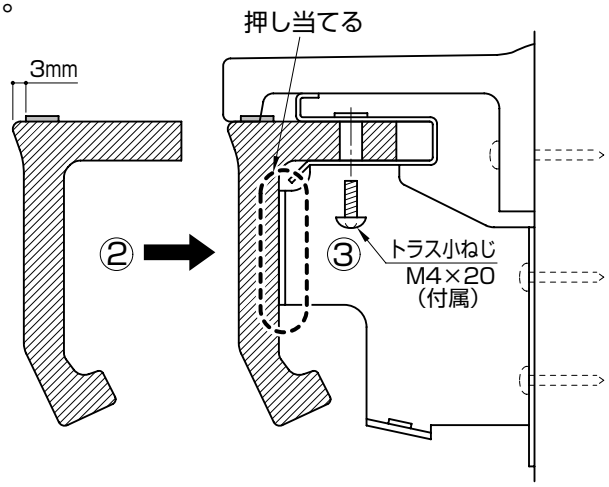
カウンターエプロン側



5 エプロン取付け

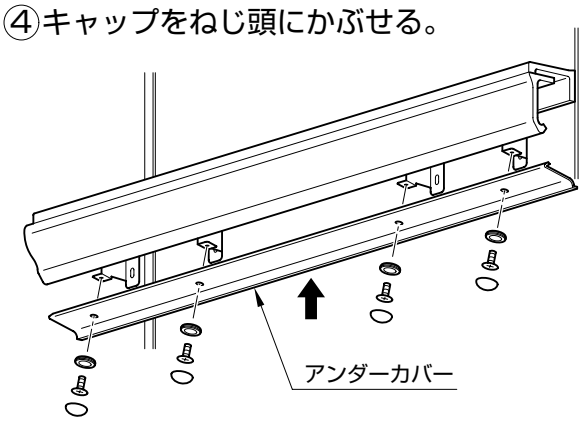
①エプロンの端から3㎜のところにペフを貼る。
②エプロンを支持材に押し当てる。
③ねじでエプロンを固定する。

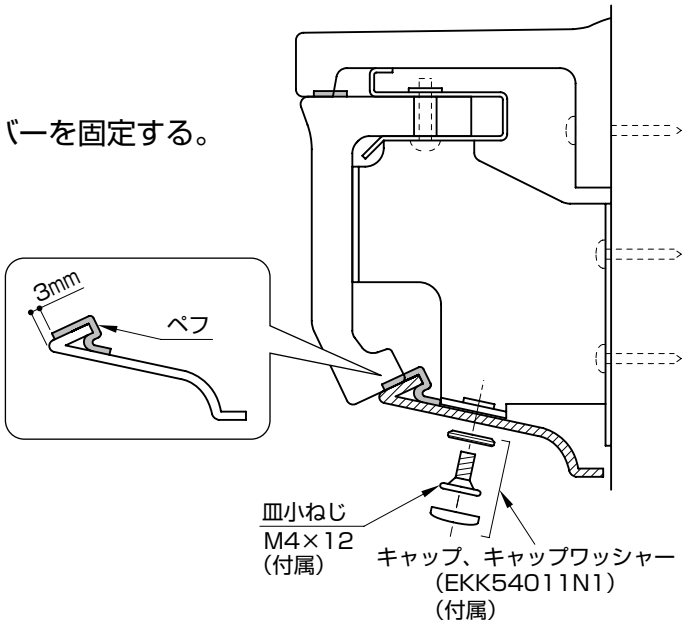




6 アンダーカバー取付け

①アンダーカバーにペフを貼る。
②アンダーカバーをセットする。
③キャップワッシャーと皿ねじでアンダーカバーを固定する。
④キャップをねじ頭にかぶせる。





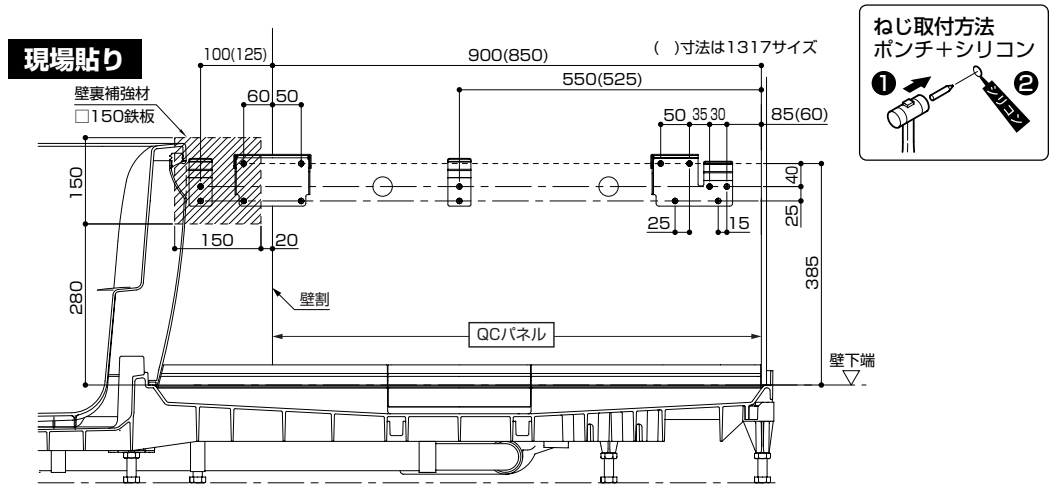
タッチスイッチ水栓カウンター取付

1 壁裏補強について

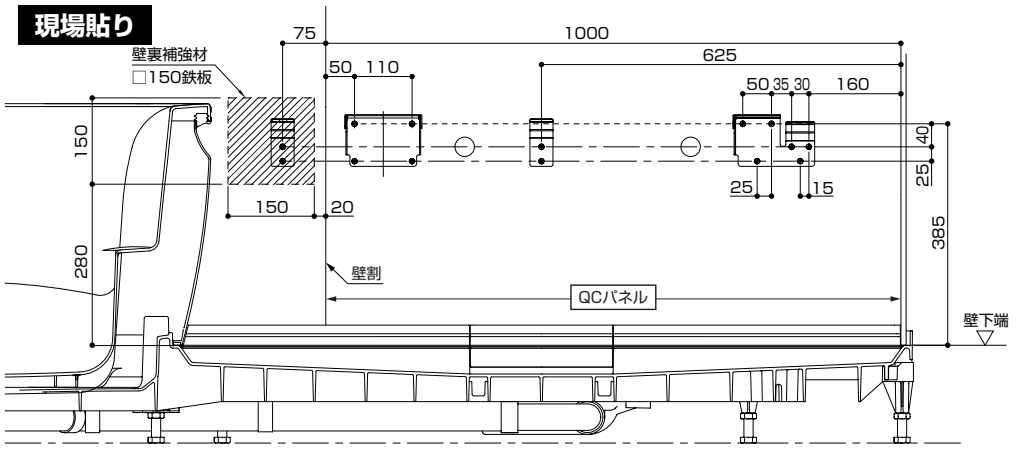
下図位置に支持材を取付ける。

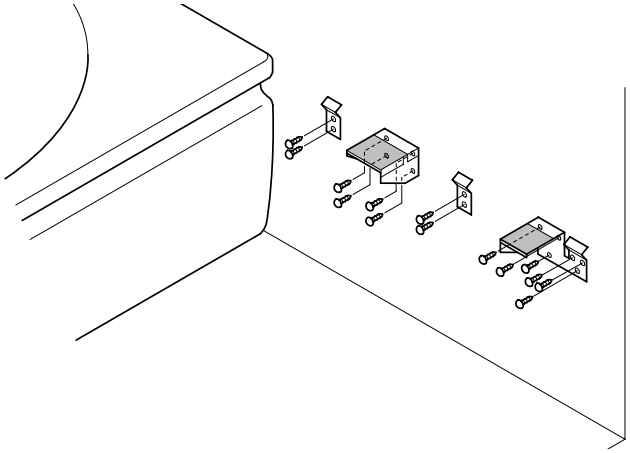
Rタイプ Lタイプは逆勝手となります。

〈1317／1418サイズ〉



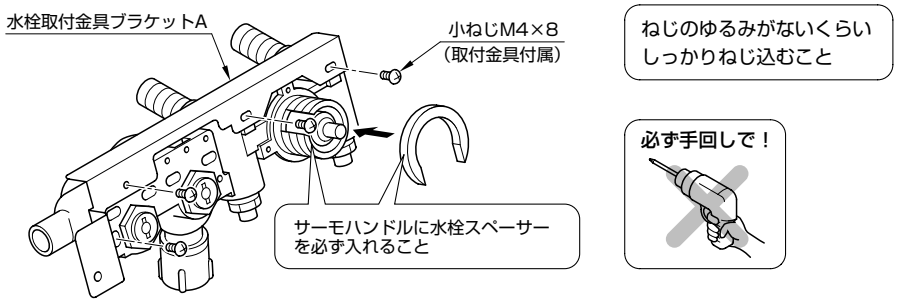
〈1620サイズ〉



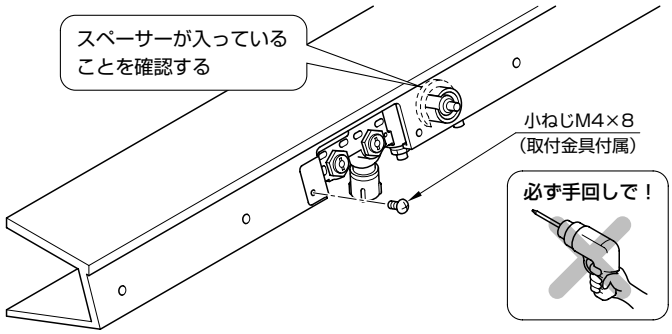


2 水栓金具の取付け

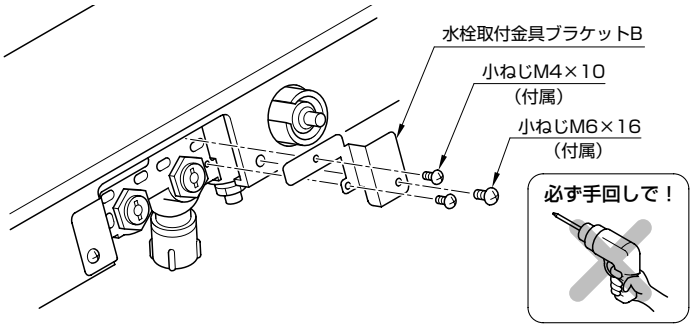
①水栓取付金具ブラケットAを小ねじで本体に固定する。



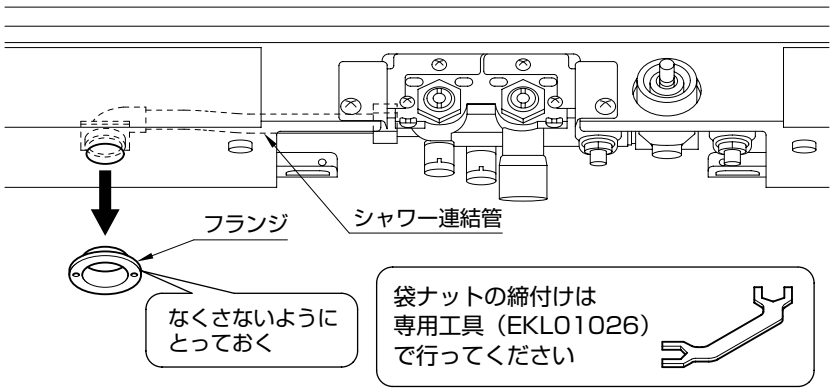
②水栓本体にカウンターを取付ける。



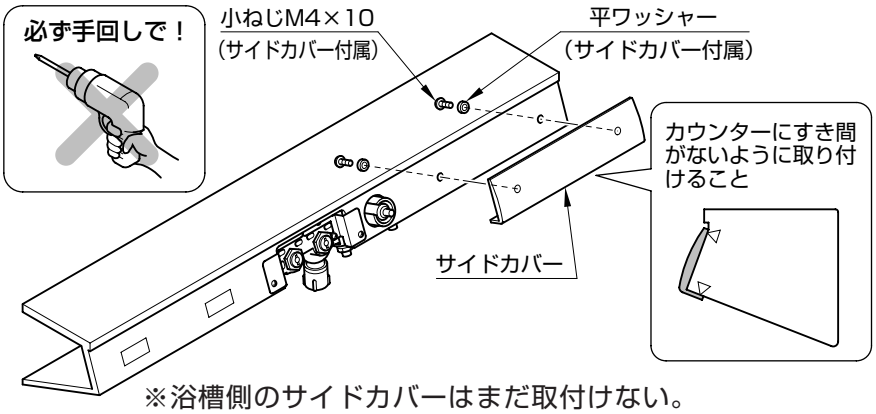
③水栓取付金具ブラケットBを小ねじで本体に固定する。



3 シャワー連結管の取付け

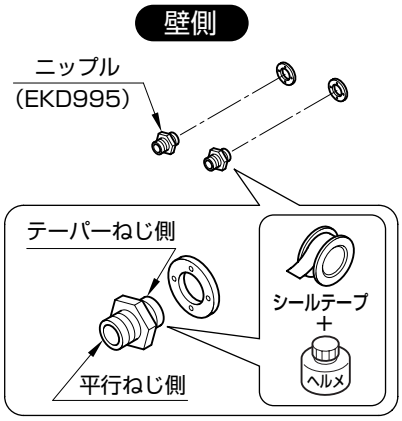


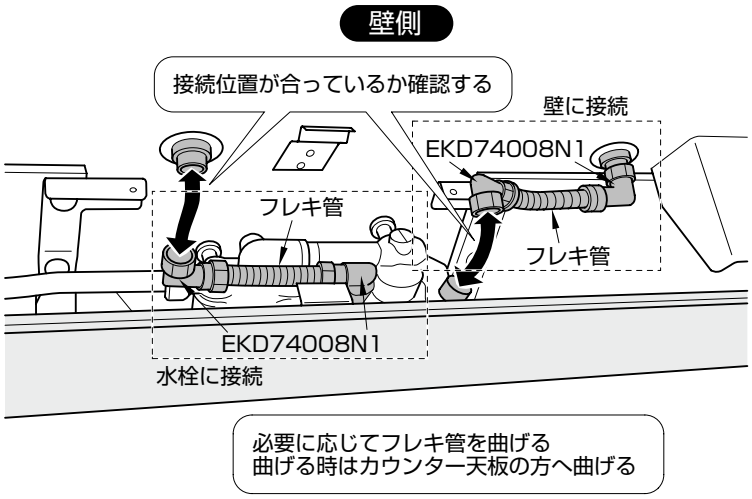
4 サイド（壁側）カバーの取付け



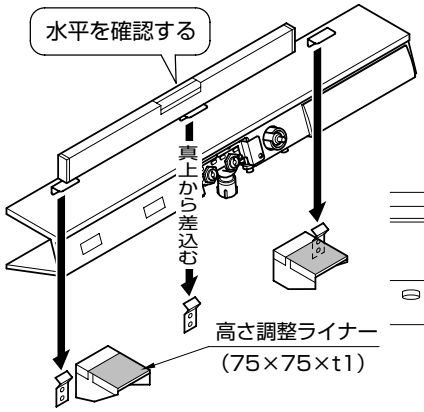
※浴槽側のサイドカバーはまだ取付けない。

5 配管の取付け

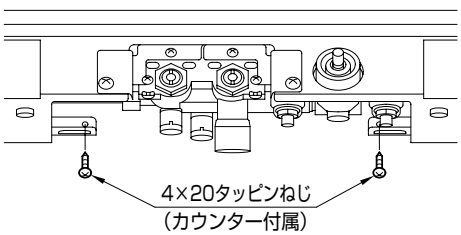


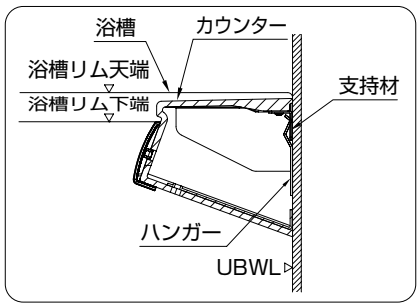


6 カウンターの取付け

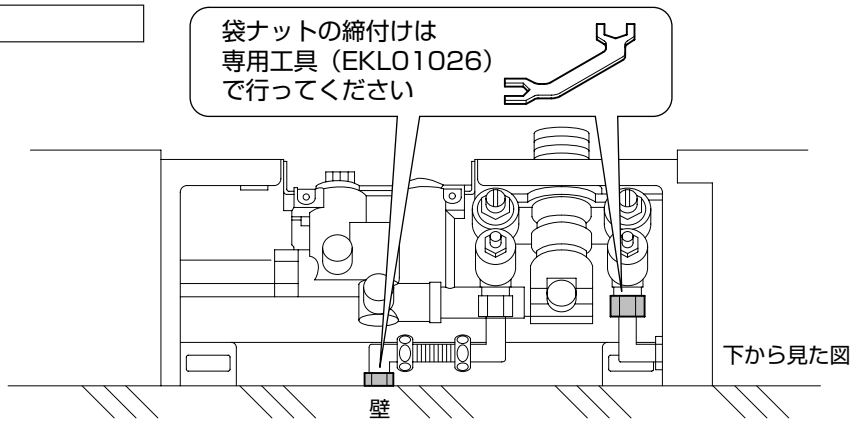


・カウンターをハンガーに真上から差し込む。
・配管がカウンターから飛び出さないように気をつけること。
・カウンターをねじで固定する。



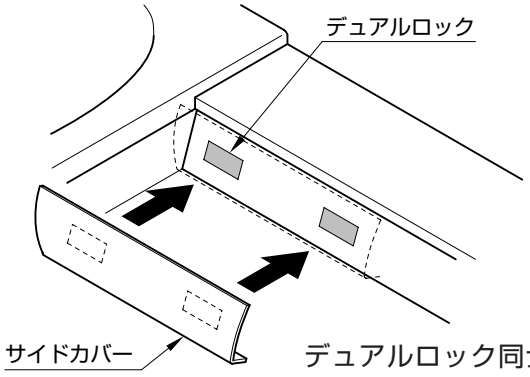


7 配管の接続

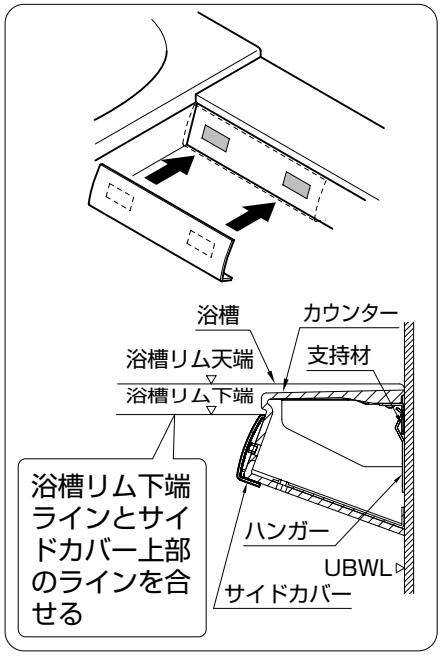


8 サイド（浴槽側）カバーの取付け

●浴槽エプロンセット後取付けのこと。

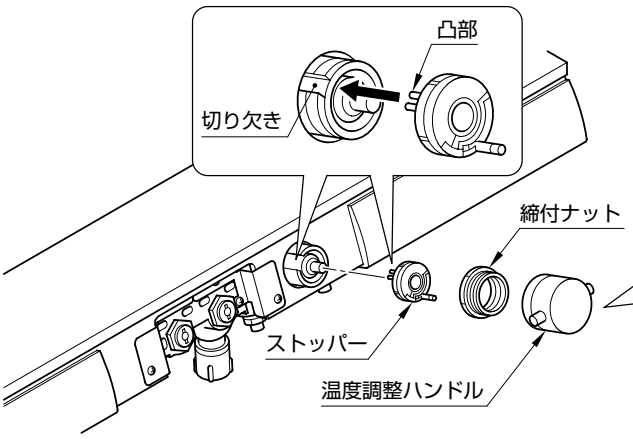


デュアルロック同士を合わせ強く押し付けサイドカバーを取付ける。

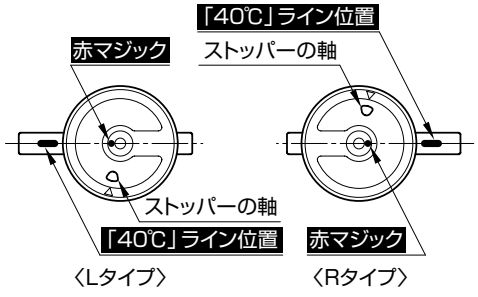


9 ハンドルの取付け

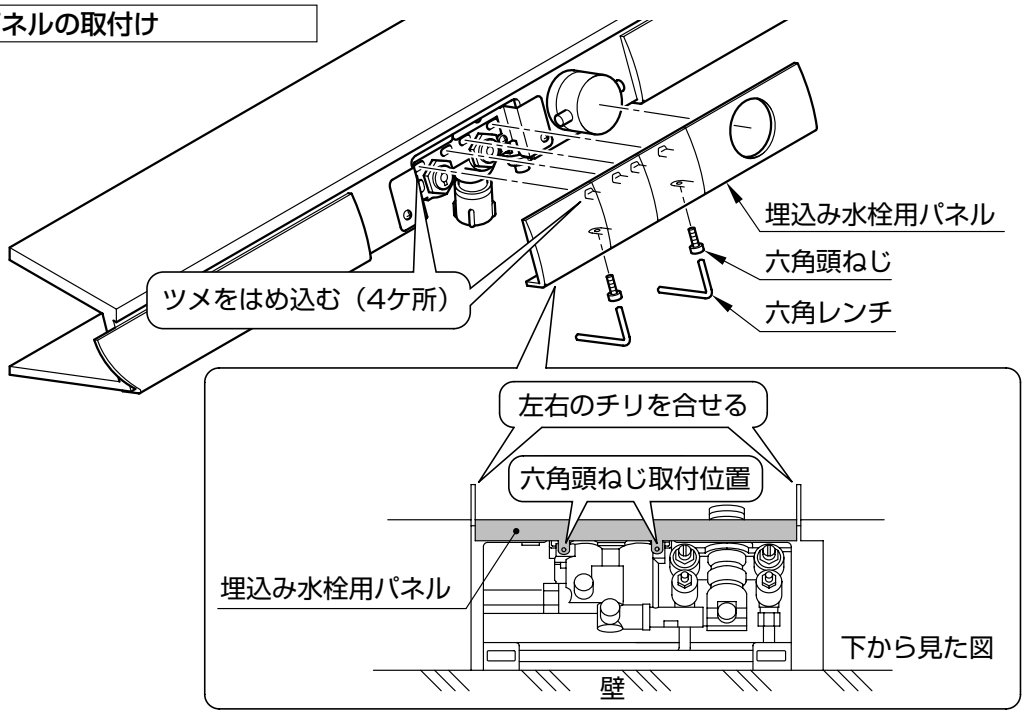
水栓本体の切り欠きとストッパーの凸部を合わせ、組み込む。



スピンドルにある赤マジックの印と温度調節ハンドルの40℃ライン位置が、一直線になるように合わせてはめ込んでください。

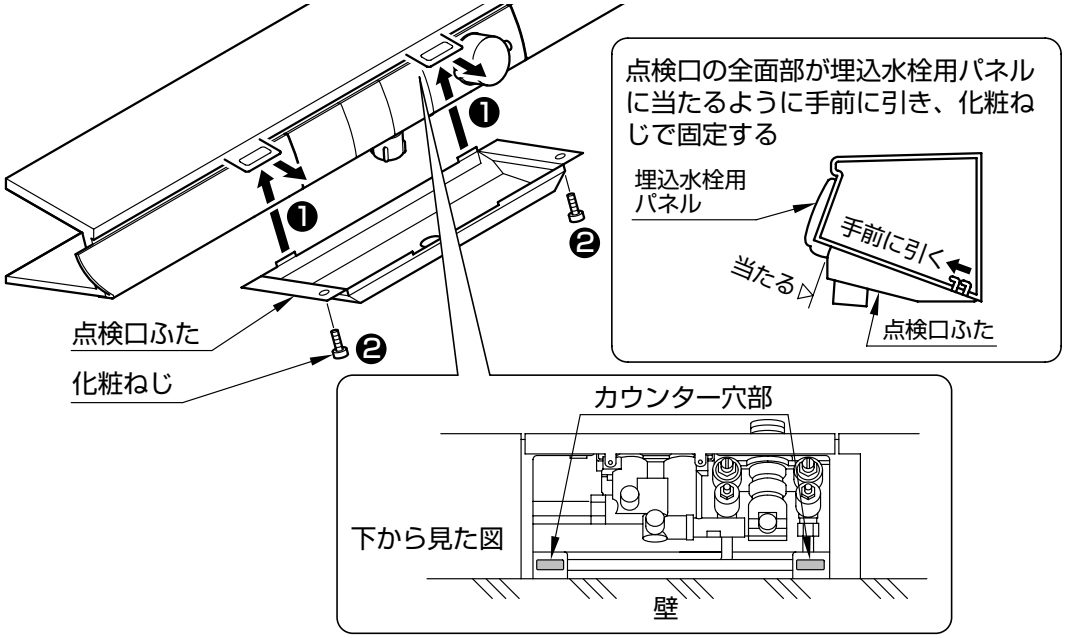


10 水栓パネルの取付け



11 点検口ふたの取付け

点検口ふたを化粧ねじで取付ける。

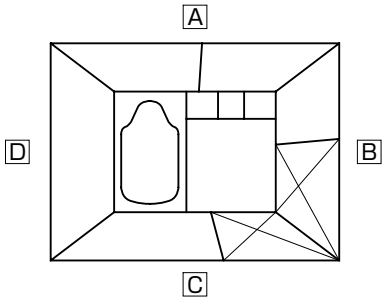


スリムカウンター（フック付）取付

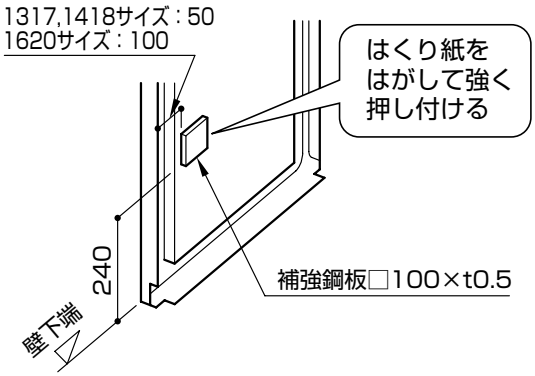
1 補強鋼板貼付・けがき

本図はRタイプを示しLタイプは逆勝手

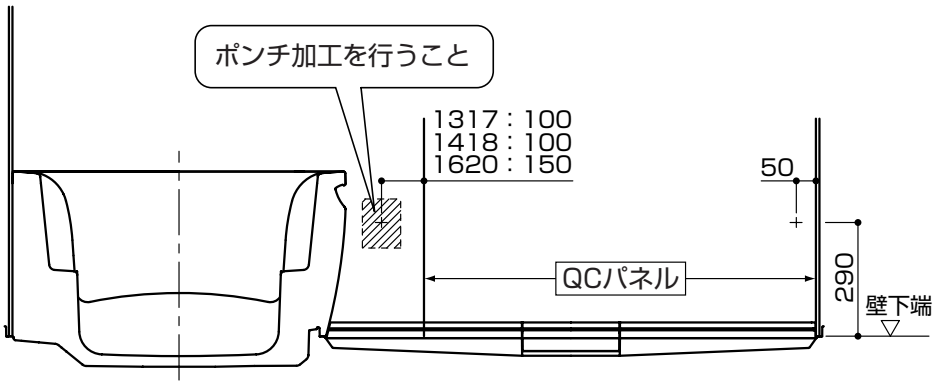
【裏補強鋼板貼付位置】



壁A裏面浴槽側

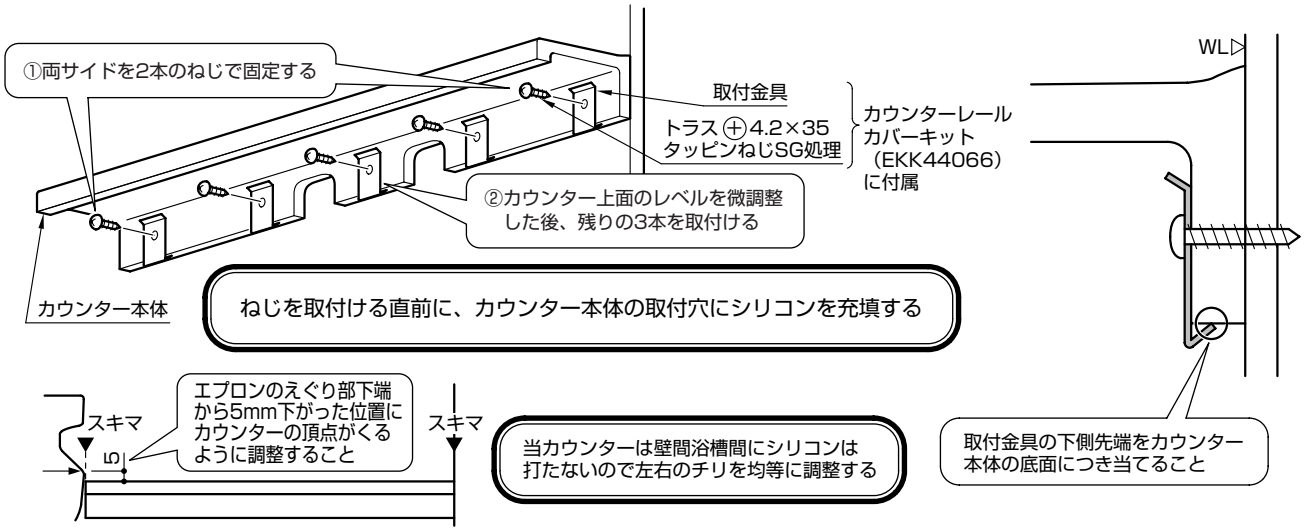


【けがき線】



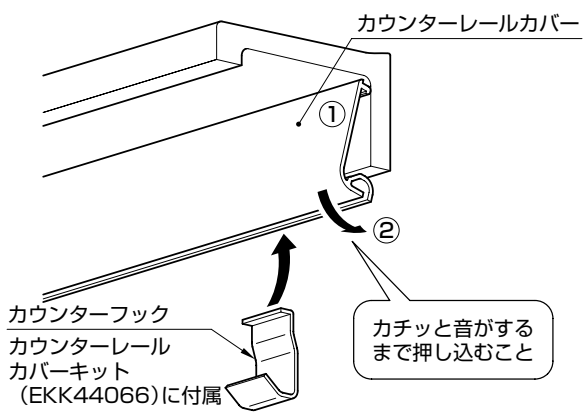
2 カウンター本体取付

カウンター本体と取付金具の取付けを行う。



3 カウンターレールカバー・フック取付

●カウンターレールカバーとフックを取り付ける。

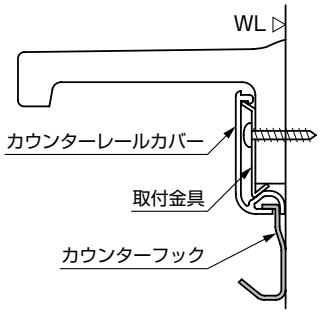


カウンターレールカバーを端から順にはめていきます。（5ケ所）

①カウンターレールカバーの上端を取付金具の上端にひっかける。

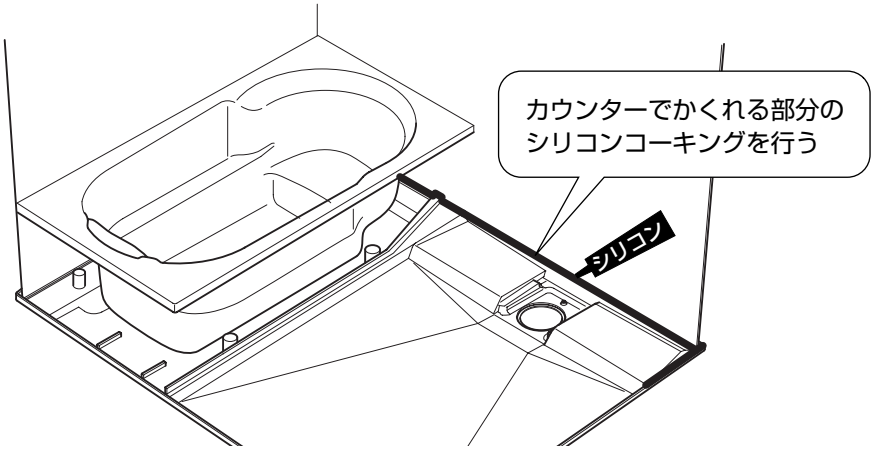
②カウンターレールカバーの下端を取付金具の下端に押し込むよ　うにひっかける。

次にカウンターフック（3個）をカウンターレールカバー下端に差し込む。



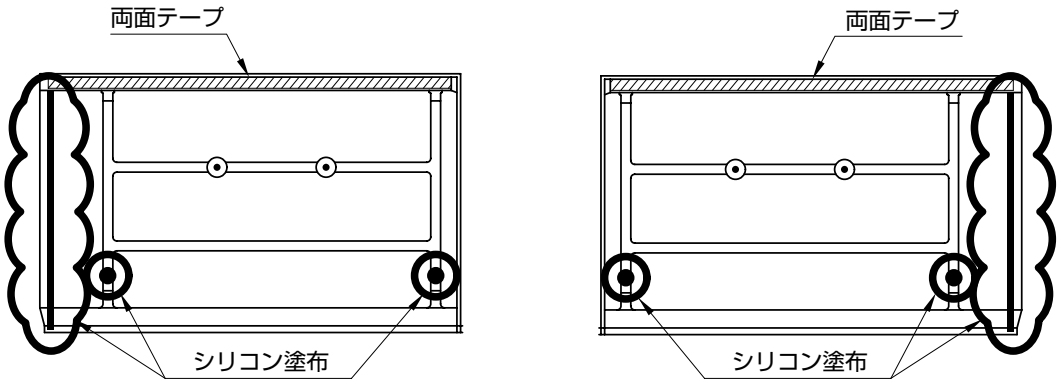
フロアカウンター取付

1 シリコンコーキング

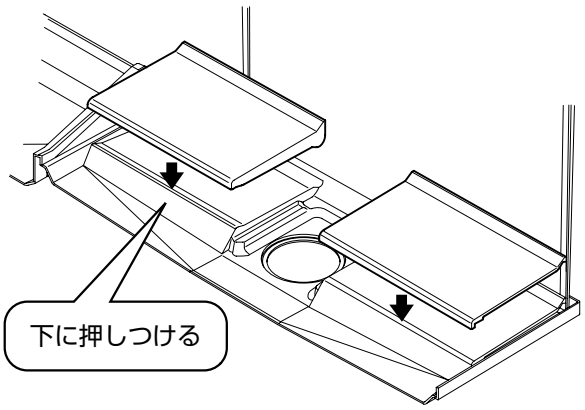


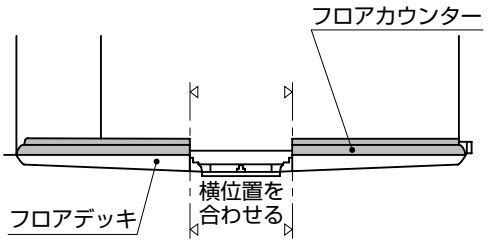
2 カウンター裏面シリコン塗布

・シリコンをカウンター裏面の下図の位置にたっぷり塗布する。
・両面テープのはくり紙を全てはがしておく。



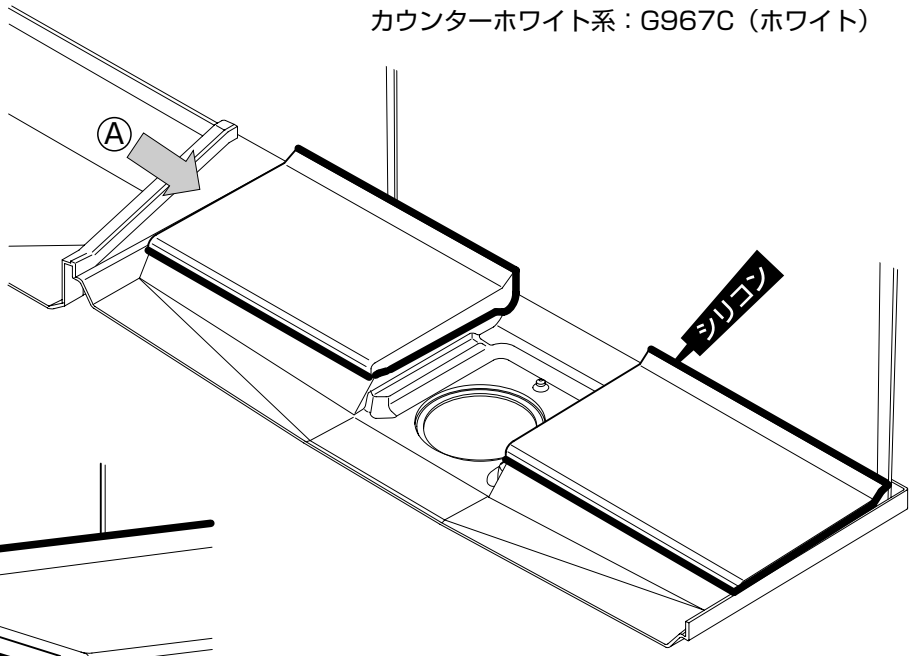
3 カウンター（サイド）取付け

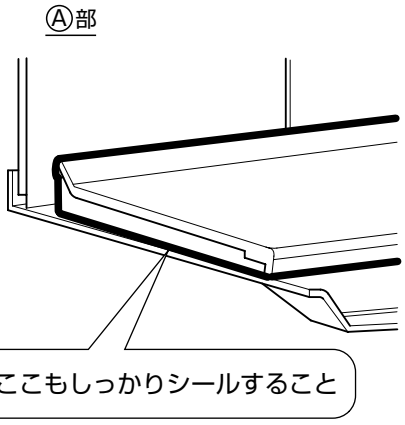




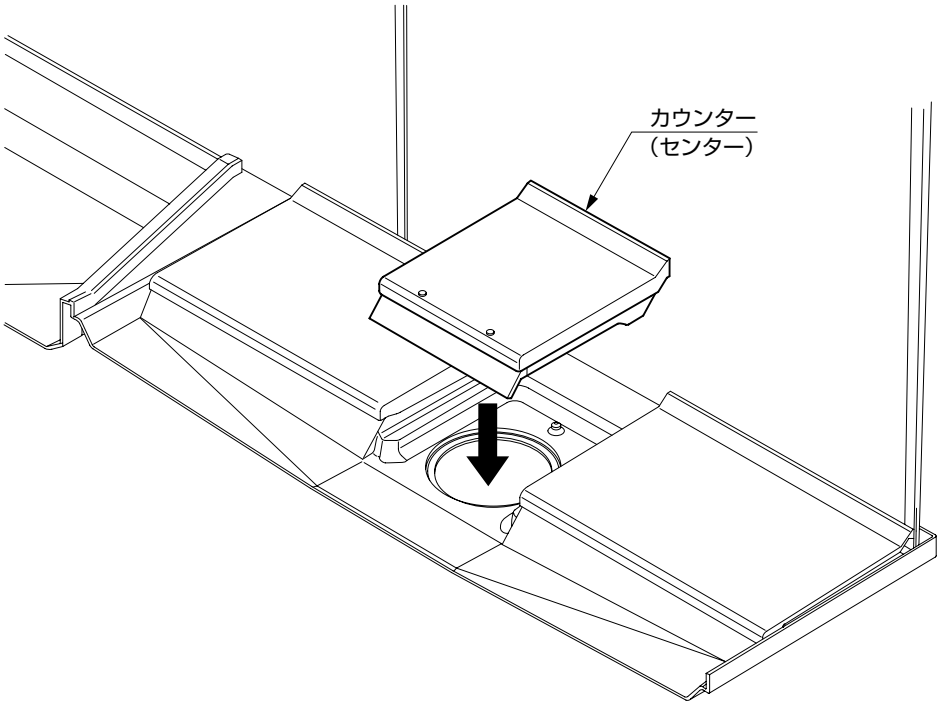
4 仕上げシリコンコーキング

カウンターブラック系：G967K1（ブラック）
カウンターベージュ系：G967HB1（ハーベストブラウン）
カウンターホワイト系：G967C（ホワイト）



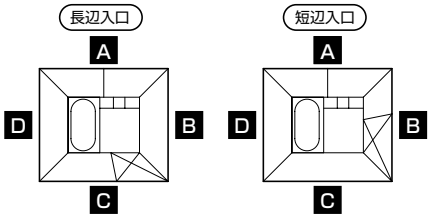


5 カウンター（センター）取付け



ワイドフルミラー、ワイドミラー、矩形ミラー

1 穴あけ

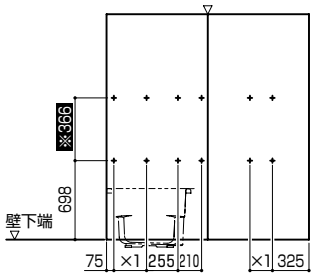


・図は壁パネル表面の加工内容。
・※部の寸法は厳守のこと。

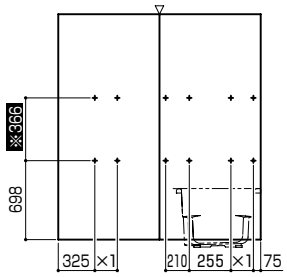
壁A面

【ワイドミラー（CDタイプ標準）の場合】

〈Rタイプ〉



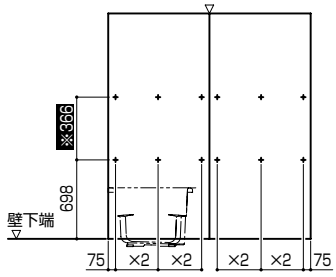
〈Lタイプ〉



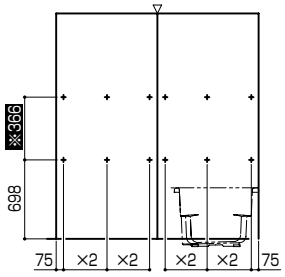
UB長辺サイズ	寸法 ×1
1750	315
1850	365
2050	465

【ワイドフルミラー（CDタイプ収納なしセレクト）の場合】

〈Rタイプ〉



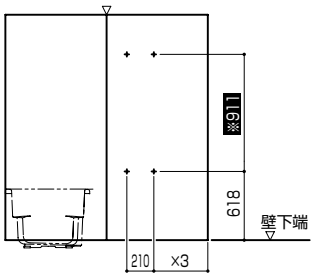
〈Lタイプ〉



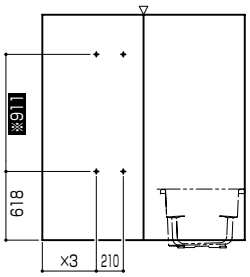
UB長辺サイズ	寸法 ×2
1750	365
1850	390
2050	440

【矩形ミラー（CMタイプ）の場合】

〈Rタイプ〉

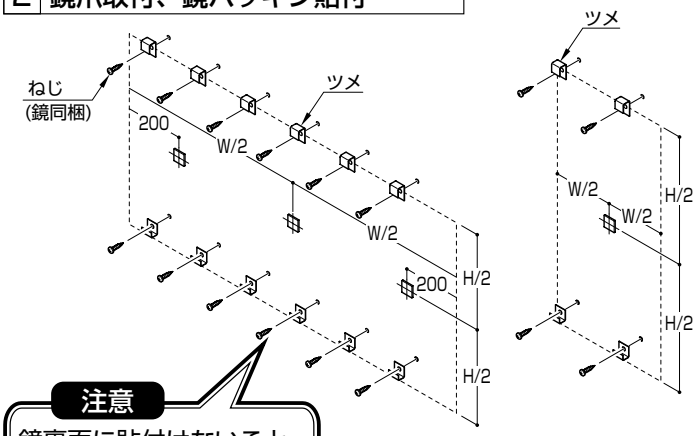


〈Lタイプ〉



UB長辺サイズ	寸法 ×3
1750	420
1850	445
2050	520

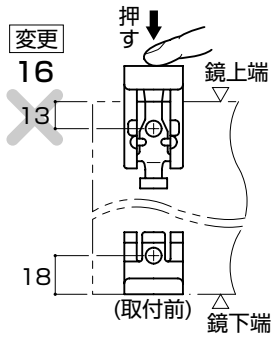
2 鏡爪取付、鏡パッキン貼付



注意

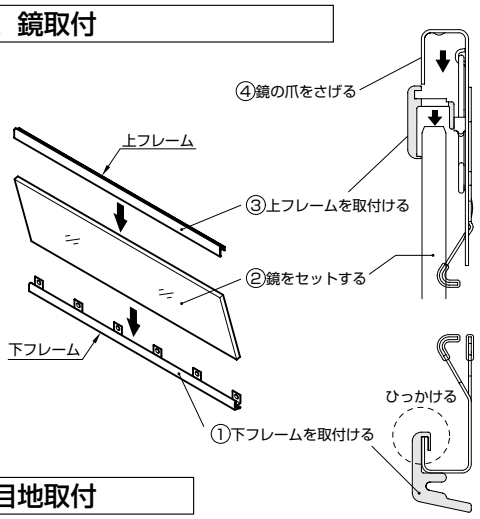
鏡裏面に貼付けないこと。
(腐蝕の原因となるため。)

お知らせ



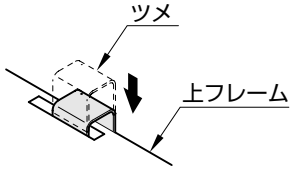
鏡爪の取付位置が変更になりました。
上爪は鏡上端から**16mm**のところに取り付けてください。

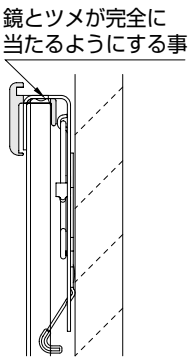
3 鏡フレーム、鏡取付



チェック1

鏡爪が**完全に下がっていること**を確認すること。きちんと入っていないとフレーム目地が波打つ原因になります。

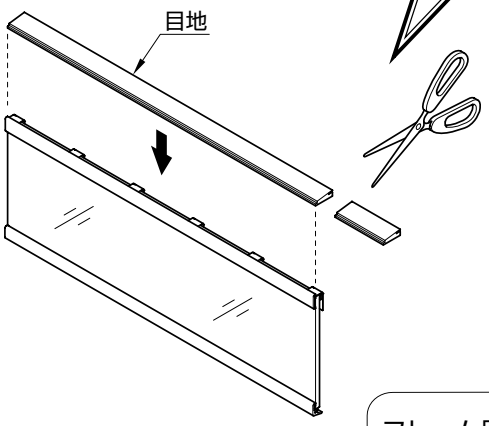


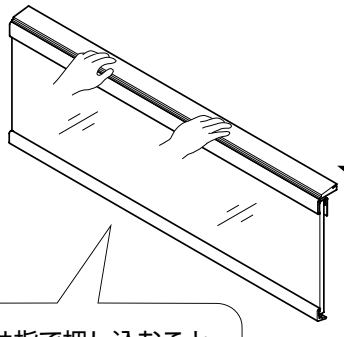


4 上フレーム目地取付

重要

フレーム目地は、フレームより20mm長くなっています。
フレームに合わせて現場で必ずカットしてください。





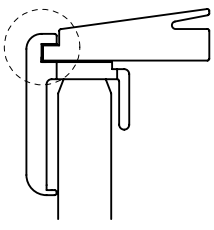
フレーム目地は指で押し込むこと。

チェック2

横から見て目地が波打っていないか確認すること。
指で押し込んで平らにします。

重要

目地を鏡フレームの凸部に必ず**引っかける**こと！！



スライドバー取付

①壁裏にスライドバー補強材を穴に合わせて取付ける。

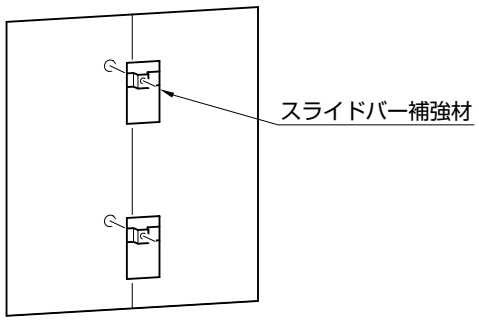
②壁を組み立てる。

③取付け用下穴にシリコンを充てんする。

④パッキン（O形）のセパレート紙をはがし、取付け座に貼る。

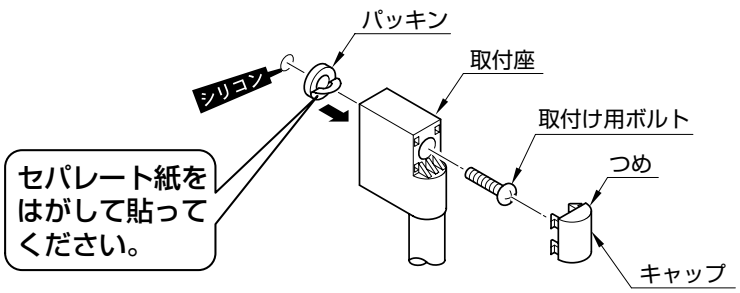
⑤取付用ボルト（M6）で固定する。

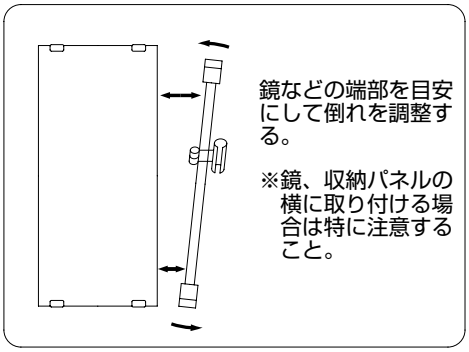
※注意点！
取付け座のガタツキ、壁とのスキマがないこと。

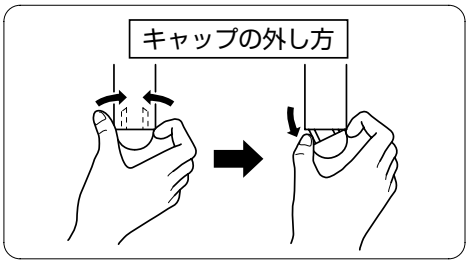


壁を裏から見た図（R勝手）

取付用ボルトを完全に締め付ける前に、取付け座を左右に動かして、スライドバーの鉛直方向の倒れを調整すること。





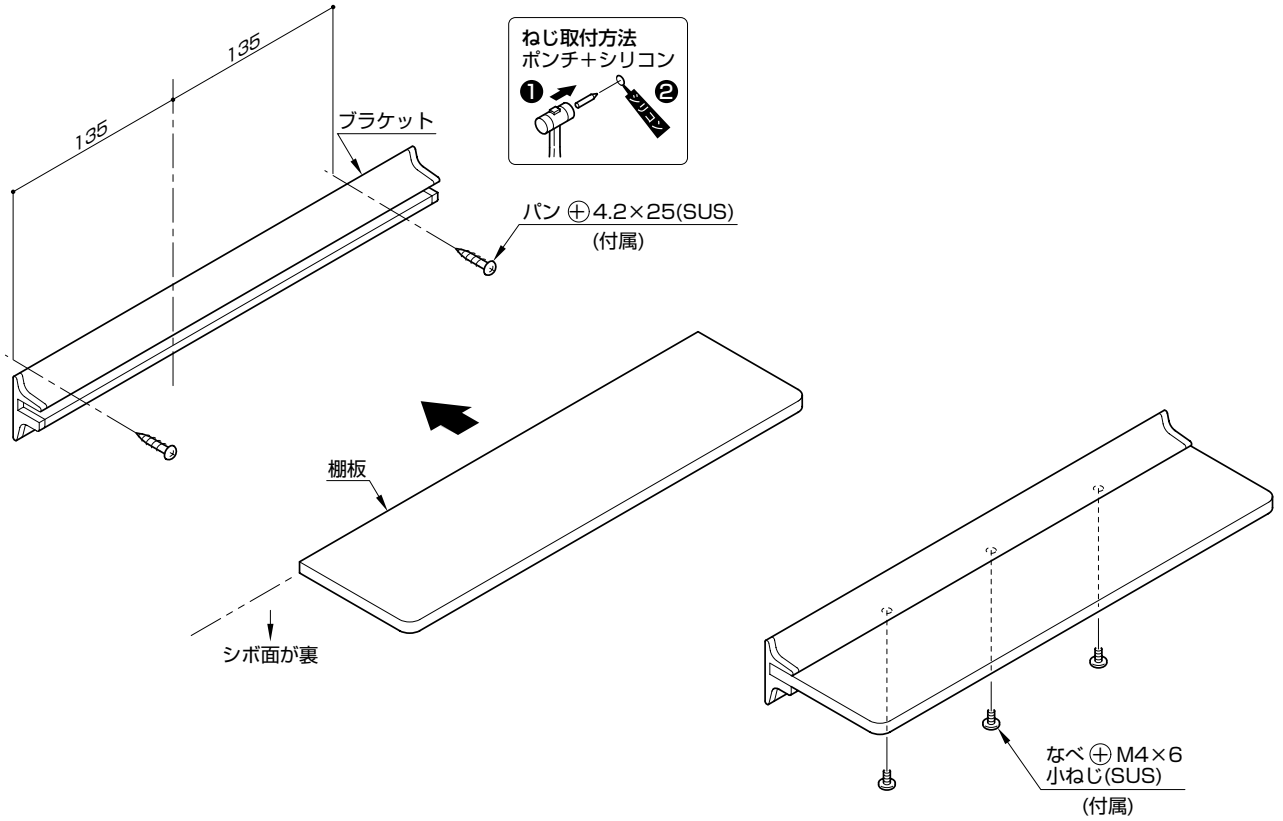


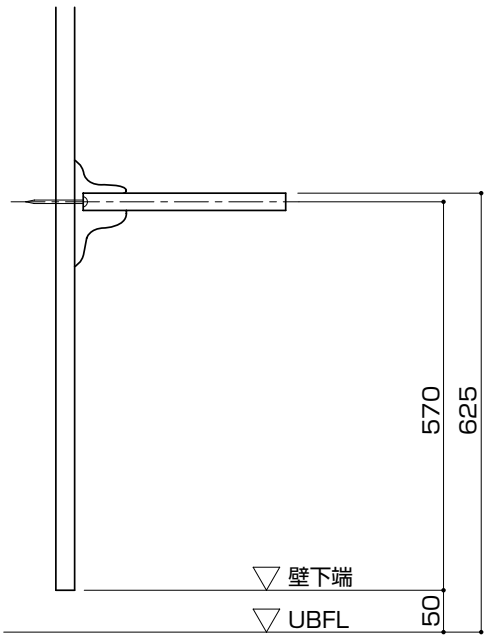
化粧棚取付

①ねじでブラケットを壁に固定する。

②棚板をシボが掛かっている面を下にしてはめ込む。

③小ねじでブラケットと棚板を固定する。





SP収納棚

①下図の位置にセンターポンチを打つ。

②シリコンをくぼみに塗布する。

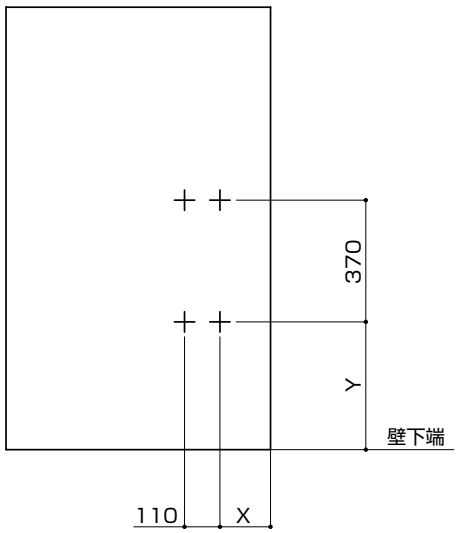
●X寸法

寸法＼UBサイズ		1620	1418	1317
X	縦鏡	220	145	120
	横鏡	75		

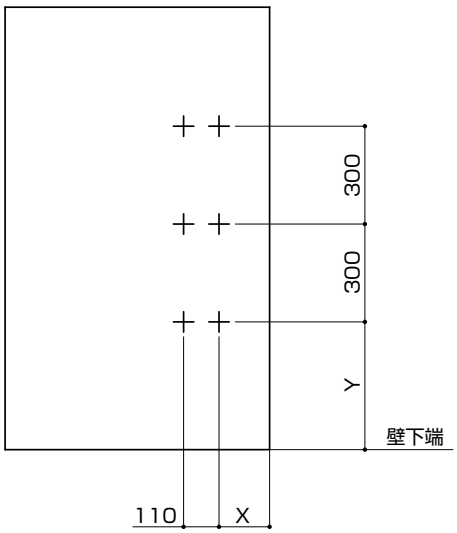
●Y寸法

寸法＼鏡	横鏡	縦鏡
Y	695	735

棚が2個の場合



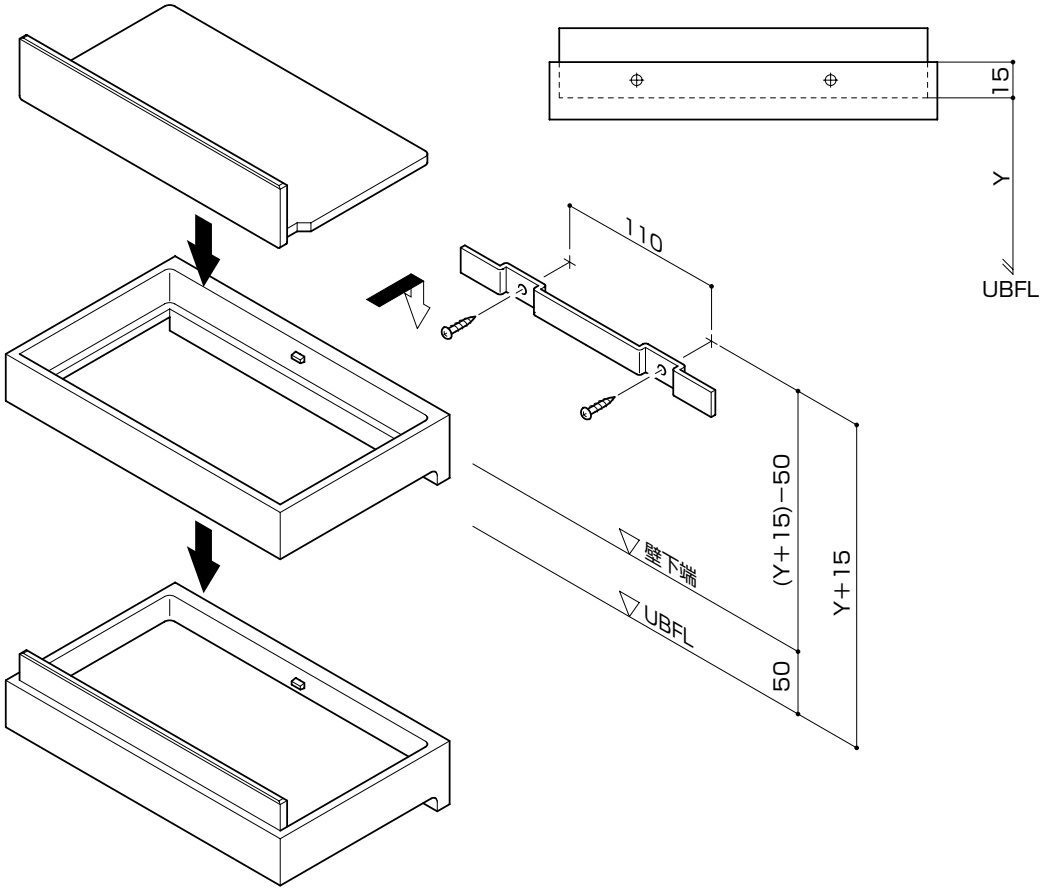
棚が3個の場合



③壁に支持材を取付ける。

④収納棚フレーム背面を支持材に差し込む。

⑤棚板をフレームに載せる。

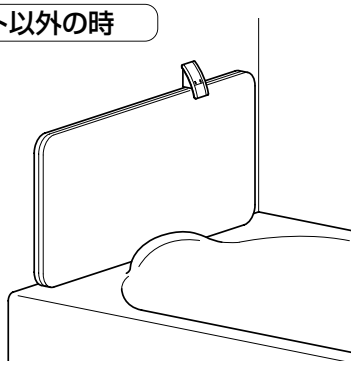


フロフタフック取付

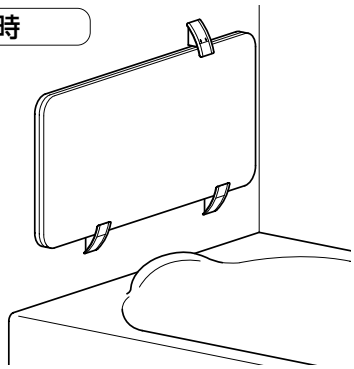
取付け位置は施工図面集参照。

壁裏補強鋼板現場貼付

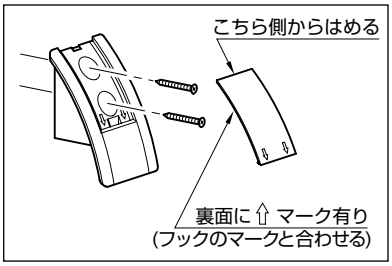
魔法瓶セレクト以外の時



魔法瓶セレクトの時

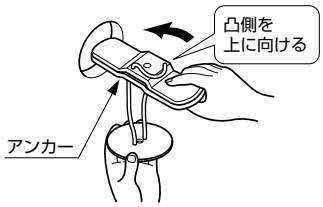


※図は一例です。

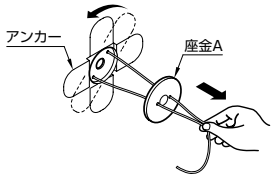


後付インテリアバー

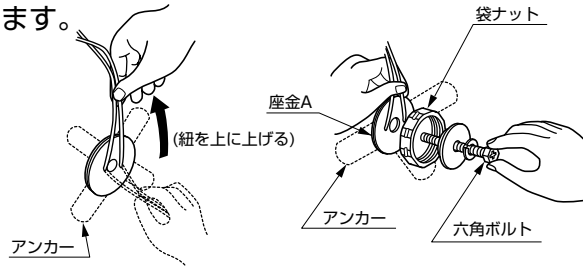
①アンカーを重ねて壁裏に入れる。



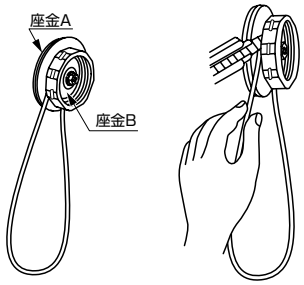
②ひもを強くひっぱって、座金Aの穴とアンカーの穴を合わせる。



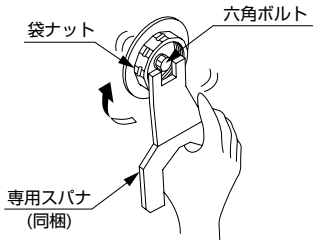
③紐を強く引っ張り、座金Aの穴とアンカーの穴を合わせた後、六角ボルトをアンカーに仮締めします。



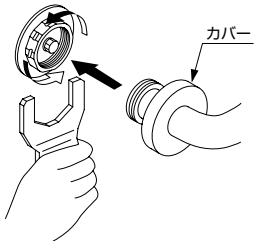
④座金Bと座金Aの間にカッターを差込み、座金Aの近くで紐を1ケ所切り、紐を引抜く。



⑤六角ボルトを本締めし、袋ナットが手で回ることを確認する。



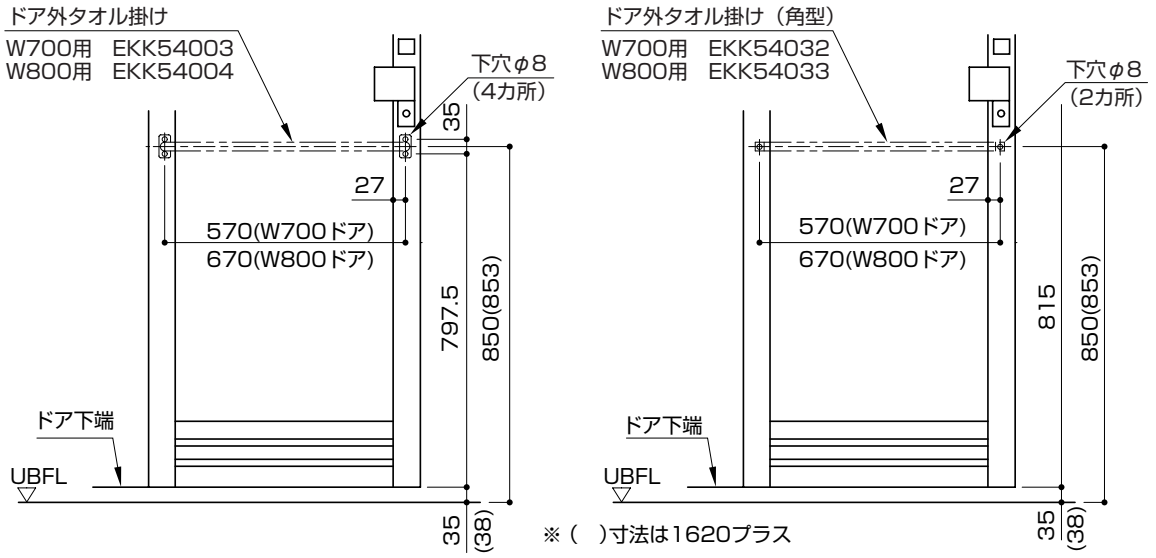
⑥袋ナットを回してバーを本固定してカバーをはめる。



ドア外タオル掛け取付（JPシリーズ）

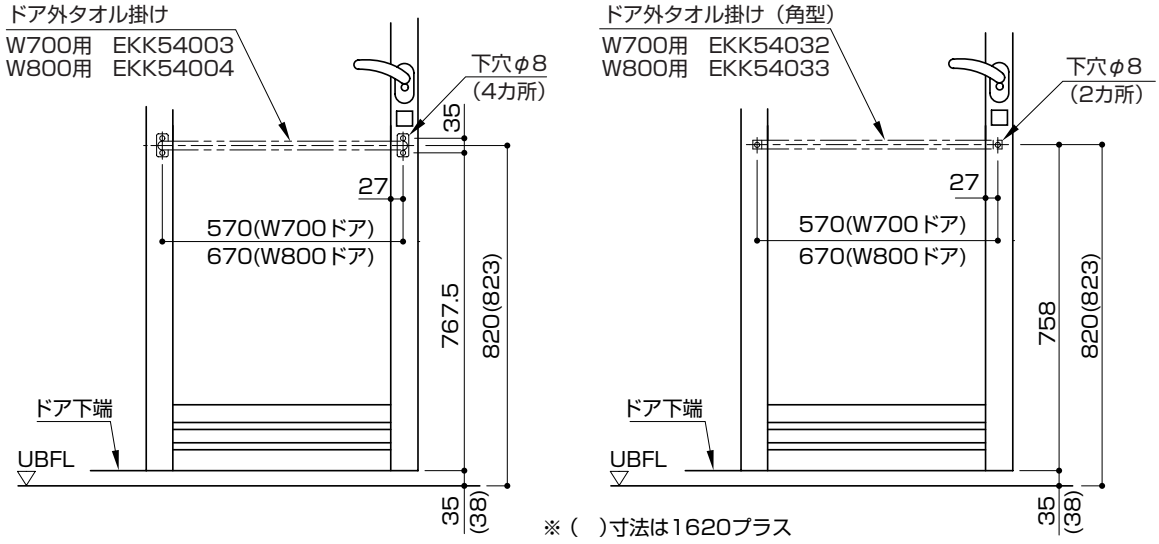
1 脱衣所側下穴開口

【プッシュプル錠の場合】



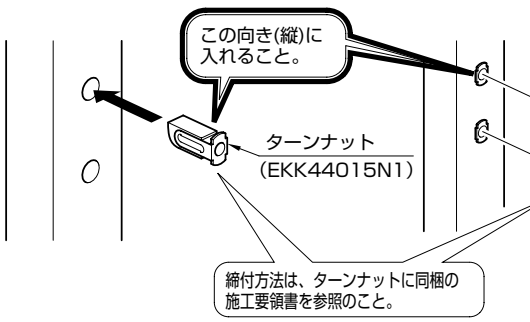
※（ ）寸法は1620プラス

【レバー錠の場合】



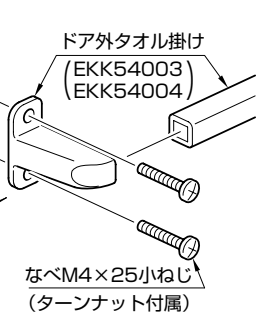
※（ ）寸法は1620プラス

2 ターンナット押し込み



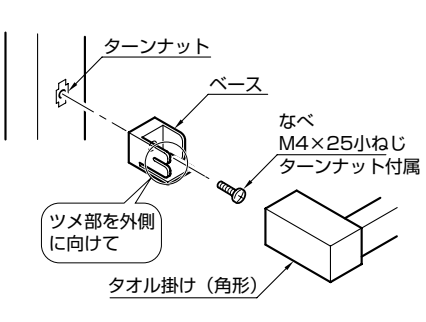
3 タオル掛けの取付

（SUS製の場合）



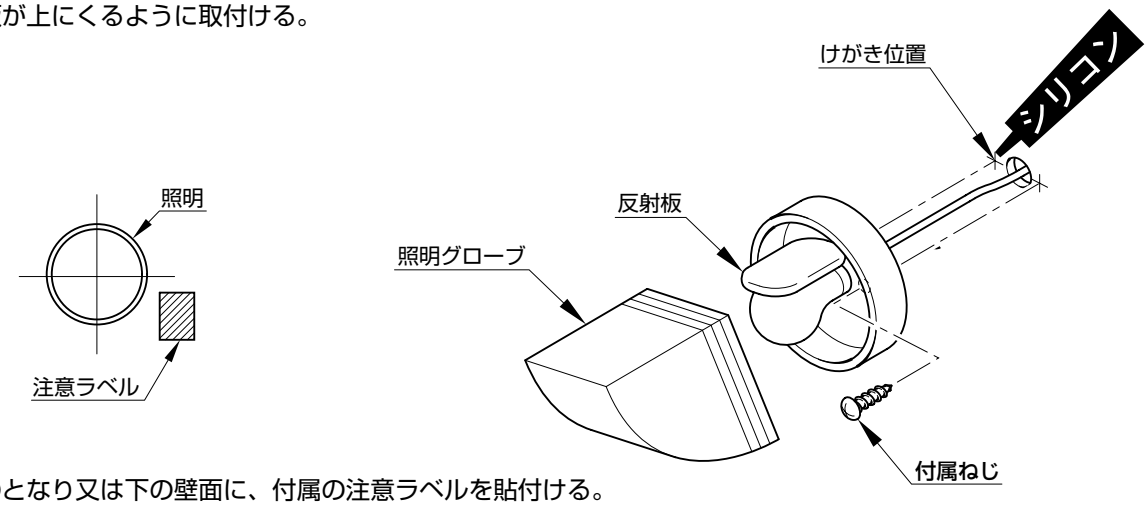
3 タオル掛けの取付

（角形の場合）



照明

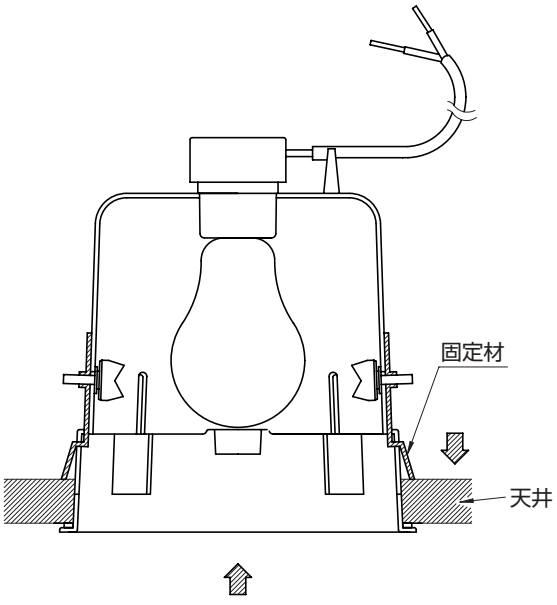
反射板が上にくるように取付ける。



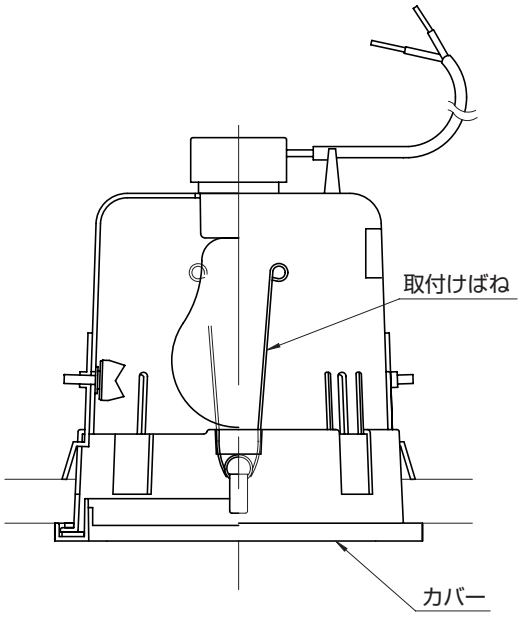
照明のとなり又は下の壁面に、付属の注意ラベルを貼付ける。
注意ラベルは照明2つの場合は洗い場側1ヵ所で可。

ダウンライト

①ダウンライト本体と固定材で天井を挟むように取付ける。

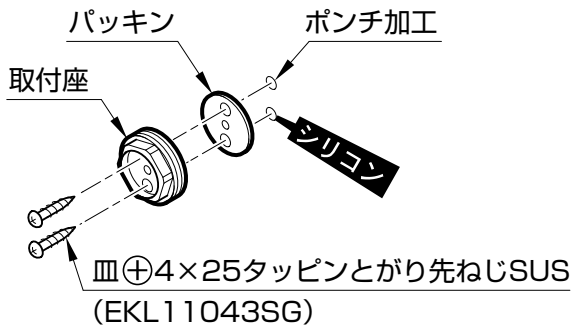


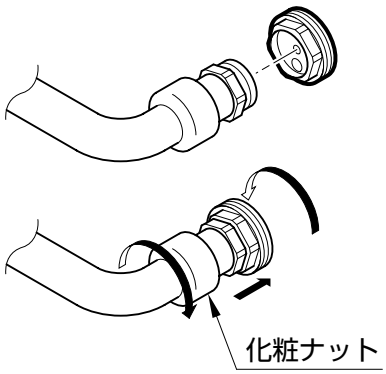
②照明カバー側面にある取付けばねをつまんでダウンライト本体側面の穴に差し込む。照明カバーを押し上げる。



タオル掛け取付

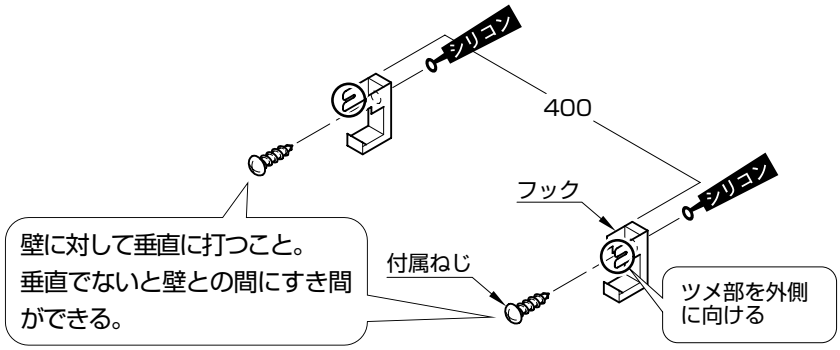
めっきタイプの場合 ※付属ねじ使用不可



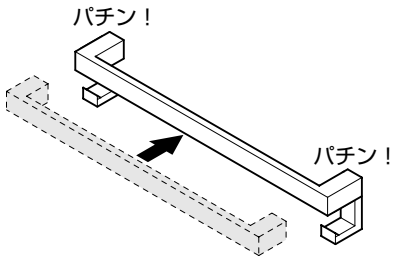


フック付の場合

ポンチ加工にシリコンを充てんし、フックツメ部を外側向きでセットし、ねじにて固定する。

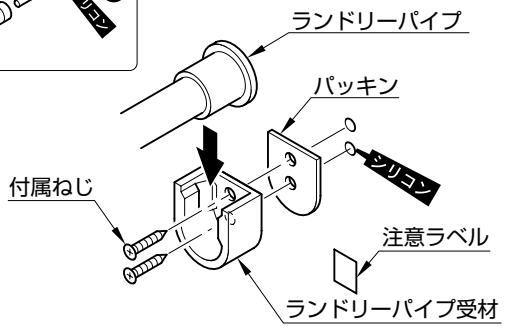


タオル掛けをフックに差し込む。
※パチンと音が鳴るまで差し込む。

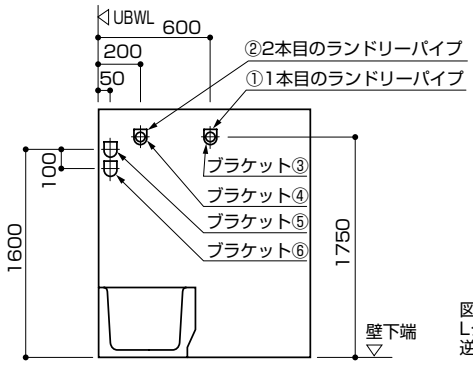


ランドリーパイプ取付

ランドリーパイプ受材を4ヵ所に取付ける。

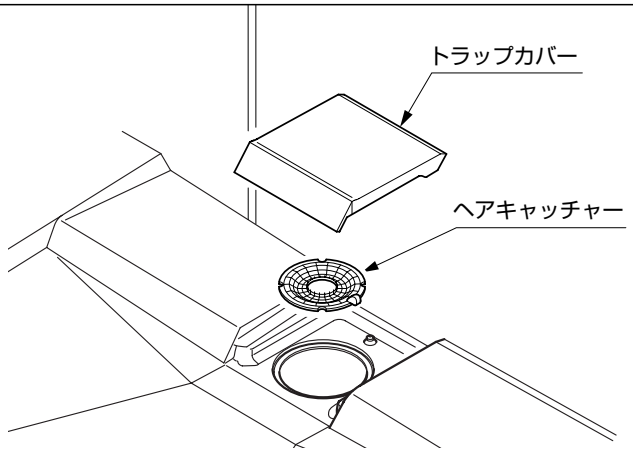


※本図以外の位置に取付けると、乾燥時間が長くなることがあるので注意する。



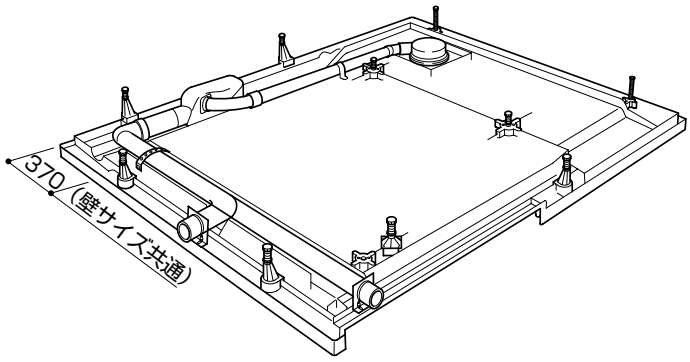
内容		上記対応No.
ランドリーパイプ	ブラケット	
1本	2個	①+③
	4個	①+③+⑤
2本	4個	①+②+③+④
	8個	①+②+③+④+⑤+⑥

トラップカバー・ヘアキャッチャーのセット

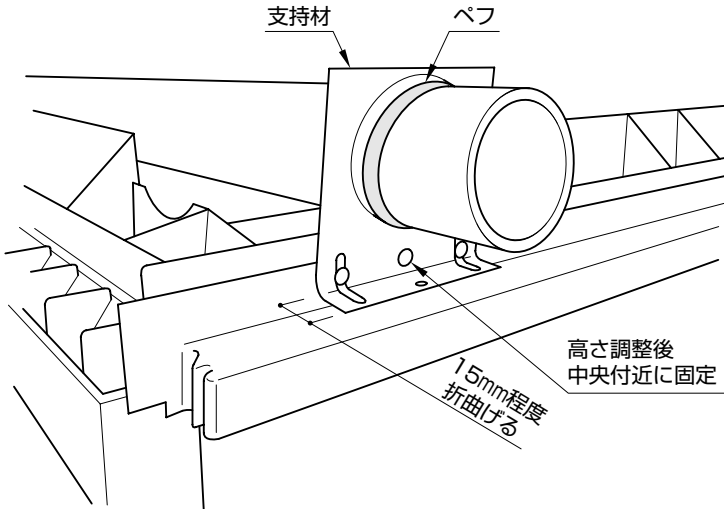


雑排水管取付

1 雑排水管・支持材取付

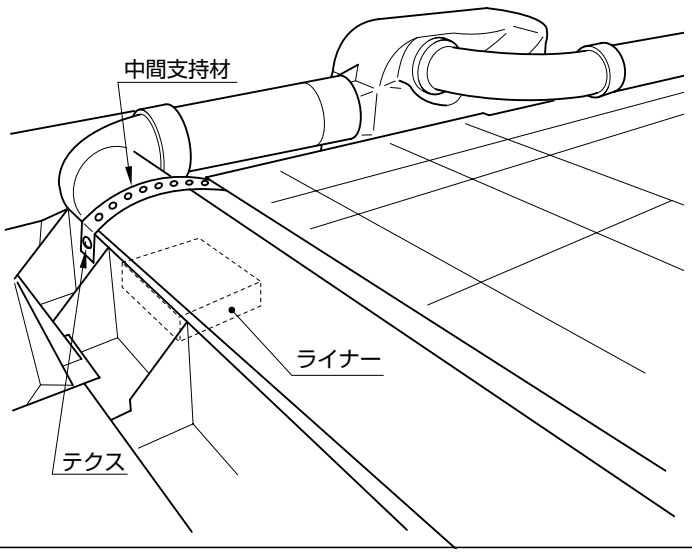


手順と作業内容	注意
①床パンのレベル出し ・床パンを逆さにして、床パン外周のレベルを水平にする。	洗い場面をキズ付けないように養生のこと。
②雑排水管の排水勾配を出す	排水勾配＝1/50

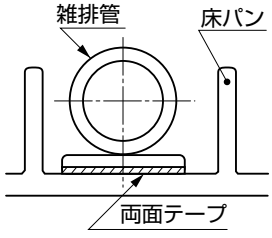


手順と作業内容	注意
③支持材の固定 ・支持材部分の雑排水管には、ペフを二重に巻く。 ・両側の長穴を使用して高さ調整後、中央付近を1ヵ所固定する。	支持材の上部は、15mm程度折曲げて使用する。

2 中間支持材取付け



手順と作業内容	注意
①雑排水管の勾配出し ・雑排水管と床裏面との間にライナーをはさんで雑排水管の勾配を出す。	・排水勾配＝1/50 ・勾配調整後、ライナーを両面テープで床裏面に貼付けること。
②中間支持材の取付け ・中間支持材を床リブに取付け、雑排水管を固定する。（テクス2本止め）	

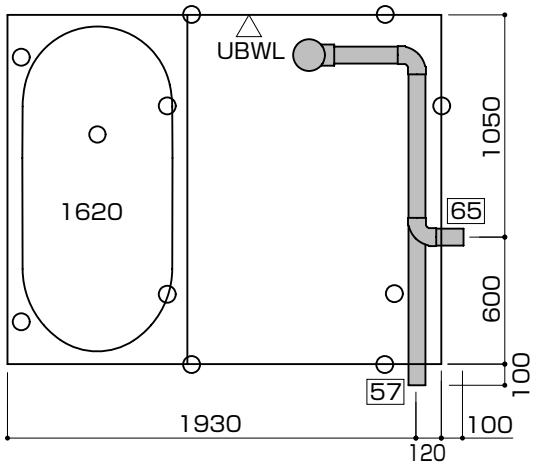


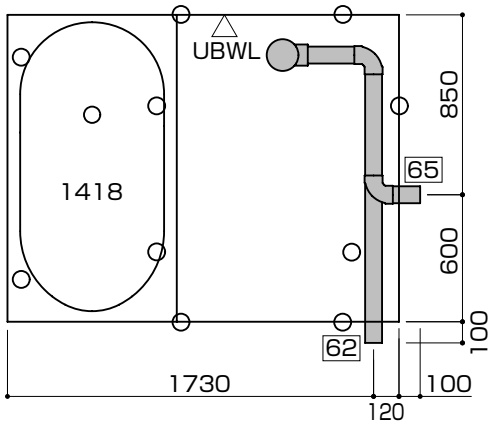
ライナー調整の目安

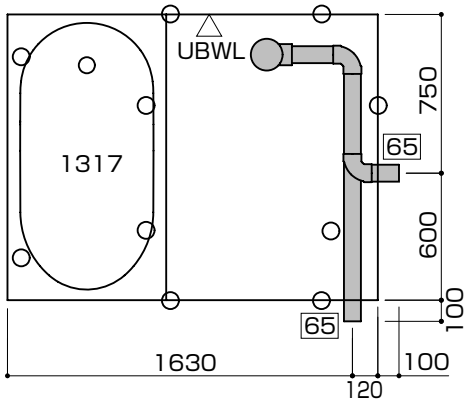
	塩ビ管	耐火被覆塩ビ管
1317	13mm	5mm
1418	14mm	6mm
1620	18mm	11mm

雑排水管経路

雑排水管経路







※1　本図はRタイプを示す。Lタイプは本図の逆勝手となる。
※2　□で囲まれた寸法は、UB据付け面－UBFL＝120mm（1620のみ123mm）の場合の、雑排水管末端芯の高さである。

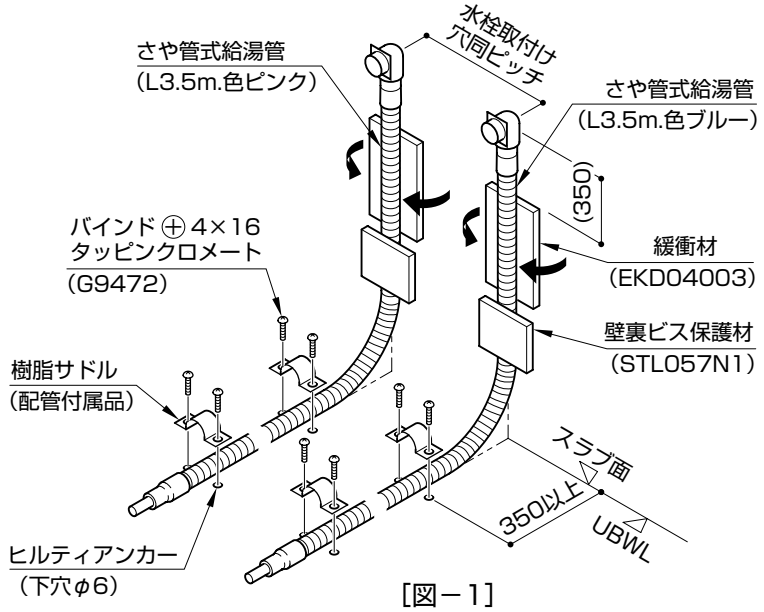
オプション配管（樹脂管）取付

1 給水・給湯管（サヤ管式）取付

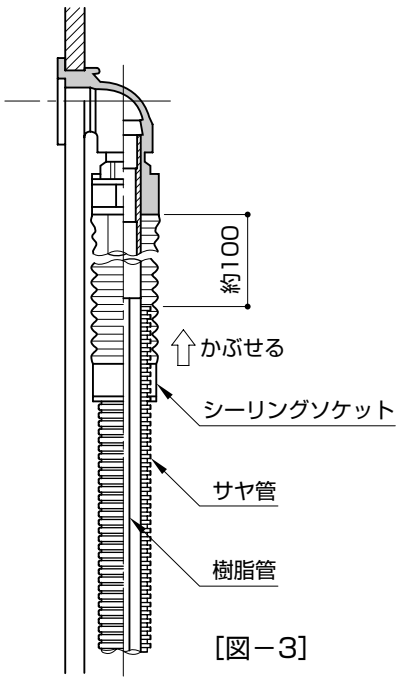
本製品は、（株）ブリヂストン「プッシュロック Ⅱ システム」を採用しています。
配管経路、取出し口、取出し長さを各現場で任意に設定できます。

注意事項（1）
- 樹脂サドルは必ず取付けること－1本に付き4ケ所－。（ウォーターハンマー対策）[図-1]
- 配管の曲げRは、170mm以上とすること。
- 配管は、トラップ並びに床支持脚と干渉しないように固定すること。[図-2]
- 壁裏部分のサヤ管には、緩衝材を巻くこと。（ウォーターハンマー対策）
- 器具等のビスが配管の近くに打たれる場合は、配管を傷つけないように壁裏ビス保護材を壁の裏に貼付けること。

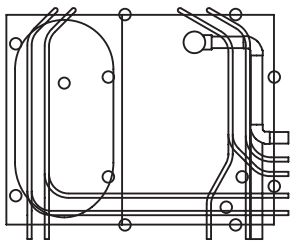
注意事項（2）
① 高さの位置出しの際には、水栓エルボから樹脂管が約100mm程露出するようにサヤ管を設定する。
② 水栓エルボを壁に取付け後、シーリングソケットを水栓エルボまでかぶせて、樹脂管の露出をなくすこと。
[図-3]



[図－1]



[図－3]



[図－2]

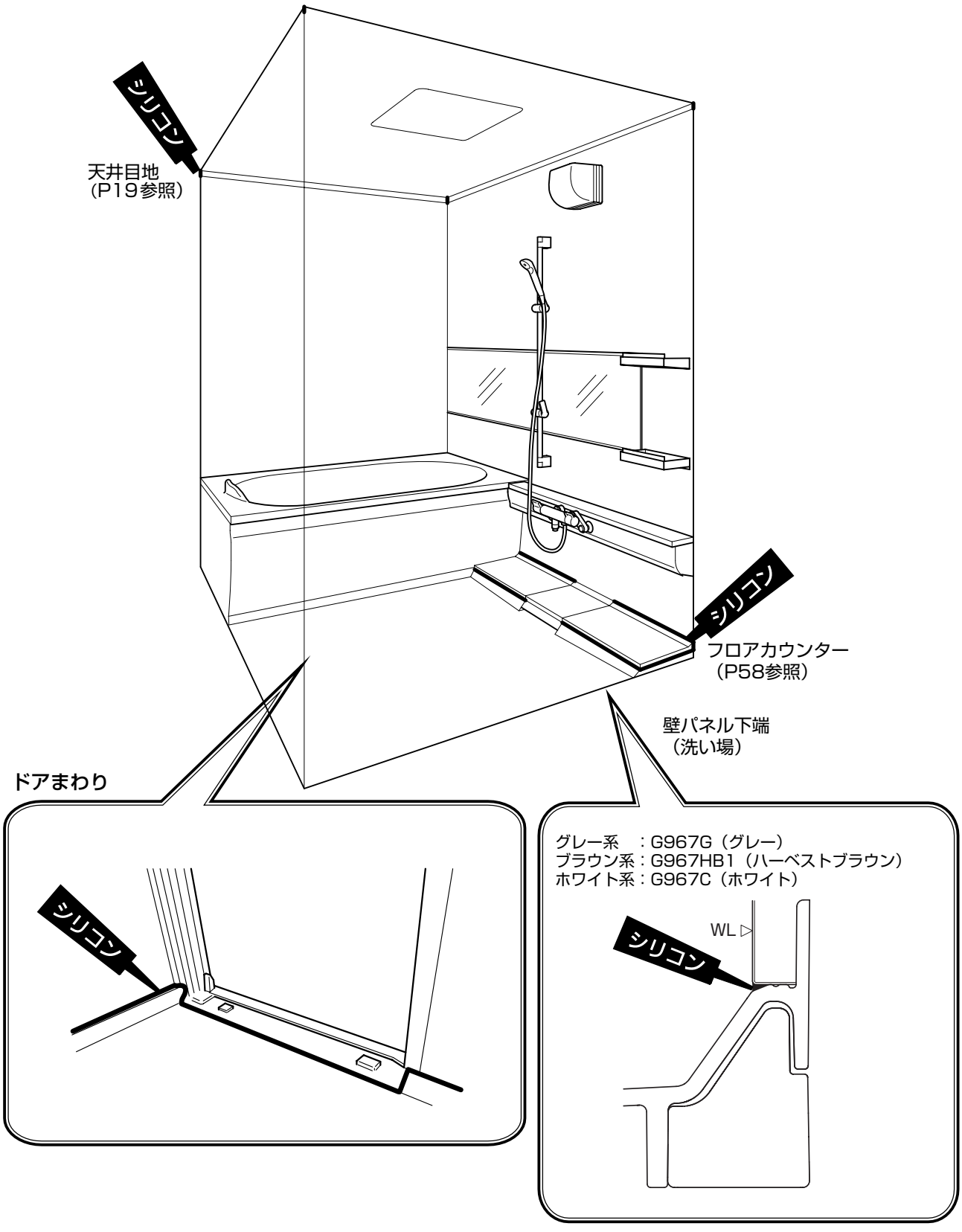
配管経路の一例

注意事項（3）
- 壁の建て込み後にサヤ管にたるみがある場合は、サヤ管の末端で樹脂管のみを引っ張り、たるみをとる。

スムーズな施工のために
- サヤ管を樹脂サドルで固定する際には、「仮固定→位置や長さの確認→本固定」の順番で行う。
- サヤ管は末端側（設備接続側）から仮固定していくと、経路を出しやすい。
- 水栓エルボを壁に取付ける際は、鋼管にねじ切りした治具を用いると、水栓エルボを引き込みやすい。

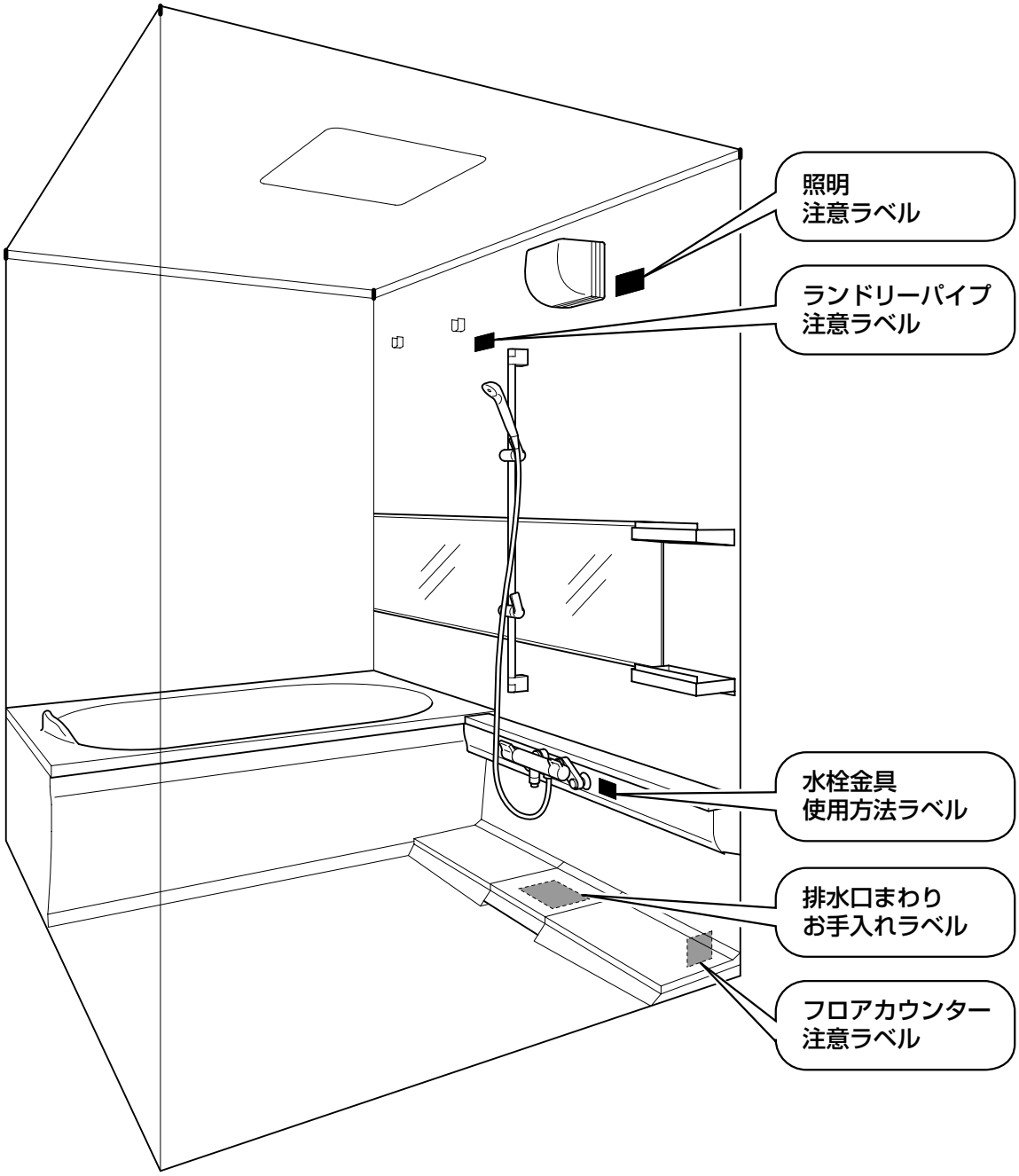
仕上げ（2次コーキング）

① マスキングテープを使用してきれいに仕上げること。



ラベル貼付け位置

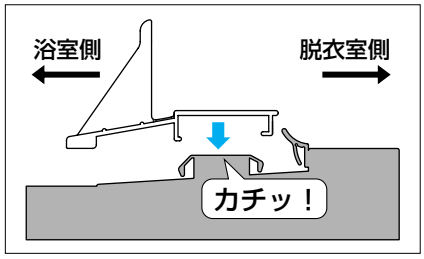
㊟各ラベルは、指定の位置に貼付けのこと。
㊟水栓のラベルは、水栓付近に貼付けのこと。

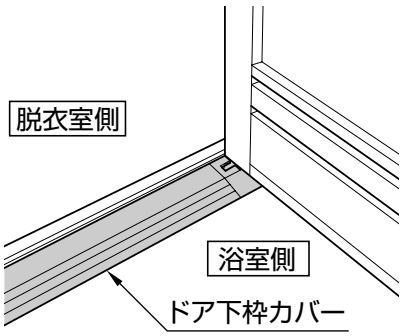


ドア下枠カバー取付

【開き戸、折り戸】

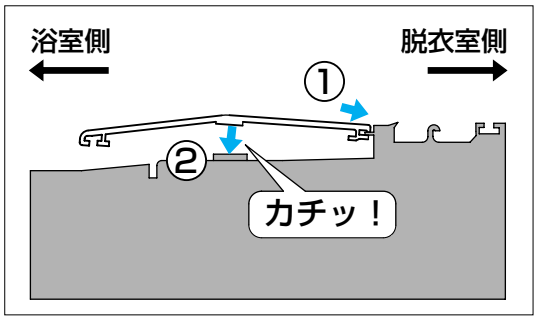
ドア下枠カバーは、図のように取付ける。

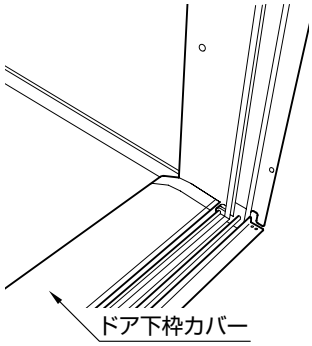




【二枚引戸】

ドア下枠カバーは、図のように①②の順で取付ける。





清掃

汚れはやわらかい布またはスポンジに市販の中性洗剤をつけて洗い落とし、がんこな汚れはアルコールで拭きとる。

- 切断・穴あけの際に飛び散った鉄粉が残っているともらいさびの原因になるので入念に除去すること。
- トラップ内部はゴミがたまりやすいので入念に清掃すること。

清掃の際、下記のものは使わないこと。
(人体へ影響を与えたり、製品に不具合を生じさせるおそれがある。)

- 「酸性」「アルカリ性」の表示の洗剤
- 固形または、粉末の塩素系洗浄剤・漂白剤
- 薬品(塩酸)
- シンナー･アセトンなどの溶剤
- クレンザー
- みがき粉
- ナイロンたわし
- 金属たわし
- サンドペーパーなど

自主検査

①「施工完了報告書」にしたがい、自主検査を行う。
②全て合格になったら「施工店ラベル」を記入して天井点検口ふたの裏に貼付ける。

必ず行うこと。

取扱説明書類について

本体および各器具に同梱の取扱説明書･ご愛用のしおり･保証書等は、大切に保管の上、必ず全て揃えてお客様にお渡しできるようにすること。

廃棄物について

部材を処分する場合は、材質を確認して、許可を受けている処理業者へ依頼するか、破砕の上許可された処理場で処理すること。

MEMO

TOTO